取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

GR Supra

TOYOTA

TOYOTA

GR Supra

TOYOTA

1 備考

1-1. 備考

注意事項.....4

2 クィックリファレンス

2-1. クィックリファレンス

乗車 16
設定と操作..... 21
走行 25

3 操作方法

3-1. 操作方法

運転席まわり 34
車両のセンサー 38
車両の作動状態..... 41
Toyota Supra Command..... 45
一般設定..... 56
個人設定..... 60
接続 65
開閉 72
シート、ドア ミラーおよびステアリング ホイール..... 90
お子様の安全について 104
走行 114
表示 131
ライト 147
安全性 154
ドライビング スタビリティ コントロール..... 188
ドライバー アシスト システム .. 193
走行快適性..... 215
快適な温度調節 216
インテリア..... 224
小物入れ..... 228
ラゲッジ ルーム..... 230

4 ドライブのヒント

4-1. ドライブのヒント

ドライブ時に覚えておきたいこと 236
燃料の節約..... 241

5 メンテナンス

5-1. メンテナンス

給油 246
ホイールとタイヤ..... 248
エンジンルーム..... 270
燃料・油脂類..... 272
メンテナンス..... 280
部品の交換..... 282
いざというときに 292
お手入れ 301

6 参考情報

6-1. 参考情報

メンテナンスデータ 310
認証情報 311

さくいん

五十音順さくいん..... 316

備考 1

1-1. 備考

注意事項.....4

注意事項

本取扱説明書について

手引き

取扱説明書から特定のテーマを調べる場合、50 音検索が適しています。

補足情報

トヨタ販売店

不明な点は、いつでもトヨタ販売店にお問い合わせください。

シンボルと表示

取扱説明書の中のシンボルマーク

シンボル	意味
⚠	お客様ご自身と他者の安全さらに車両の損傷を回避するために守らなければならない警告
♻	環境保護に貢献する措置
「...」	機能を選択するための車内ディスプレイのテキスト
›...‹	スピーチコントロール用のボイス コマンド
››...‹‹	スピーチ コントロールシステムの応答
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

車両部品につけられたシンボル

📖 取扱説明書に詳細情報が記載されていることを示す車両部品のマーク。

車両装備

本書では、全てのモデルについて、またモデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明を行っています。したがってこの取扱説明書には、選択されたオプション装備などの理由により、車両には備わっていない装備や機能についての説明とイラストも含まれています。

このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。

該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

本書の内容について

車両の機能および安全、ならびに品質向上の観点から、道路運送車両法および関連法令に基づき、装備内容は変更される場合があります。

車両の構造、装備および付属品の

仕様変更や改良などにより、本書の内容とお客様の車両が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

車両の仕様説明のために法定速度を超える記載があります。これは高速走行を奨励するものではありません。事故予防のためにも走行時には法定速度を遵守してください。

お客様の安全のために

適切な使用

車両を使用する場合は、以下に注意してください：

- 取扱説明書
- 車両の情報ラベル（はがさないでください）
- 車両のテクニカル データ
- 車両を走行させる国の交通法規および安全基準
- 車検証および法定文書

保証

お客様の車両は、新車で納車時に型式承認が行われた国で定められている運転条件や認可要求を技術的に満たすように設計されています。車両を外国で運転する場合は、運転条件や認可要求が母国と異なることがあります。その場合はお客様の車両を事前にその国で適用される運転条件や認可要求に合わせる必要があります。車両が特定の国の型式承認要求を満たしていない場合、その車両に対する保証申請が無効となる場合があります。詳細はトヨタ販売店にお問い合わせください。

点検整備および修理

車両に採用される素材や高性能電子機器の技術的進歩に伴い、適したメンテナンスや修理の方法が必要になっています。

そのため車両メーカーは、該当する作業をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

メンテナンスや修理などで作業が適切に行われなかった場合は、結果として車両が損傷し、それが原因で安全性が損なわれるおそれがあります。

車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業を行うと、レーダーセンサーなどのコンポーネントの故障や異常を招き、安全性に問題が生じるおそれがあります。

部品およびアクセサリー

お客様ご自身の安全のために、部品およびアクセサリーを使用する場合はメーカーが承認した製品をご使用ください。

トヨタ販売店では、トヨタ純正部品、アクセサリーならびにトヨタの承認する製品、およびそれらに対する適切なアドバイスを提供しております。

これらの製品は、トヨタ車に装着した場合の安全性と機能の有用性についてトヨタが評価したものです。

トヨタはトヨタ純正部品およびア

クセサリーに対して製造物責任を負っています。ただし、メーカーが承認していない部品およびアクセサリーをお客様の車両に装着した場合、その装着または装着方法に起因して発生した問題については、メーカーは一切その責任を負いません。

メーカーでは、お客様の安全を第一に考えています。他社の製品をお客様の車両に装着した場合、装着した部品の安全性を判断できないため、純正品または承認された製品以外を、車両に取り付けることは認めていません。

車両データおよびデータ保護

責任および権利

データに対する責任

車両メーカーは、データ保護ガイドラインまたは法律のもと、車両の使用またはウェブページ、カスタマー サポート、オンラインサービスおよびマーケティングの範囲内で収集された個人データの取扱いに責任を負います。

個人の特定

各車両には、車両特定番号が付けられています。国に応じて車両識別番号やライセンス プレート ナンバー、該当官庁によって車両所有者を特定することができます。さらに、使用している Toyota Supra Connect アカウントなどにより車内で発生したデータでドライバーや車両所有者を特定する方法もあります。

データ保護法

車両利用者は有効なデータ保護法にしたがい、車両メーカーや個人データを取得または取り扱う企業に対して、特定の権利を有します。

車両利用者は、車両利用者の個人データを保存する機関に対して、無償で包括的な情報要求権を有しています。

この機関には以下などが含まれます：

- 車両メーカー
- トヨタ販売店

車両使用者は、どの個人データが保存され、どのような目的で利用され、そのデータの出処はどこなのか情報開示請求することができます。この情報を請求するには、所有または使用証明が必要です。

情報開示請求は、他の企業や機関に転送されたデータに関する情報も含まれます。

車両メーカーのウェブサイトには、適用される個人データの取扱いに関する注意事項が記載されています。この個人データの取扱いに関する注意事項には、データの削除や訂正を行う権利についての情報も含まれています。車両メーカーのインターネットサイトには、メーカー問い合わせ先および個人情報保護責任者の問い合わせ先も記載されています。

車両所有者は、トヨタ販売店でも、車両に保存されているデータを有

料で読み出すことができます。

車両データの読み出しは、法的に決められた車両オンボード診断OBD のソケットを使用して行われます。

データ処理

個人データの収集は、車両メーカーとして顧客または立法機関に対する義務を履行するため、または高品質な製品およびサービスを提供するために必要になる場合があります。

これには、例えば以下が含まれます：

- 車両の販売、整備および修理の範囲内での契約による義務履行。販売プロセスや整備など。
- 車両に関連したデジタルサービスの提供のための契約による義務履行。Toyota Supra Connect など。
- 製品品質の保証、新製品の研究、開発およびサービスプロセスの最適化。
- 直営ディーラーおよび国内の販売会社を含む販売プロセス、サービスプロセスおよび管理プロセスの実行。
- カスタマー サポート。契約精算時など。
- 個人の同意にもとづいた広告に関する通信および市場調査。
- 権利義務の履行。テクニカルキャンペーンに関する情報など。
- 主張された保証請求の処理。

データ収集

収集するデータの種類

状況に応じて、以下の個人データを収集する可能性があります。

■ 連絡先データ

名前、住所、電話番号、E メールアドレス。

■ 個人データ

- 顧客が提出した個人情報。誕生日、学歴、家族構成または職業。
- 身分証明のためのデータ。免許証など。

■ 契約データ

- 顧客番号、契約番号、購入済みオンラインサービス。
- 登録されている支払情報。クレジットカード番号など。

■ 支払能力の表記

- リスクのある取引に関する情報。
- 詐欺または犯罪に関する情報。

■ 興味関心

顧客が提出した興味関心についての情報。お気に入りの製品、趣味、その他個人的な嗜好。

■ ウェブページおよび通信の利用

- ウェブページをどのように利用しているか、メッセージを開いたか、転送したかの情報。
- オンラインサービス、顧客ポータルおよび興味関心ポータルに関するアカウント情報。

■ 取引およびインタラクションデータ

製品およびサービスの購入、カスタマー サポートとのやり取りおよ

び市場調査への参加に関する情報。

■ 自動車メーカーのアプリおよびサービスの利用

モバイル端末機器でのアプリの利用およびオンライン サービスの利用に関する情報。

■ 車両機能および設定に関する項目

車両の機能および設定に関する情報。オンライン サービスの利用時など。

■ 車両に関連するセンサー データおよび利用データ

車両に関連するセンサー データおよび利用データ

- ドライバー アシスタント システム：センサーデータを処理することで、車両の周囲またはドライバーの行動が評価されます。
- 個人設定：車両プロファイルに保存された設定。シート設定など。
- マルチメディア、ナビゲーション システム。目的地など。

データ収集の時点

個人データの収集は、以下の時点で行われることがあります：

- 車両メーカーとの直接のコンタクト時。ウェブページ経由など。
- 製品およびサービスまたは直接の購入に関する情報の要求時。ウェブページまたはアプリなど。
- 直接の購入時。ウェブページなど。
- サービスの直接の購入時。オンライン サービスなど。
- 直接のマーケティング アクションに対する顧客の返答時。個人データが記載される場合。
- 車両、製品、サービスおよびデジタル サービスの利用時。ウェブページ、アプリなど。
- トヨタ販売店による個人データの伝送時。データ保護法の前提条件を満たしている場合。
- 認められた住所情報提供業者による個人データの準備時。データ保護法の前提条件を満たしている場合。
- 車両識別番号を含む車両データの読み出し時およびサービス、整備、修理の間。

車内のデータ

一般事項

車両には電子コントロール ユニットが取り付けられています。電子コントロール ユニットは、車両センサーなどから受信したデータや内部で生成したデータ、交換したデータを処理します。多くのコントロール ユニットは車両の安全機能に必要であり、ドライバー アシスト システムなどのように走行をサポートするものもあります。さらにコントロール ユニットはコンフォート機能またはインフォテイメント機能を実行します。

車両に保存されたデータはいつでも削除することができます。これらのデータを第三者へ転送することは、オンライン サービスの利用の枠組みにおいて個人の希望に基づいてのみ行われます。転送はサービス利用時の希望設定によっ

て異なります。

センサー データ

レーダークルーズコントロールや注意喚起アシスタントなどのドライバー アシスタント システムは、センサー データを処理することで、車両の周囲またはドライバーの行動を評価します。

これには、例えば以下が含まれます：

- 車両とその個別コンポーネントのステータスメッセージ。例えばホイール回転数、ホイール速度、減速、横方向加速度、シート ベルト装着など。
- 周囲の状況、例えば気温、レイン センサーの信号。

データは車内で処理され、通常揮発性です。顧客が同意したサービスの提供のために必要な場合は、作動時間を超えてもなお保存されます。

電子的なコンポーネント

コントロール ユニットや車両キーなどの電子部品は、技術情報を保存するためのコンポーネントを含みます。これは車両状態や部品への負荷、メンテナンスの必要性、イベント、エラーに関する情報を一時的または長期的にメモリーすることができます。

これらの情報は一般に、以下のようなコンポーネント、モジュール、システム、および車両の周囲の状態を記録するものです：

- システム コンポーネントの作動状態、例えば充填レベル、タイヤ空気圧、バッテリー ステータスなど。
- 重要なシステム コンポーネントの機能異常、故障、例えばライトおよびブレーキ。
- エアバッグの作動、ドライビング スタビリティコントロールの作動など、特別な走行状況での車両の反応。
- 車両損傷の状況に関する情報。

これらのデータはコントロール ユニット機能の実行に必要です。さらにこれらのデータは機能不良の検出と解消、車両機能の最適化に使用されます。

これらのデータの大部分は揮発性であり、車両自体でのみ処理されます。一部のデータのみ、状況に応じてイベントまたはディフェクト メモリーに保存されます。

個人設定

シート、エアコンまたはライト調節などのコンフォート機能は走行をより快適にします。この機能の個人設定は、車両プロファイルに保存することができ、他のドライバーによって一時的に設定が変更された場合などに、希望に応じてこれを呼び出すことができます。装備に応じて、このユーザー プロファイルを車両メーカーの安全なデータ システムに保存することができます。車両交換の際に、保存したユーザー プロファイルを他の車両に簡単に適用させることができます。

車両プロファイルに保存された車

両設定は、いつでも変更および削除することができます。

マルチメディアおよびナビゲーション システム

例えばスマートフォンや MP3 プレーヤーを介して、データをさらに車両のエンターテイメントおよび通信システムに送信することができます。送信したデータは車内で処理され、お気に入りの曲を再生したりすることができます。

これは装備に応じて異なります：

- 音楽、映画、写真などのマルチメディア データ、内蔵のマルチメディア システムでの再生用。
- 内蔵のハンズフリー ユニットまたは内蔵のナビゲーション システムと接続して利用されるアドレス帳データ。
- 目的地：ナビゲーション システムが学習した目的地を使用して、装備に応じて自動的にルート案内を開始することができます。
- インターネット サービスの利用に関するデータ。

これらのデータは車両にローカルでメモリーすることができます。あるいはスマートフォン、USB スティック、MP3 プレーヤーなど、車両と接続された機器に入っています。

サービスのデータ

一般事項

例えば修理作業、サービス プロセス、保証、品質保証などでサービス業務が要求される場合、車両からこれらの技術的な情報と車台番号を読み出すことができます。

保存されたデータ

車両の電子コンポーネントには、車両状況、イベントおよびエラーに関する技術情報を保存するデータ メモリーが含まれる場合があります。サービス処置に必要なデータは現地で処理され、処置終了後に自動的に削除されます。情報の読出しはトヨタ販売店で行うことができます。サービスおよび修理作業においては、専用の診断システムを使用してオンボード診断 OBD からデータを読み出し、車両メーカーに伝送します。データの読み出しと転送は拒否することができます。

サービス プロセスの最適化

車両メーカーは、最適なサービスを得られるよう車両のドキュメントを保存します。法的な規則の範囲内で、このドキュメントは専門ワークショップなどの権限を持つ第三者に提供されることがあります。

この権限を持つ第三者はこのデータを、該当するサービスおよび修理作業を行う目的にのみ利用できます。これによって、車両への不必要な二重作業などの実行を防ぎます。

製品品質の保証

このデータは車両の技術的な状態

を記録し、故障の発見や補償義務および品質改善の遵守のために使用されます。

製品品質の保証および新製品開発のため、ライト、ブレーキ、パワー ウィンドウ、ディスプレイなどの個別コンポーネントやシステムの利用に関するデータを読み出すことがあります。これらのデータは、車両メーカーがコンポーネントおよびシステムを最適化するのに役立ちます。データの分析はテクニカルキャンペーンや法的な回収措置のベースにもなります。

さらにメーカーは製造物責任法により製品監視義務を担っています。この義務を果たすために、車両メーカーは車両からの技術的なデータを必要とします。

グッドウィルおよび保証要求

これに加えて、車両からのデータは顧客からの補償および保証要求の調査にも使用されます。グッドウィルまたは保証要求が主張された場合、読みだしたデータは迅速な要求説明のために車両メーカーに伝送されます。

車両のエラーおよびイベント メモリーは、トヨタ販売店において修理またはサービス作業の範囲でリセットすることができます。

データの点検

製品品質の保証やサービス プロセスの最適化を目的とした車両メーカーへのデータ伝送は、希望に応じて差し止めることができます。

データ開示のための法的要求

車両メーカーは、有効な法律の範囲内において、保存されているデータを官庁に提供する義務があります。必要範囲のデータ提供は、犯罪行為の解明など個別のケースで行われます。

国の機関には有効な法規の範囲内で、個別のケースにおいて自身でデータを車両から読み出す権利があります。情報は事故の解明などの場合に、主にエアバッグ コントロール ユニットから読み出されます。

モバイル端末機器

装備に応じて、Toyota Supra Connect などを使用して車両の機能を制御するために、スマートフォンなどのモバイル端末機器を車両と接続することができます。その場合、モバイル端末機器の画像と音声などをマルチメディア システムを介して車両に出力することができます。

同時に、一部の情報がモバイル端末機器に伝送されます。接続方式によって、位置データとその他の一般車両情報などがこれに含まれます。これにより、ナビゲーションや音楽再生など、選択したアプリを最適に利用することができます。その他のデータ処理の方式は、使用される各アプリのプロバイダーによって規定されます。

サービス

一般事項

車両が無線ネットワークを使用する場合、車両と Toyota Supra Connect などのその他のシステム間でのデータ交換が可能となります。

車両メーカーのサービス

車両メーカーのオンライン サービスの場合、各機能の説明は取扱説明書やメーカーのウェブサイトなど適切な個所にあります。そこには、関連するデータ保護法の情報も記載されています。

オンライン サービスを利用する際には、個人に関するデータが使用されることがあります。データ交換は、例えば車両メーカーの専用データシステムとの安全な接続を介して行われます。

サービス提供の範囲を超える個人データの収集、処理、利用は、法律による許可、契約による取決め、またはユーザーの同意に基づいてのみ行われます。

Toyota Supra Connect

Toyota Supra Connect はさまざまなデジタルサービスによって車両のネットワーク化を行います。利用時、車両に保存されており、契約したサービスの提供のために必要なデータのみがオンラインで伝送されます。車両の識別および現在位置特定の情報など。ユーザーとの契約が基礎となります。

個別のケースでは、事前に定義されたイベントによってデータ伝送が行われます。SOS コールなど。無線ネットワークは、車両固有の送受信ユニットにより、または個人的に使用するスマートフォンなどのモバイル端末を介して実現されます。データ伝送は希望に応じて作動解除することができます。

無線ネットワークを介してオンライン機能を利用することができます。これには、車両メーカーまたは他のプロバイダーによって提供されるオンライン サービスやアプリが含まれます。

他のプロバイダーのサービス

他のプロバイダーのオンライン サービスを利用する場合、これらのサービスは該当するプロバイダーの責任ならびにデータ保護および利用条件に従うことになります。車両メーカーはその際、やり取りしたデータに影響を与えません。

第三者のサービス範囲における個人データの収集および処理の方法、範囲、目的についての情報は、該当するプロバイダーにお問い合わせください。

自己判断

各ユーザーは、サービスの契約を結ぶか自分で決定します。Toyota Supra Connect など。データ処理の範囲やコンテンツに関した書面による情報はサービス提供前に

行われ、車両の引き渡し時に行われます。

ユーザーはいつでもサービスを解約し、サービスに必要なデータ処理を差し止めることができます。また、全てのデータ接続をオンまたはオフにすることもできます。ただし SOS コール システムなど、法律で規定された機能は除外されます。

車両データの透明性

CarData は、Toyota Supra Connect 利用時に車両データの取り扱いを明確にすることができます。CarData を介して、Toyota Supra Connect の範囲で処理される車両データを第三者に伝送するかどうか、決定することができます。個別のサービスでは、これによって保険会社などの第三者へのデータ使用許可に同意するか、拒否するか決めることができます。

さらに、いつでも CarData のアーカイブを要求することができます。アーカイブには、Toyota Supra Connect の範囲内で送信され、保存されたデータに関する情報が含まれています。サードパーティのプロバイダーの CarData へのアクセスは、車両メーカーのサーバーを介してのみ行われます。車両およびそのデータへの直接のアクセスは認められません。

CarData に関する詳細な情報は、Toyota Supra Connect ポータルをご覧ください。

車台番号

エンジン ルーム

車台番号はエンジン ルーム内の車両右側にあります。

その他注意事項

警告

車両の改造は、行わないでください。

車を改造したり、トヨタ純正部品およびアクセサリー品、トヨタ社が承認した製品以外の不適切な部品（例：バッテリーや電装品等）を取り付けることにより、思わぬ故障や事故の原因になることがありますので、絶対に行わないでください。トヨタ純正アクセサリー品の詳細については、トヨタ販売店へお問い合せください。

警告

ウィンドウ ガラスにアクセサリー類を取り付けないでください。

ガラス面やルーム ミラーなどにアクセサリーを取り付けると、視界を損なったり、走行中に気をとられたりして思わぬ事故につながる原因になります。また、透明吸盤がレンズの働きをして火災を起こす場合があります。また、ルーム ミラーにワイド ミラーを取り付けると、衝突時にけがをする原因となりますので、おやめください。

警告

車内にライターを放置しないでください。

炎天下で駐車すると車内が高温になり、ライターなどの可燃物が爆発や自然発火を起こす場合があり、たいへん危険です。また、シートなどの可動部分にライターが入り込んだまま放置すると、シートが動いたときに着火して火災を起こすおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

クィックリファレンス

2

2-1. クィックリファレンス

乗車 16
設定と操作 21
走行 25

乗車

運転の前に

点検の実施

エンジンをかける前に、日常点検を実施してください。関連法規により、使用者の責任において日常点検と一年毎の法定定期点検の実施が義務づけられています。点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

警告

燃えやすいものを積まないでください。

燃料を入れた予備タンクや可燃性のカーケア用品、スプレー缶などを積んでいると、万一の場合、引火したり、爆発することがあり危険です。また、密閉された車内など、場所によっては温度が 50 ℃以上になる場合がありますので、車内に炭酸飲料などの容器を放置しないでください。

警告

荷物は確実に固定してください。

車内に不安定な状態で荷物を載せていると、急ブレーキをかけたときなどに荷物が放り出されて乗員にぶつかることがあり、思わぬけがをするおそれがあります。荷物はできるだけラゲッジルームに積み、動かないように固定してください。

警告

運転席の足元にものを放置しないでください。

ブレーキペダルの後ろに異物がはさまってブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなることがあり、非常に危険です。

警告

フロアマットは確実に固定してください。

警告

フロアマットは、この車両専用のトヨタ純正品のみを使用し、付属の固定具で確実に固定してください。清掃等でフロアマットを脱着後も、固定具で確実に固定してから運転をしてください。

固定具の破損などにより確実に固定できないフロアマットを使用すると、フロアマットの位置がずれてアクセルペダルを覆い、フロアマットを介しペダルが誤操作される等、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、フロアマットを重ねて使用することは絶対に止めてください。ペダル操作を妨げるだけでなく、マットが丸まってブレーキペダルが踏み切れなくなるおそれもあり危険です。

警告

排気ガスを吸い込まないように注意してください。

排気ガスには、無色無臭で有毒な一酸化炭素が含まれています。この一酸化炭素は気づかないうちに吸い込んでしまうおそれがあり、最悪の場合、死に至るおそれがあります。密閉されたガレージのように換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

排気管に腐食による亀裂や穴あきがあると、走行中、車内に排気ガスが入ってくるおそれがあります。車内で排気ガスのにおいを感じたときは、ウィンドウを全開にし、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

周囲の安全確認

- 車の周囲には運転席から見えない、死角部分があります。発進する前に、小さなお子様や高さの低い障害物がないか、車のまわりを確かめてください。
- 後退（バック）するとき、十分に後方の視界が見渡せない場合は、車から降りて後方を確かめるようにしてください。

体調のすぐれない時

疲労しているときや、体調がすぐれない時は運転を控えてください。

また、長時間運転するときは適度

に休憩を取るようにしてください。

開閉

電子キーのボタン

1 ロック解除
2 ロック
3 トランクリッドロック解除
4 ホームライト

車両をロック解除する

電子キーのボタンを押します。

設定に応じて、運転席ドアのみ、または全てのドア / リッドがロック解除されます。

運転席ドアのみがロック解除される場合、電子キーのボタンを再び押すと、他の車両ドア / リッドがロック解除されます。

車両をロックする

1 運転席ドアを閉じます。
2 電子キーのボタンを押します。

全てのドア / リッドがロックされます。

ドアロックスイッチ用ボタン

概要

ドアロックスイッチ用ボタン。

ロック

ボタンを押すと、フロントドアが閉じている場合は車両がロックされます。

フューエルリッドは、ロック解除されたままです。

ロック解除

ボタンを押すと車両がロック解除されます。

スマートキーシステム

原理

電子キーを操作しなくても、車両にアクセスすることができます。

電子キーをズボンのポケットなどに入れて携行するだけで十分です。

車両は自動的に、近くの、または

車内の電子キーを検知します。

車両をロック解除する

車両ドアのハンドルを完全に握ります。

車両をロックする

ドアが閉まっている状態で、ドアハンドルの溝の部分に指で約 1 秒間触れます。

トランクリッド

開ける

電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。設定を変更することでドアもロック解除されます(84 ページ参照)。

クローズ

トランクリッドを手動で閉めます。

表示と操作ボタン

ステアリングホイールの周辺

1 ターンインジケーター、ヘッドライト
2 メーターパネル
3 ワイパー
4 ランプスイッチ

表示灯と警告灯

表示灯と警告灯は、異なった組み合わせと色で点灯します。

いくつかの表示灯 / 警告灯は、エンジンをスタートさせたとき、または作動スタンバイをオンにしたときに、機能点検が行われ、短時間点灯します。

運転席ドア

1 ドアミラー
2 パワーウィンドウ
3 ドアロックスイッチ
4 トランクリッドロック解除

スイッチセンター

1 セレクターレバー
2 アイドリングストップキャンセルスイッチ
3 スポーツモードスイッチ
4 パーキングブレーキ
5 Toyota Supra Safety スイッチ
6 VSC OFF スイッチ
7 パーキングアシスタントボタン
8 コントローラー

Toyota Supra Command

原理

Toyota Supra Command は、多数のスイッチ機能を統合したものです。これらの機能はコントローラーと、タッチスクリーンにより操作することができます。

コントローラー

■ コントローラーのボタン

ボタン	機能
MENU	1 回押す：メインメニューを呼び出します。 2 回押す：メインメニューの全てのメニュー項目を表示します。
COM	コミュニケーションメニューを呼び出します。
MEDIA	メディア / ラジオ メニューを呼び出します。
NAV	ナビゲーションの目的地入力メニューを呼び出します。
MAP	ナビゲーションの地図を呼び出します。
BACK	1 回押す：前の画面を呼び出します。 押し続ける：最後に使用したメニューを呼び出します。
OPTION	オプションメニューを呼び出します。

ボイス コマンドを話す

■ スピーチコントロールを作動させる

1 ステアリングのボタンを押します。
2 警告音を待ちます。
3 ボイスコマンドを話します。

コントロールディスプレイのシンボルは、スピーチコントロールシステムが作動していることを示します。

コマンドが使用できない場合があります。その場合は Toyota Supra Command から機能を操作してください。

■ スピーチコントロールを終了する

ステアリングのボタンを押す、または＞キャンセル＜と発話する。

設定と操作

シート、ドアミラーおよびステアリングホイール

手動調節シート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 バックレスト角度
2 高さ
3 前後

電動シート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 バックレスト幅
2 バックレスト角度
3 運転席メモリー
4 前後方向、高さ、シート角度

5 ランバーサポート

電動ドアミラー

1 調節
2 ドアミラーの選択、リバース連動機能（101 ページ参照）
3 折りたたみ

ステアリングの調節

ステアリングホイール調節

1 レバーを下に倒します。
2 シート位置に合わせてステアリングホイールの前後方向と高さを調節します。
3 レバーを元に戻します。

メモリー機能

原理

メモリー機能により、以下の設定を記憶させ、必要に応じて呼び出すことができます：
・ シート位置
・ ドアミラー位置
・ ヘッドアップディスプレイの高さ

登録

1 希望する位置に調節します。
2 運転席の SET ボタンを押します。ボタンの文字が点灯します。
3 文字が点灯している間に、運転席のボタン 1 または 2 の希望する方を押します。ブザーが鳴ります。

シート位置の呼び出し

希望するボタン 1 または 2 を押します。

インフォテインメント

ラジオ

1 エンターテイメントのソースの切換え
2 音声出力オン / オフ、音量
3 プログラマブル ボタン
4 放送局 / トラックの切換え
5 交通情報

ナビゲーションの目的地入力

目的地を入力する

1 「地図」
2 コントローラーを左に傾けます。
3 「目的地入力」
4 「施設」
5 検索の種類を選択します。

「現在地周辺」

「目的地周辺」

「ルート沿い」

「その他の場所」

6 必要に応じて、次のカテゴリーとサブカテゴリーを選択します。

周辺施設のリストが表示されます。

周辺施設をアルファベット順に、または距離の順に並べ替えることができます。

7 周辺施設を選択します。
8 「新規目的地に設定」または必要に応じて目的地に関する更なる機能を選択します。

ルート案内開始

目的地入力の終了後、自動的にルート案内が始まります。

携帯電話を接続する

一般事項

携帯電話を車両と 1 度接続すれば、Toyota Supra Comman、ステアリングのボタン、またはスピーチコントロールよって携帯電話を操作することができます。

携帯電話を Bluetooth で接続します

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 「新規機器接続」
5 さらに携帯電話側の作業手順を実行します。携帯電話の取扱説明書を参照してください：Bluetooth 機器を検索する、接続する、または新しい機器など。

車両の Bluetooth 名が携帯電話のディスプレイに表示されます。車両の

Bluetooth 名を選択します。

6 モバイル機器によっては、コントロール番号が表示されるか、コントロール番号を自ら入力する必要があります。

・ コントロールディスプレイに表示されたコントロール番号と、機器のディスプレイに表示されたコントロール番号を比較します。

機器とコントロール ディスプレイでコントロール番号を確定します。

・ 機器と Toyota Supra Command で同一のコントロール番号を入力して、確定します。

機器が接続され、機器リストに表示されます。

通話する

電話に出る

装備に応じて、さまざまな方法で着信電話を受けることができます。

・ Toyota Supra Command から：「応答」

・ ステアリングのボタンを押します。

・ メーターパネルの選択リストから：ステアリングホイールのダイヤルで選択します：「応答」

番号をダイヤルする

Toyota Supra Command から：

1 「通信 / 電話」

2 「番号ダイヤル」

3 電話番号を入力します。

4 シンボルを選択します。電話機能が割り当てられている携帯電話から接続されます。

サブ電話との接続を確立します：

1 OPTION ボタンを押します。

2 「から電話をかける」

Apple CarPlay の準備

原理

Apple CarPlay は、互換性のある Apple iPhone の特定の機能を Siri スピーチ コントロールおよび Toyota Supra Command で操作できるようにします。

Apple CarPlay の設定方法はナビゲーションシステム取扱書を参照。

走行

走行

走行スタンバイ

走行スタンバイオン

1 ブレーキ ペダルを踏みます。
2 スタート / ストップボタンを押します。

走行スタンバイをオフにする

1 停車している状態で、セレクターレバーをポジション P にします。
2 スタート / ストップボタンを押します。エンジンがオフになります。
3 パーキングブレーキをかけます。

アイドリングストップ

燃料を節約するため、アイドリングストップ機能は停車中にエンジンを自動的に停止します。発進するときに、次の条件が満たされていればエンジンが自動的に始動します：

・ ブレーキ ペダルを解除する。

パーキング ブレーキ

ブレーキをかける

スイッチを引き上げます。LED と表示灯が点灯します。

解除する

走行スタンバイがオンになっている場合：ブレーキを踏む、またはセレクターレバーをポジション P にして、スイッチを押します。

LED と表示灯が消えます。

パーキングブレーキが解除されている。

オートマチックトランスミッション

セレクターレバーをポジション D、N、R にシフトする

・ D ドライブ ポジション
・ N ニュートラル
・ R 後退

運転席シートベルトが着用されている場合、セレクターレバーを希

望する方向に軽く押し、必要な場合は軽く止まる位置を越えるまで押します。セレクターレバーはそれぞれ、中央位置に戻ります。

ギアがポジション D またはリバースギアに入っている場合は車両が動き出しますので、発進するまでの間はブレーキを踏んでいてください。

セレクターレバーロックは、セレクターレバーポジション R への間違ったシフトまたはセレクターレバーポジション P からの間違ったシフトを防止するためのものです。

必ず停車している状態で、セレクターレバーをポジション R にします。

セレクターレバーロックの解除

ボタンを押します。

P 位置にシフトする

必ず停車している状態で、セレクターレバーをポジション P にします。

P ボタンを押します。

オートマチックトランスミッション、マニュアルモード

マニュアルモードをオンにする：

セレクターレバーをセレクターレバー ポジション D から出して、左に押します。

マニュアルモード：
- シフトダウン：セレクターレバーを前に押します。
- シフトアップ：セレクターレバーを後方に引きます。

マニュアルモードを終了する：

セレクターレバーを右に押します。

ヘッドライト、ハイビーム、方向指示灯

ヘッドライト、ハイビーム

レバーを前に押すか、後ろに引きます。

- ヘッドライトハイビームオン（矢印 1）。ヘッドライトハイビームは、ロー ビームがオンのときに点灯します。
- ヘッドライトオフ / ハイビームオン（矢印 2）。

方向指示灯

1 右折

2 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 3 回点滅します。

3 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 3 回点滅します。

4 左折

ライトと照明

ライト機能

シンボル	機能
	リアフォグ ライト
OFF	ライトオフ、デイタイムランニングライト
	スモールライト
AUTO	オート ライト コントロール、アダプティブ ライト機能
	ロービーム
	メーターパネル照明
	パーキングライト（右）
	パーキングライト（左）

ワイパー

ワイパーは作動スタンバイがオンのときに作動します。

ワイパーのオン / オフ、ワンタッチワイパー

■ オンにする

レバーを、希望する位置になるまで上方に押します。

- ワイパーの停止位置：位置 **0**
- レインセンサー：位置 **1**
- 標準作動：位置 **2**
- 高速作動：位置 **3**

■ ワンタッチワイパーとスイッチオフ

レバーを下に押します。

- オフ：レバーを、基本位置（位置 **0**）になるまで下に押します。
- ワンタッチ ワイパー：レバーを基本位置（位置 **0**）から下に押します。

レインセンサー

作動させる / 作動解除する

作動させる：レバーを基本位置から 1 回上方（位置 **1**）に押します。

作動解除する：レバーを押して基本位置（位置 **0**）に戻します。

■ 感度を調節する

ワイパーレバーのダイヤルを回してください。

フロントガラスを洗浄する

ワイパーレバーを引きます。

オートエアコン

ボタン	機能
	温度
	内気循環機能
	最大冷房
	AUTO プログラム
	送風口の手動調節
	オフ
	フロントウィンドウの結露と曇りを取り除きます。
	リアデフォッガー
	シートヒーター

ボタン	機能
	エアコンモード
	風量の手動調節

給油

給油

給油口

1 フューエル リッドを開くには、フューエルリッドの後端を軽く押します。

2 フューエルキャップを反時計回りに回します。

3 フューエルキャップは、フューエルリッド裏のホルダーに差し込みます。

ガソリン

最適な燃費を得るために、ガソリンは無硫黄または硫黄分の少ないものを使用してください。

給油機に金属添加物の表示のある燃料を使用しないでくださ

い。→P.272

ホイールとタイヤ

タイヤ空気圧の記載

タイヤ空気圧規定値はドア ピラーのタイヤ空気圧ラベルに記されています。

タイヤ空気圧の調整後

タイヤ空気圧警報（TPM）の場合：

修正されたタイヤ空気圧が自動的に適用されます。タイヤ設定が正しく行われているか確認してください。

コントロールディスプレイでタイヤ空気圧規定値を確認することができないタイヤの場合、タイヤ空気圧警報（TPM）のリセットを行います。

タイヤ空気圧の点検

定期的に点検し、必要に応じて調整する：

・ 最低でも月 2 回
・ 長距離ドライブの前

電子的なオイル計測

機能の前提条件

最新の計測値は、約 30 分の通常走行後に提供されます。

エンジンオイル レベルの表示

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「エンジンオイルレベル」

エンジンオイルレベルに応じて、コントロールディスプレイに異なるメッセージが表示されます。これらのメッセージに注意してください。

エンジンオイルの補給

一般事項

エンジンオイルを補給する前に、車両を確実に停止し、走行スタンバイをオフにします。

補給

エンジンオイルは、メーターパネルにメッセージが表示されてから

補給してください。

通知の補充量に注意します。

過剰な量のエンジンオイルを充填しないように注意します。

推奨エンジンオイルを確認します。（276 ページ参照）

いざというときに

ハザードフラッシャー

ボタンはセンターコンソールにあります。

ロードサイドアシスト

車両トラブルが発生したとき、JAF ヘレッカーなどの救援車両を手配するサービスです。

※ 上記サービス利用にかかる　料金はお客様のご負担となります。

詳細はナビゲーションシステム取扱書を参照。

走行の後に

駐車するとき

車から離れるときは、エンジンを止め、パーキングブレーキをかけ、ドアを施錠してください。

迷惑駐車にならない安全な場所に駐車し、セレクターレバーを“P”（パーキング）にシフトしてから、エンジンを止めます。

警告

仮眠するときは、エンジンを止めてください。

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車し、エンジンを止めて、なるべく助手席で仮眠してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にアクセル ペダルを踏み込んだり、セレクターレバーを動かして思わぬ事故の原因になります。また、停車中にエンジンを長時間空ぶかしすると、排気管やエンジンが過熱して火災を起こす場合があります。

警告

駐停車するときは、燃えやすいものに注意してください。

警告

周囲に燃えやすいもの（枯れ草、落ち葉、芝、紙くず、油など）がある場所には駐停車しないでください。排気管に燃えやすいものが触れたり、排気熱で火災の原因となるおそれがあります。

操作方法 3

3-1. 操作方法

運転席まわり 34
車両のセンサー 38
車両の作動状態 41
Toyota Supra Command 45
一般設定 56
個人設定 60
接続 65
開閉 72
シート、ドア ミラーおよびステアリング ホイール 90
お子様の安全について 104
走行 114
表示 131
ライト 147
安全性 154
ドライビング スタビリティ コントロール 188
ドライバー アシスト システム 193
走行快適性 215
快適な温度調節 216
インテリア 224
小物入れ 228
ラゲッジ ルーム 230

運転席まわり

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

ステアリングホイールの周辺

1 ドアロックスイッチ

ロック解除 P.80

ロック P.79

2 パワーウィンドウ P.88

3 ドアミラーの操作 P.99

4 ライト

リアフォグライト P.152

OFF ライトオフ

デイタイムランニングライト P.149

スモールライト P.148

AUTO オートライトコントロール P.147
アダプティブライト機能 P.149
オートマチックハイビーム P.150

ロービーム P.148

メーターパネル照明 P.153

パーキングライト、右 P.149

パーキングライト、左 P.149

5 ステアリングコラムレバー－右側

ワイパー P.120

AUTO レインセンサー P.121

フロントウィンドウを清掃する P.122

6 パドルスイッチ P.127

7 ステアリングホイールの右側のボタン

MODE 選択リスト P.139

音量、ナビゲーションシステム取扱書を参照

スピーチコントロールシステム P.53

電話、ナビゲーションシステム取扱書を参照
選択リスト用ダイヤル P.139

8 メーターパネル P.131

9 ステアリングホイールの左側のボタン

LIM マニュアルスピードリミッター P.193

レーダークルーズコントロールオン / オフ P.195

SET クルーズコントロール：速度の記憶 P.195

RES CNCL レーダークルーズコントロールを中断する / レーダークルーズコントロールを続行する P.195

レーダークルーズコントロール：車間距離を増やす / 車間距離を狭める P.195
レーダークルーズコントロール用ダイヤル

10 パドルスイッチ P.127

11 ステアリングコラムレバー－左側

R L ターンインジケーター P.119

ヘッドライト、パッシング ライト P.120

オートマチックハイビーム P.150

BC 走行データ P.140

12 ステアリング調節 P.101

13 ホーン、全面

14 ボンネットロック解除 P.271

15 トランクリッドロック解除 P.75

センターコンソールの周辺

1 コントロールディスプレイ P.47

2 ハザードフラッシャー P.295

3 送風口 P.221

4 グローブボックス P.228

5 ラジオ / マルチメディアについては、ナビゲーションシステム取扱書を参照

6 オートエアコン P.216

7 コントローラーとボタン P.47

8 SPORT スポーツモードスイッチ P.129
走行モード SPORT

SAFETY SYSTEM Toyota Supra SafetyP.166

OFF アイドリングストップ P.114
クリアランスソナー P.203,

リアビューカメラ P.209

リヤクロストラフィックアラー

ト P.212

ビークルスタビリティコントロール（VSC）P.189

9 パーキングブレーキ P.117

10 オートマチックトランスミッションセレクターレバー P.124

11 START STOP ENGINE 走行スタンバイをオン / オフにする P.114

ルーフ内張りの周辺

1 助手席エアバッグの表示灯 P.165

2 リーディング ライト P.153

3 ルームライト P.153

4 SOS コール、ナビゲーションシステム取扱書を参照

車両のセンサー

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

概要

装備に応じて、以下のカメラとセンサーが車両に取り付けられています：

- フロント ウィンドウの裏のカメラ
- リア ビュー カメラ
- フロント レーダー センサー
- リア サイド レーダー センサー
- フロント / リア バンパー内の超音波センサー

車両のカメラとセンサー付近は清潔に保ち、遮るものがないようにしてください。

カメラ

フロント ウィンドウの裏のカメラ

カメラはルーム ミラー付近に取り付けられています。

リア ビュー カメラ

カメラのレンズは、ライセンスプレートランプの近くにあります。

カメラのシステム限界

次のような状況では、カメラの機能が制限されたり、誤作動を起こす場合があります：

- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急勾配の上りや下り、狭いカーブの走行
- カメラの検知範囲がフロント ウィンドウのくもりやステッ

カーなどで覆われている場合
・ カメラのレンズが汚れている、または損傷している場合
・ 低い位置にある太陽などにより、逆光が強いまたは反射が強い場合
・ 暗がり
・ フロント ウィンドウの裏のカメラ：高温のためにカメラが過熱し、一時的にオフになっている場合
・ フロント ウィンドウの裏のカメラ：納車直後でカメラが校正されている間

システムが故障すると、必要に応じてチェックコントロール メッセージが表示されます。

レーダー センサー

フロント レーダー センサー

レーダー センサーはフロント バンパー内にあります。

リア サイド レーダー センサー

レーダー センサーはリア バンパー内にあります。

レーダー センサーのシステム限界

以下のような状況では、レーダー センサーの機能が制限されたり、使用することができないことがあります：
・ 氷結などによりセンサーが汚れている場合
・ ステッカー、フィルム、ライセンス プレート ホルダーなどでセンサーが覆われている場合
・ 駐車時の損傷などが原因でセンサーが正しく調整されていない場合
・ 突き出ている荷物などでセンサーの放射範囲が覆われている場合
・ ガレージ壁、生け垣、雪溜めなどでセンサーの検知範囲が隠れている場合
・ センサー付近の車両塗装に対して不適切な作業が行われた後
・ 急勾配の上りや下り

システムが故障すると、必要に応じてチェックコントロール メッセージが表示されます。

超音波センサー

フロント / リア バンパー内の超音波センサー

クリアランスソナーの超音波センサーはバンパー内にあります。

超音波センサーのシステム限界

以下のような状況では、物理的限界により、超音波測定で物体を検知できないことがあります：

- センサーが汚れている場合
- ステッカーなどでセンサーが覆われている場合
- 駐車時の損傷などが原因でセンサーが正しく調整されていない場合
- センサー付近の車両塗装に対して不適切な作業が行われた後
- 小さい子供や動物の場合
- コートなどの特定の衣服を着用している歩行者
- 横を通り過ぎる車両や音のやかましい機械、他の超音波源などにより、超音波が外的干渉を受ける場合
- 高い湿度、降雨、降雪、低温、異常高温、激しい風など、特定の気象条件の場合
- 他の車両のけん引バーとけん引フック
- 薄い物体またはくさび形の物体
- 動く物体
- 高い位置で突出した物体、例えば壁の盛り上がりなどの場合
- 角があり、先が尖り、表面がつるつるした物体
- 細かい表面や構造を持った物体、例えば垣根などの場合
- 表面に穴がたくさんあいている物体
- 小さくて低い物体の場合、箱など
- 柔らかい障害物またはスポンジ材で覆われた障害物の場合
- 植物や茂みの場合
- 自動洗車機に入れる場合
- 例えば速度を抑制するために施された不均一な路面
- 排気ガスがひどい場合
- 車両から飛び出している荷物は、超音波センサーでは考慮されません

システムが故障すると、必要に応じてチェックコントロール メッセージが表示されます。

車両の作動状態

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

一般事項

状況に応じて、車両は次の 3 つの状態のいずれかになります：

- 停止状態
- 作動スタンバイ
- 走行スタンバイ

停止状態

原理

車両が停止状態のとき、多くの電装品はオフになっています。

一般事項

外側から開ける前、またはロックして車両を離れた後、車両は停止状態になっています。

安全に関する注意事項

警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

車両から離れない

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- パーキングブレーキをかけます。
- 上り坂または下り坂では、フロントホイールを縁石の方向に向けます。
- 上り坂または下り坂では、例えば輪止めなどで車両を補助的に固定してください。

警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- スタート / ストップボタンが押される
- パーキングブレーキの解除
- ドアやウィンドウの開閉
- セレクターレバーがポジション N に入る
- 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

停止状態、自動

例えば以下の条件で自動的に停止状態に切り換わります：

- 車両で操作がまったく行われずに数分が経過した後
- 車両バッテリーの充電状態が低い場合
- Toyota Supra Command での設定に応じて、走行後に車両から離れる際に、片方または両方のフロント ドアを開いた場合

電話中やロービームがオンになっている状態など、多くの状況では、自動的に停止状態に切り換わることはありません。

フロントドアを開けるときに停止状態を確立する

走行後、フロントドアを開くことによって待機状態にすることができます。このためには、ドライバーと助手席乗員が車両から離れる必要があります。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ドア / キー」
4 「ドア開時に車両電源オフ」

停止状態、手動

走行終了後に車両で停止状態を確立する：

メーターパネルの OFF 表示が消えるまでボタンを押し続けます。

作動スタンバイ

原理

作動スタンバイがオンの場合は、停止時にほとんどの機能を操作できます。希望の設定を行うことができます。

一般事項

フロントドアを外側から開けた後、車両は作動スタンバイになります。

作動可能状態 手動

一般事項

作動可能状態は、スリープモードが自動確立された後に再びオンにすることができます。

ラジオのボタンから

ラジオのボタンを押します。コントロールディスプレイとメーター パネルが点灯します。

スタート / ストップボタンから

スタート / ストップボタンを押します。コントロールディスプレイとメーターパネルが点灯します。

メーターパネル内の表示

メーターパネルにOFF が表示されます。ドライブトレインがオフで、作動スタンバイがオンの状態です。

走行スタンバイ

原理

走行スタンバイのオンはエンジンスタートに相当します。

一般事項

ビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロールVSC などのいくつかの機能は走行スタンバイオン時にのみ操作できます。

安全に関する注意事項

警告

エキゾーストパイプが塞がれている場合や換気が十分でない場合は、有害な排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。排気ガスは無色で無臭の有害物質を含んでいます。閉じられた空間では、車両の外側にも排気ガスが溜まるおそれがあります。事故の危険があります。エキゾーストパイプが塞がれないよう、また十分に換気するように注意してください。

警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

車両から離れない

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- パーキングブレーキをかけます。
- 上り坂または下り坂では、フロントホイールを縁石の方向に向けます。
- 上り坂または下り坂では、例えば輪止めなどで車両を補助的に固定してください。

警告

ペダルを踏み間違えると、車両の思わぬ動作につながるおそれがあります。事故の危険があります。エンジンスタート後、ブレーキとアクセルを踏み間違えないよう、ペダルの位置を十分確認してください。

警告

車内で仮眠をすると、無意識にアクセルを踏み込んだり、セレクターレバーを動かしたりするおそれがあります。火災や事故の危険があります。車内で仮眠しないでください。

注意

スタートを繰り返し試みた場合や短時間のうちに連続して何度もスタートさせた場合、スターターが異常過熱することがあります。さらに、燃料が燃焼しない、または不完全燃焼することで、キャタライザーが異常過熱、または損傷が発生するおそれがあります。短時間のうちに連続してスタートを繰り返すことは避けてください。

走行スタンバイオン

原理

走行スタンバイはスタート / ストップボタンによりオンになります：

オートマチックトランスミッション

1 ブレーキペダルを踏みます。
2 スタート / ストップボタンを押します。

始動は、短時間自動的に行われ、エンジンがかかると終了します。

メーターパネル内の大部分の表示灯や警告灯が、異なった長さで点灯します。

ガソリンエンジン

エンジン仕様によっては、エンジン始動後にフル駆動力が提供され、全回転数範囲に達するまで約 30 秒かかる場合があります。この場合、車両は通常通りに加速しません。(P.136 ページ参照)

メーターパネル内の表示

メーターパネルの文字 READY は、走行スタンバイがオンの状態であることを示します。

走行スタンバイをオフにする

1 停車している状態で、セレクターレバーをポジション P にします。
2 スタート / ストップボタンを押します。エンジンがオフになります。車両は作動スタンバイに切り換わります。
3 パーキングブレーキをかけます。

Toyota Supra Command

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

操作コンセプト

原理

Toyota Supra Command は、多数のスイッチ機能を統合したものです。

一般事項

機能は、以下のように操作することができます：

- コントローラーにより。
- タッチスクリーンにより。
- スピーチコントロールシステムにより。

安全に関する注意事項

警告

走行中に統合インフォメーション システムおよび通信機器を操作すると、交通状況から注意がそれるおそれや、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。システムや装置の操作は、交通状況が許す場合にのみ行ってください。必要な場合は車両を止め、停止状態でシステムや装置を操作してください。

入力と表示

文字と記号

目的地入力などでは、文字と記号を選択することができます。

文字と記号はコントローラーにより、またタッチスクリーンまたはスピーチ コントロール システムにより入力することができます。その場合、キーボードの表示は自動的に変更されます。

シンボル	機能
	文字を切換える機能です。
	スペースを挿入します。
	スピーチ コントロールを使用します。
OK	入力を確定します。

入力比較

名前と住所の入力の場合は、文字を入力するにつれて、徐々に選択が絞られ、場合によっては完全に

入力されます。

入力は、車両に保存されているデータと連続的に比較されます。

- 入力時には、データがある文字のみが表示されます。
- 目的地検索：Toyota Supra Command で使用可能な全ての言語で、場所の名前を入力することができます

機能を作動させる / 作動解除する

いくつかのメニュー項目の前にチェックボックスが表示されます。このチェックボックスは、機能が作動しているか、または作動解除されているかを示します。メニュー項目の選択により、機能が作動または作動解除されます。

☑ 機能が作動しています。

☐ 機能が作動解除されています。

ステータス情報

■ 一般事項

コントロール ディスプレイの上部領域にステータス バーがあります。ステータス情報はシンボルで表示されます。

■ 電話シンボル

シンボル	意味
	電話を受ける / かける
	不在着信
	モバイルネットワークの受信感度
	ネットワーク サーチ
	モバイルネットワークが利用できない
	携帯電話の充電量が残りわずかである
	ローミングが作動中
	新着 SMS あり
	新着メッセージあり
	リマインダー
	送信ができない
	連絡先をロードする

■ エンターテイメントシンボル

シンボル	意味
	Bluetooth オーディオ
	USB/ オーディオ インターフェース
	無線 LAN(WLAN)

■ その他のシンボル

シンボル	意味
	チェック コントロール メッセージ
	音声出力がオフ
	現在の車両位置を検知

プログラマブル ボタン

一般事項

ラジオ放送局、ナビゲーションの目的地、電話番号、メニューなど、Toyota Supra Command の機能

は、プログラマブルボタンにメモリーし、直接呼び出すことができます。

機能をメモリーする

1 Toyota Supra Command で機能を選択します。

2 1... 8 ブザーが鳴るまで、希望のボタンを押し続けます。

機能を実行する

1... 8 ボタンを押します。

機能はすぐに実行されます。電話番号が登録されている場合は、直接その番号に電話をかけます。

ボタンの設定を表示する

ボタンを指で触れてください。手袋をはめたり、他の物を使用しないでください。

ボタンの設定内容は画面の上端に表示されます。

すべてのボタンの割当てを削除する

1 ボタン 1 と 8 を同時に約 5 秒間押し続けます。

2 「OK」

コントロール ディスプレイとコントローラー

概要

1 タッチスクリーン付きコントロール ディスプレイ

2 ボタンおよびタッチパッド付きコントローラー

コントロール ディスプレイ

安全に関する注意事項

⚠ 注意

コントロール ディスプレイの前に物があると、物が滑ってコントロール ディスプレイを損傷するおそれがあります。コントロール ディスプレイの前には物を置かないでください。

自動でオン / オフにする

コントロール ディスプレイは、ロック解除後に自動的にオンになります。

特定の状況では、例えば車両で操作がまったく行われずに数分が経過した後、コントロールディスプレイは自動的にオフになります。

手動でオン / オフにする

コントロール ディスプレイは手動でもオフにすることができます。

1 OPTION ボタンを押します。

2「コントロールディスプレイ オフ」

新たにオンにするには、コントローラーまたはコントローラーのいずれかのボタンを押します。

システムの限界

直射日光などによってコントロール ディスプレイが非常に高い温度にさらされる場合、明るさが低下し、完全にオフになることがあります。影やエアコンにより温度が下がると、再び通常の機能に戻ります。

コントローラー

一般事項

ボタンを使って、メニューを直接呼び出すことができます。コントローラーでメニュー項目を選択し、設定を行うことができます。

コントローラーのタッチパッドで、Toyota Supra Command のいくつかの機能を操作することができます。

操作方法

・ 回す。メニュー項目などを切り換えます。

・ 押す。メニュー項目などを選択します。

・ 4 方向に傾ける。画面などを切り換えます。

コントローラーのボタン

ボタン	機能
MENU	1 回押す：メイン メニューを呼び出します。 2 回押す：メイン メニューの全てのメニュー項目を表示します。
MEDIA	メディア / ラジオ メニューを呼び出します。
COM	コミュニケーション メニューを呼び出します。
BACK	1 回押す：前の画面を呼び出します。 押し続ける：最後に使用したメニューを呼び出します。
OPTION	オプション メニューを呼び出します。

コントローラーによる操作

メイン メニューを呼び出す

MENU ボタンを押します。

メイン メニューが表示されます。

Toyota Supra Command の全ての機能は、メイン メニューに呼び出すことができます。

メイン メニューを適合化する

1 MENU ボタンを 2 回押します。

メイン メニューの全てのメニュー項目が表示されます。

2 メニュー項目を選択します。

3 メニュー項目を希望の位置に移動させるには、コントローラーを右または左に傾けます。

メニュー項目を選択する

ハイライトされたメニュー項目を選択することができます。

1 希望のメニュー項目がマークされるまで、コントローラーを回します。

2 コントローラーを押します。

メニューを調整する

使用しない機能項目をメニューから削除する場合など、「メディア」、「電話」および「ナビ」のメニュー表示を変更することができます。

Toyota Supra Command から：

1 メニューを選択します。

2 「メニュー項目選択」

3 表示しないメニュー項目を選択します。

表示される画面の切換え

任意のメニュー項目（例：「システム設定」）を選択すると、新しい画面が表示されます。

・ コントローラーを左に傾けます。

現在の画面が閉じられ、前の画面が表示されます。

・ BACK ボタンを押します。

前の画面が再度開きます。

・ コントローラーを右に傾けます。

新しい画面が開きます。

矢印は、その他の画面を呼び出すことができることを示しています。

前回使用したメニューを呼び出す

BACK ボタンを押し続けます。

前回使用したメニューが表示されます。

オプション メニューを呼び出す

OPTION ボタンを押します。

「オプション」メニューが表示されます。

メニューは、いくつかの項目に分けて構成されています：

・ 画面設定、例：「サブ画面」。
・ メイン メニューで操作可能な項目、例：「マルチメディア」用。
・ 場合によっては、メイン メニューでその他の操作可能な項目、例：「放送局登録」。

設定を行う

明るさなどの調節を行うことができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ディスプレイ」
4 「コントロールディスプレイ」
5 「夜間の明るさ」
6 希望の設定が表示されるまでコントローラーを回します。
7 コントローラーを押します。

文字または記号を入力する

■ 入力

1 コントローラーを回す：列をマークします。
2 コントローラーを押す：マークされた列が選択されます。

コントローラーを左に傾ける：列の選択に戻ります。

3 文字または音節をマークします。
4 OK：文字または音節を選択します。

上の行に、文字または音節が表示されます。

■ 削除する

シンボル	機能
I←	コントローラーを押す：文字または記号を削除します。
I←	コントローラーを押し続ける：全ての文字または記号を削除します。

アルファベット文字のリストを操作する

アルファベット文字のリストに30 以上の項目が含まれる場合、項目のある文字を左縁部に表示させることができます。

1 コントローラーを素早く左または右に回します。

左の縁部に、項目がある全ての文字が表示されます。

2 希望する項目の最初の文字を選択します。

選択した文字の最初の項目が表示されます。

タッチパッドによる操作

一般事項

コントローラーのタッチパッドで、Toyota Supra Command のいくつかの機能を操作することができます。

機能を選択する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「タッチパッド」
4 希望する設定を選択します：

・「手書き入力」：文字と記号を入力します。
・「地図」：地図を操作します。
・「フィードバック音」：入力した文字と記号を読み上げます。

文字または記号を入力する

1 シンボルをタップします。

タッチパッドによる入力がオンになります。

2 入力モードを選択します。
3 タッチパッドで文字、音節、数字を入力します。

文字を削除するには、タッチパッド上で左方向にスワイプします。

スクロール地図を操作する

ナビゲーション システムの地図は、タッチパッドを用いてスクロールすることができます。

機能	操作方法
地図をスクロールする。	該当する方向にスワイプする。
地図を拡大 / 縮小する。	タッチパッド上に置いた 2 本の指を狭めるか、広げる。
メニューを表示する。	1 回タップする。

タッチスクリーンによる操作

一般事項

コントロール ディスプレイにはタッチスクリーンが付いています。

タッチスクリーンには指で触れてください。物を使用しないでください。

メイン メニューを呼び出す

シンボルをタップします。

メイン メニューが表示されます。

Toyota Supra Command の全ての機能は、メイン メニューに呼び出すことができます。

メイン メニューを適合化する

1 シンボルをタップします。

メイン メニューの全てのメニュー項目が表示されます。

2 メニュー項目を、希望の位置まで右または左にスライドします。

メニュー項目を選択する

希望のメニュー項目に触れます。

自動更新内容

メニュー項目内で自動更新内容を表示させることができます。メニュー項目の内容、例えばナビゲーションのアクティブ ルート案内が自動的に更新されます。自動更新内容に直接アクセスするには、メニュー項目の下部を軽く押します。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「メインメニューコンテンツ」

表示される画面の切換え

1 つのメニュー項目を選択すると、新しい画面が表示されます。

矢印は、その他の画面を呼び出すことができることを示しています。

- 左方向にはらいます。
- 矢印を軽く押します。

新しい画面が開きます。

設定を行う

明るさなどの設定はタッチスクリーンで行うことができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「ディスプレイ」

4 「コントロールディスプレイ」

5 「夜間の明るさ」

6 希望する設定を行います：

- 希望の設定が表示されるまで右または左にスライドします。
- − + シンボルをタップします。

文字または記号を入力する

■ 入力

1 タッチスクリーンの⌨シンボルを軽く押します。

コントロール ディスプレイにキーボードが表示されます。

2 文字と記号を入力します。

■ 削除する

シンボル	機能
⇐	コントローラーを押す：文字または記号を削除します。
⇐	コントローラーを押し続ける：全ての文字または記号を削除します。

ナビゲーションの地図を操作する

ナビゲーションの地図をタッチスクリーンで動かすことができます。

機能	操作方法
地図を拡大 / 縮小する。	指で表示を狭めるか、広げます。

スピーチ コントロールシステム

原理

スピーチ コントロール システムを介して、コントロール ディスプレイに表示されるほとんどの機能を音声を使ったコマンドで操作できます。システムは、ボイス コマンドでの操作をサポートします。

一般事項

- 車両停止時にのみ使用可能な機能は、スピーチ コントロール システムでは一部しか操作できません。
- 運転席側にこのシステムの専用マイクがあります。
- ›...‹ は、取扱説明書に記載されているスピーチ コントロール システム用のボイス コマンドを示します。

機能の前提条件

- Toyota Supra Command から、スピーチ コントロール システムに対応した言語を設定する必要があります。言語を設定します (58 ページ参照) 。
- コマンドは、常に、スピーチ コントロール システムの言語で話してください。

ボイス コマンドを話す

スピーチ コントロールを作動させる

1 🎙 ステアリングのボタンを押します。

2 警告音を待ちます。

3 ボイス コマンドを話します。

シンボルは、スピーチ コントロール システムが作動していることを示します。

その他のコマンドが可能でない場合があります。その場合は、機能を Toyota Supra Command により操作します。

スピーチ コントロールを終了する

ステアリングのボタンを押すか、または › キャンセル ‹。

利用可能なボイス コマンド

一般事項

コントロール ディスプレイの多くのメニューは、ボイス コマンドで操作することができます。

他のメニューからのコマンドもボイス コマンドとして使用できます。

リスト エントリーの中には、例えば電話帳エントリーなど、同じくスピーチ コントロール システムで選択できるものがあります。その際、リストエントリーを各リストの表示どおりに正確に発音します。

可能なコマンドの表示

コントロール ディスプレイの上部領域に以下が表示されます：

- 現在のメニューのいくつかの利用可能なコマンド
- 他のメニューのいくつかの利用可能なコマンド
- 音声認識のステータス
- 暗号化された接続が使用できません。

例：音量調節を呼び出す

コントローラーでも選択できるメニュー項目のコマンドを発音します。

1 必要に応じてオーディオの音声出力をオンにします。

2 ステアリングのボタンを押します。

3 › マルチメディア ‹

4 › サウンド ‹

スピーチ コントロール システムのヘルプ

- 利用可能なボイス コマンドを読み上げさせます：› 音声コマンド ‹。
- スピーチ コントロール システムの基本機能に関する情報を読み上げさせます：› 音声操作情報 ‹。
- 現在のメニューに関するヘルプを読み上げさせます：› ヘルプ ‹。

SOS コールに関する情報

緊急時の連絡にスピーチ コントロールを使用しないでください。緊張した状態では、言葉や声の調子が変わることがあります。そのため、電話が接続されるまでに必要以上の遅れが生じます。

その代わりに、SOS ボタン (296 ページ参照) を使ってください。

設定

言語の設定

このシステムのスピーチ コントロールおよびアナウンスに使用する言語を設定することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 必要に応じて「言語 (Language)」
4 「言語 (Language):」
5 希望の言語を選択します。

言語ダイアログの設定

システムが標準ダイアログまたはショート ダイアログのどちらを使用するかを設定することができます。

ショート ダイアログの場合は、システムの読上げが短縮されて再生されます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「言語 (Language)」
4 「音声操作 :」
5 希望する項目を選択します。

音声出力中に話す

スピーチ コントロール システムからの問いの最中に答えることができます。背景の騒音や話し声などによって問いが頻繁に中断される場合は、この機能を作動解除することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「言語 (Language)」
4 「案内音声出力中の発話」

オンライン音声処理

オンライン音声処理によりディクテーション機能と話し言葉による目的地入力を行うことができ、ボイス検知の質が向上します。これを利用する場合は、データが暗号化された接続を介してサービス プロバイダーに伝送され、そこでローカルにメモリーされます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「言語 (Language)」
4 「サーバー経由の音声認識」

音量を調節する

音声案内の再生中に、希望する音量に調節されるまで音量ボタンを操作します。

音量は、他の音源の音量が変えられても、維持されます。

スマートフォンをスピーチ コントロールで操作する

車両と接続されているスマートフォンはスピーチコントロールで操作できます。

そのためには、スマートフォンの音声コントロールを起動します。

1 ステアリング ホイールの ボタンを約 3 秒間押し続けます。

スマートフォンの音声コントロールが起動します。

2 ボタンを放します。

正常に作動した場合は、コントロールディスプレイに確認が表示されます。

システムの限界

- 特定のノイズが検知され、場合によっては問題になることがあります。ドアおよびウィンドウを閉めた状態に維持します。
- 助手席またはリア シートからのノイズにより、システムが破損するおそれがあります。話している間は、車内で音をたてないようにしてください。
- 方言が強すぎる場合は、ボイス検知に問題が生じるおそれがあります。大きな声ではっきりと発音してください。

一般設定

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

メッセージ

原理

このメニューは、車両で受信される全てのメッセージを、中央にリストで表示します。

一般事項

以下のメッセージを表示させることができます：

- 交通情報
- 車両メッセージ
- コミュニケーション メッセージ（E メール、SMS、リマインダーなど）
- 必要なサービスについてのメッセージ

メッセージはさらにステータスバーにも表示されます。

メッセージを呼び出す

Toyota Supra Command から：

1 「通知」
2 希望のメッセージを選択します。

メッセージが表示されるメニューが開きます。

メッセージを削除する

車両メッセージ以外の全てのメッセージをリストから削除することができます。車両メッセージは、それが重要である間は残されます。

Toyota Supra Command から：

1 「通知」
2 必要に応じて希望のメッセージを選択します。
3 OPTION ボタンを押します。
4 「この通知を消去」または「全ての通知を消去」

設定

以下の設定を行うことができます：

・ メッセージの受信を許可するアプリケーションを選択する。
・ メッセージの順序を日付順または優先順に並べ替える。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「通知」
4 希望する項目を選択します。

時刻

時間帯を設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「日付と時刻」
4 「タイムゾーン :」
5 希望する項目を選択します。

時刻設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「日付と時刻」
4 「時刻 :」
5 希望する時間が表示されるまで、コントローラーを回します。
6 コントローラーを押します。
7 希望する分が表示されるまで、コントローラーを回します。
8 コントローラーを押します。

時刻表示方法を設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「日付と時刻」
4 「時間形式 :」
5 希望する項目を選択します。

自動時間設定

装備に応じて、時刻、日付、必要

に応じて時間帯が自動更新されます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「日付と時刻」
4 「自動時刻設定」

日付

日付設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「日付と時刻」
4 「日付 :」
5 希望する日が表示されるまで、コントローラーを回します。
6 コントローラーを押します。
7 月と年の設定を行います。

日付表示方法の設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「日付と時刻」
4 「日付表示 :」
5 希望する項目を選択します。

言語

言語の設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 必要に応じて「言語 (Language)」
4 「言語 (Language):」
5 希望する項目を選択します。

言語ダイアログの設定

スピーチ コントロール システム (53 ページ参照) 用音声ダイアログ。

表示単位の設定

装備に応じて、燃費、距離、温度などのさまざまな値の表示単位を設定できます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「単位」
4 希望のメニュー項目を選択します。
5 希望する項目を選択します。

現在の車両位置の表示を有効にする / 無効にする

原理

車両位置特定がオンになっている場合、現在の車両位置を Toyota Supra アプリに表示させることができます。

作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2「車両設定」
3「車両位置測定」
4「車両位置測定」

警告ウィンドウを作動 / 作動解除する

多くの機能に関して、警告ウィンドウが自動的にコントロール ディスプレイに表示されます。これらの警告ウィンドウの一部を作動または作動解除することができます。

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」
2「システム設定」
3「警告ウィンドウ」
4 希望する項目を選択します。

コントロール ディスプレイ

明るさ

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」
2「システム設定」
3「ディスプレイ」
4「コントロールディスプレイ」
5「夜間の明るさ」
6 希望の明るさに達するまで、コントローラーを回します。
7 コントローラーを押します。

光の条件によっては、明るさの調節が直接認識できません。

メイン メニューの内容を選択する

メイン メニューのいくつかのメニュー項目では、表示された内容を選択することができます。

1 OPTION ボタンを押します。
2「メインメニューコンテンツ」
3 希望のメニューと希望の内容を選択します。

個人設定

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

データ保護

データ転送

原理

車両は、使用するためにサービス プロバイダーへのデータ転送が必要になる各種機能を提供します。一部の機能については、データ転送を無効にすることができます。

一般事項

データ転送を無効にすると、その機能は使用できません。

設定は、必ず車を止めた状態で行ってください。

作動させる / 作動解除する

コントロール ディスプレイに表示された指示に従ってください。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「データ保護」
4 希望する項目を選択します。

車両の個人データを削除する

原理

車両は利用に応じて個人データを保存します（ラジオ局の保存など）。これらの個人データは Toyota Supra Command で完全に削除することができます。

一般事項

装備に応じて以下のデータを削除することができます：

- ドライバー プロファイルの設定
- 保存されたラジオ局
- 保存されたプログラマブル ボタン
- トラベルボードコンピュータ データ
- 音楽ハードディスク
- ナビゲーション（保存された目的地など）
- 電話帳
- オンライン データ（お気に入り、クッキーなど）
- Office データ、例えばメモなど
- ログイン アカウント

データの削除は最大 15 分かかる場合があります。

作動条件

データは停車時にのみ削除できま

す。

データを削除する

コントロール ディスプレイの指示を確認し、それに従ってください。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「データ保護」
4 「個人データの削除」
5 「個人データ削除」
6 「OK」
7 車両を離れた後にロックします。

15 分後に削除プロセスが完全に終了します。

全てのデータが削除されていない場合は、必要に応じて削除を繰り返してください。

削除を中止する

データの削除を中止するには、走行スタンバイをオンにします。

ドライバープロファイル

原理

ドライバープロファイルに複数の運転者の個人設定をメモリーして、必要に応じて再び呼び出すことができます。

一般事項

3 つのドライバー プロファイルを使用して、個人の車両設定を記憶します。各電子キーはこれらのドライバー プロファイルのいずれかに割り当てられています。

車両がいずれかの電子キーでロック解除されると、それに割り当てられているドライバー プロファイルが有効になります。ドライバープロファイルに記憶されている全ての設定が自動的に実行されます。

複数の運転者がそれぞれ自分の電子キーを使用すると、ロック解除時に車両がその個人設定に適合します。途中で他の電子キーによって車両を使用した場合でも、これまでの個人設定を復元できます。

設定の変更は、現在使用されているドライバープロファイルに自動的に記憶されます。

Toyota Supra Command で他のドライバー プロファイルが選択されると、そこに記憶されている設定が自動的に実行されます。新しいドライバー プロファイルは、現在使用されている電子キーに割り当てられます。

さらに、電子キーに割り当てられないゲスト プロファイルを使用できます。これは、個人のドライバー プロファイルを変更せずに車両で設定を行うために使用することができます。

機能の前提条件

特定の運転者専用のドライバー プロファイルを設定できるようにするには、検知された電子キーと運転者の割当てが明確でなければなりません。

この明確さは以下の条件により得られます：
・ 運転者が自分の電子キーのみを携行している
・ 運転者が車両をロック解除する
・ 運転者が運転席ドアから車両に乗り込む

現在使用されているドライバー プロファイル

コントロール ディスプレイをオンにすると、現在使用されているドライバー プロファイルの名前が表示されます。

ドライバー プロファイルを選択します (62 ページ参照) 。

エンジンをスタートするか、任意のボタンを押すと、最後に選択された表示がコントロール ディスプレイに示されます。

Toyota Supra Command でウェルカム画面を終了させるには：
「OK」

設定

以下のシステムおよび機能の設定が、現在使用されているドライバー プロファイルに記憶されます。記憶可能な設定の範囲は、装備によって異なります。
・ ロック解除とロック
・ ライト
・ エアコンディショニング
・ ラジオ
・ メーターパネル
・ プログラマブル ボタン
・ 音量、音質
・ コントロールディスプレイ
・ ナビゲーション
・ TV
・ クリアランスソナー
・ リアビューカメラ
・ ヘッドアップディスプレイ
・ スポーツモードスイッチ
・ シート位置、ドアミラー位置

シートメモリーで保存したポジションおよび最後に設定したポジションが保存されます。
・ クルーズコントロール
・ Toyota Supra Safety

プロファイルの管理

ドライバープロファイルを選択する

現在使用されている電子キーに関係なく、他のドライバープロファイルを呼び出すことができます。これにより、自分の電子キーでロック解除されなかった場合に、個人の車両設定を呼び出すことができます。

Toyota Supra Command から：
1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライバープロファイル」
3 ドライバープロファイルを選択します。
4 「OK」
・ 呼び出されたドライバープロファイルに記憶されている設定が自動的に実行されます。
・ 呼び出されたドライバープロファイルは、現在使用されている電子キーに割り当てられます。
・ ドライバープロファイルがすでに他の電子キーのひとつに割り

当てられている場合、このドライバープロファイルは両方の電子キーに有効です。

ゲストプロファイル

ゲストプロファイルにより、3 つの個人ドライバープロファイルのいずれにも保存されない個人設定を行うことができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライバープロファイル」
3 「ゲスト (プロファイルなし)」
4 「OK」

ゲストプロファイルの名前を変更することはできません。ゲストプロファイルは現在使用中の電子キーには割り当てられません。

ドライバープロファイルの名前を変更する

ドライバープロファイルの混同を防ぐために、現在使用中のドライバープロファイルに個人的な名前を付けることができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライバープロファイル」
3 ドライバープロファイルを選択します。

この記号の付いたドライバープロファイルの名前を変更することができます。

4 「ドライバープロファイル名の変更」
5 プロファイル名を入力します。
6 OK シンボルを選択します。

ドライバー プロファイルをリセットする

現在有効なドライバープロファイルの設定が初期設定にリセットされます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライバープロファイル」
3 ドライバープロファイルを選択します。

この記号の付いたドライバープロファイルをリセットすることができます。

4 「ドライバープロファイルのリセット」
5 「OK」

ドライバープロファイルをエクスポートする

現在使用されているドライバープロファイルの大部分の設定をエクスポートすることができます。

エクスポートは、例えばトヨタ販売店入庫前に個人設定をバックアップし、再び呼び出す際に便利です。保存されたドライバープロファイルは、他の車両に転送することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライバープロファイル」
3 ドライバープロファイルを選択します。

この記号の付いたドライバー プロ

ファイルをエクスポートすることができます。

4 「ドライバープロファイルのエクスポート」

5 ドライバープロファイルのエクスポート用メディアを選択します。

・「USB 機器」

必要に応じて USB メモリー (68 ページ参照) を選択します。

ドライバープロファイルをインポートする

現在使用されているドライバープロファイルの既存の設定に、インポートされたドライバープロファイルの設定が上書きされます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「ドライバープロファイル」

3 上書きするドライバープロファイルを選択します。

⚙ この記号の付いたドライバー プロファイルを上書きすることができます。

4 「ドライバープロファイルのインポート」

5 ドライバープロファイルのインポート用メディアを選択します。

・ USB メモリー：「USB 機器」

必要に応じて USB メモリーを選択します。

6 インポートするドライバープロファイルを選択します。

システムの限界

電子キーと運転者の明確な割当ては、例えば以下の場合には必ずしも可能ではありません。

・ 助手席乗員が自分の電子キーで車両をロック解除し、走行は別の者が行う場合。

・ 運転者がスマートキーシステムにより車両をロック解除し、その際に複数の電子キーを携行している場合。

・ 運転者を交代する際に、車両をロックおよびロック解除しなかった場合。

・ 車外に複数の電子キーがある場合。

接続

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

モバイル機器と車両を接続する

原理

車内でモバイル機器を使用できるようにするために、さまざまな接続方法があります。適切な接続方法はモバイル機器および希望する機能によって異なります。

一般事項

次の概要は、使用可能な機能とそれに適した接続方法を示したものです。機能範囲はモバイル機器によって異なります。

機能	接続方法
ハンズフリー ユニットを使用した通話。 電話機能を Toyota Supra Command で操作します。 スマートフォンの Office 機能を利用します。	Bluetooth
スマートフォンまたはオーディオプレーヤーの音楽を再生します。	Bluetooth または USB
互換性のあるアプリを Toyota Supra Command で操作します。	Bluetooth または USB
USB メモリー： ドライバー プロファイルのインポートおよびエクスポート。 記憶されたルートのエクスポートおよびインポート。 音楽の再生。	USB
スマートフォンまたは USB 機器のビデオを再生します。	USB
Apple CarPlay アプリを Toyota Supra Command および音声で操作します。	Bluetooth および Wi-Fi
スクリーン ミラーリング： コントロール ディスプレイにスマートフォン画面を表示します。	無線 LAN（WLAN）

以下の接続方法の場合、車両に 1 回登録する必要があります：

・ Bluetooth
・ Apple CarPlay
・ スクリーン ミラーリング

その後は、登録した機器は自動検知され、車両に接続されます。

安全に関する注意事項

警告

走行中に統合インフォメーション システムおよび通信機器を操作すると、交通状況から注意がそれるおそれや、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。システムや装置の操作は、交通状況が許す場合にのみ行ってください。必要な場合は車両を止め、停止状態でシステムや装置を操作してください。

Bluetooth 接続

機器の前提条件

・ Bluetooth インターフェースと互換性のある機器
・ リモートコントロールが車内にあること
・ 機器が作動可能な状態
・ Bluetooth が機器と車両でオンになっている (66 ページ参照)
・ 場合によっては、検出可能など、機器側の Bluetooth を事前に設定する必要があります。機器の取扱説明書を参照してください。

Bluetooth をオンにする

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 「設定」
5 「Bluetooth」

電話機能を作動させる / 作動解除する

サポートされる全ての携帯電話機能を利用できるようにするには、携帯電話を車両に登録する前に以下の機能をオンにする必要があります。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 「設定」
5 希望する設定を選択します：
・「Office」

ショート メッセージ、E メール、カレンダー、タスク、メモ、リマインダーを車両に送信するための機能をオンにします。全てのデータを車両に送信することにより、費用が発生することがあります。

6 コントローラーを左に傾けます。

モバイル機器を車両に登録する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 「新規機器接続」
5 機能を選択します：
・「電話」
・「Bluetooth オーディオ」

・「Apps」
・「Apple CarPlay」
・「Screen Mirroring」

車両の Bluetooth 名がコントロール ディスプレイに表示されます。

6 モバイル機器で周囲の Bluetooth 対応機器を検索します。

車両の Bluetooth 名がモバイル機器のディスプレイに表示されます。

車両の Bluetooth 名を選択します。

7 モバイル機器によっては、コントロール番号が表示されるか、コントロール番号を自ら入力する必要があります。

・ コントロール ディスプレイに表示されたコントロール番号と、機器のディスプレイに表示されたコントロール番号を比較します。

機器とコントロール ディスプレイでコントロール番号を確定します。

・ 機器と Toyota Supra Command で同一のコントロール番号を入力して、確定します。

機器が接続され、機器リストに表示されます (70 ページ参照)。

よくある質問

全ての前提条件が満たされており、全ての必要な手順が規定の順序で実施されました。しかしモバイル機器が期待どおりに機能しません。

この場合は以下の説明が役に立つ場合があります：

なぜ携帯電話を登録または接続することができなかったのですか？

・ 携帯電話または車両と接続されている Bluetooth 機器の数が多すぎます。

車両で他の機器との Bluetooth 接続を解除してください。

全ての既知の Bluetooth 接続を携帯電話の機器リストから削除し、新たに機器検索を開始してください。

・ 携帯電話が省電力モードになっているか、または充電池の残り容量がわずかしかありません。

携帯電話を充電してください。

なぜ携帯電話が応答しないのですか？

・ 携帯電話のアプリケーションが正常に作動していません。

携帯電話のスイッチをオフにし、再びスイッチをオンにしてください。

・ 携帯電話の作動にとって周囲の温度が高すぎます、または低すぎます。

携帯電話を極端な周辺環境にさらさないでください。

なぜ電話機能を Toyota Supra Command で操作できないのですか？

・ 携帯電話が、例えば Bluetooth オーディオ機器として正しく設定されていない場合があります。

携帯電話を電話またはサブ電話の機能に接続します。

電話帳登録の全てまたは一部が表示されないか、不完全な状態で表示されるのはなぜですか？

・ 電話帳登録の転送がまだ終了していません。
・ 携帯電話または SIM カードの電

話帳登録だけが転送される場合があります。
- 電話帳に特殊記号が用いられている場合、表示することができないことがあります。
- ソーシャルネットワークの連絡先を伝送できないことがあります。
- 登録しようとする電話帳登録の数が多すぎます。
- 例えばメモなどの記憶された情報により、連絡先のデータ量が大きくなりすぎています。

連絡先のデータ量を減らしてください。
- 携帯電話はオーディオ音源または電話としてのみ接続できます。

携帯電話を設定し、電話またはサブ電話の機能に接続します。

電話接続の質を向上するにはどうしたらよいですか？
- 携帯電話によっては、Bluetooth 信号の強度を携帯電話で調整します。
- マイクおよびスピーカーの音量を音質設定で個別に調整します。

リストの全項目を点検した後でも希望の機能を実行することができない場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

USB ポート

一般事項

USB インターフェースには、USB ポート付きのモバイル機器を接続します。
- 携帯電話
- MP3 プレーヤーなどのオーディオ機器
- USB メモリー デバイス

一般的なファイル システムに対応しています。FAT32 および exFAT のフォーマットを推奨します。

機器がサポートしていれば、接続されている USB 機器には USB インターフェースから充電電流が供給されます。USB インターフェースの最大充電電流値に注意してください。

データ転送用 USB インターフェースでは、以下を行うことができます：
- ドライバー プロファイル (61 ページ参照) のインポートおよびエクスポート
- 音楽ファイルをオーディオUSBを介して再生する
- ビデオをビデオ USB を介して再生する

接続の際は、次のことに注意してください：
- コネクターを USB インターフェースに無理やり差し込まないでください。
- 柔軟なアダプター ケーブルを使用してください。
- USB 機器を機械的な損傷から保護してください。
- 市場には無数の USB 機器が存在するため、どの機器 / 携帯電話に対しても、車両からの操作が保証されるものではありません。
- USB 機器を非常に高い温度など、極端な環境条件にさらさな

いでください、機器の取扱説明書を参照してください。
・ 多数の異なる圧縮技術が使用されるため、USB 機器に記憶されているメディアの正常な再生が常に保証されるわけではありません。
・ 記憶されたデータを確実に伝送するため、USB 機器が USB インターフェースに接続されている場合は電源ソケットで充電しないでください。
・ USB 機器の利用の仕方に応じて、USB 機器での設定が必要になる場合があります、機器の取扱説明書を参照してください。

不適切な USB 機器：
・ USB ハードディスク
・ USB ハブ
・ 複数のスロット付き USB メモリー カード リーダー
・ HFS 形式の USB 機器
・ ベンチレーターなどの装置やランプ

作動条件

USB インターフェースと互換性のある機器

機器を接続する

適切なアダプター ケーブルを用いて USB 機器と USB インターフェース (225 ページ参照) を接続します。

USB 機器が機器リスト (70 ページ参照) に表示されます。

Apple CarPlay の準備

原理

Apple CarPlay は、互換性のある Apple iPhone の特定の機能を Siri スピーチ コントロールおよび Toyota Supra Command で操作できるようにします。

設定方法はナビゲーションシステム取扱書を参照。

スクリーン ミラーリング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

一般事項

スクリーン ミラーリングは、コントロール ディスプレイでのスマートフォン画面の再生を可能にします。

機能の前提条件

・ スクリーン ミラーリング インターフェースと互換性のあるスマートフォン
・ スマートフォンでスクリーン ミラーリングがオンになっている
・ 車両で Wi-Fi がオンになっている

Wi-Fi のオン

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」

4「設定」
5「車両 WiFi」

スクリーン ミラーリング対応のスマートフォンを登録する

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」
2「Toyota Supra Command 設定」
3「携帯機器」
4「新規機器接続」
5「Screen Mirroring」

車両の Wi-Fi 名がコントロール ディスプレイに表示されます。

6 スマートフォンで周囲の Wi-Fi 対応機器を検索します。

車両の Wi-Fi 名が機器のディスプレイに表示されます。車両の Wi-Fi 名を選択します。

7 接続を Toyota Supra Command で確定します。

機器が接続され、機器リストに表示されます (70 ページ参照) 。

モバイル機器を管理する

一般事項

- 1 度登録した後は、作動スタンバイがオンのときに機器が自動検知され、再び接続されます。
- 機器によっては、承認などの特定の設定が必要な場合があります、機器の取扱説明書を参照してください。

機器リストを表示する

車両に登録または接続されている全ての機器が機器リストに表示されます。

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」
2「システム設定」
3「携帯機器」

シンボルは、どの機能にどの機器が使用されるかを示します。

シンボル	機能
	「電話」
	「サブ電話」
	「Bluetooth オーディオ」
	「Apps」
	「Apple CarPlay」
	「Screen Mirroring」

機器を設定する

これらの機能は、機器が登録または接続されている場合にオンまたはオフにすることができます。

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」
2「システム設定」
3「携帯機器」
4 希望する機器を選択します。
5 希望する項目を選択します。

1 つの機器に機能が割り当てられると、すでに接続済みの機器の機能が必要に応じて作動解除され、切り離されます。

機器を切り離す

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 機器を選択します。
5 「機器の接続解除」

機器は登録された状態にあり、再び接続することができます (71 ページ参照) 。

機器を接続する

接続を解除した機器を再び接続することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 機器を選択します。
5 「機器接続」

機器の切離し前に割り当てられた機能は、再接続の際に機器に割り当てられます。すでに接続済みの機器の場合、この機能は必要に応じて作動解除されます。

機器を削除する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 機器を選択します。
5 「機器の消去」

機器が接続解除され、機器リストから削除されます。

電話とサブ電話の交換

2 台の携帯電話が車両と接続されている場合、電話とサブ電話の機能を交換することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「携帯機器」
4 「設定」
5 「メイン / サブ電話切替え」

開閉

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

電子キー

一般事項

お客様へお渡しのキーには、2 個の内蔵キー付き電子キーが含まれています。

全ての電子キーに交換可能なバッテリーが入っています。バッテリーの交換 (76 ページ参照) 。

装備に応じて、ボタンの機能を設定することができます。設定 (84 ページ参照) 。

電子キーに、個人設定のあるドライバープロファイル (61 ページ参照) を割り当てることができます。

電子キーの閉じ込めを防ぐため、車両を離れるときには電子キーを携行します。

安全に関する注意事項

警告

車両キーには、バッテリーとしてボタン電池が入っています。バッテリーやボタン電池を誤って飲み込むと、2 時間以内に体内の火傷や化学火傷などにより重傷や命にかかわる負傷につながるおそれがあります。けがをするおそれまたは生命の危険があります。車両キーおよびバッテリーは、お子様の手の届かない場所に保管してください。バッテリーやボタン電池が誤って飲み込まれた、または、身体の中に入っている疑いがある場合は、直ちに救急隊を呼んでください。

警告

車内に残されたお子様やペットが、車内からドアをロックして、閉じ込められてしまうことがあります。この場合、車両を外側から開けることができません。けがをする危険があります。車両を外側から開けられるように、電子キーを携行してください。

警告

車内からロック解除ができない場合があるため、やむを得ず車内に同乗者を残される場合には、車外からロックしないでください。

同乗者が比較的長い間車両に残され、しかも極端な温度にさらされる場合は、けがをする危険または命に関わる危険が生じます。車内に乗員がいる場合は、車両を外側からロックしないでください。

警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- スタート / ストップボタンが押される
- パーキングブレーキの解除
- ドアやウィンドウの開閉
- セレクターレバーがポジション N に入る
- 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

概要

1 ロック解除
2 ロック
3 トランクリッドロック解除
4 ホームライト

ロック解除

一般事項

電子キーでロック解除した場合の車両の動作は、ロック解除およびロック用の以下の設定 (84 ページ参照) により異なります：

- 最初にボタンを押したときに、運転席ドアとフューエルリッドのみがロック解除されるか、または全てのドア / リッドがロック解除されるかの設定
- 車両がロック解除されたときに確認のために、ハザードフラッシャーを点滅するかの設定
- ロック解除時にウェルカムライト (149 ページ参照) をオンにするかの設定
- ロック解除およびロック時にドアミラーを自動的に開く / 折りたたむかの設定
- 乗車を容易にするため、ウィンドウをさらに下げるかどうかの設定

車両をロック解除する

電子キーのボタンを押します。

設定に基づいて、運転席ドアとフューエルリッドのみがロック解除された場合、電子キーのボタンを再び押すと、他の車両ドア / リッドがロック解除されます。

さらに以下の機能が実行されます：

- 電子キーにドライバープロファイルが割り当てられている場合、そのドライバープロファイルが

有効になり、そこに記憶されている設定が実行されます。
・ 手動でオフにされていない場合、ルームライトがオンになります。ルームライトを手動でオン / オフにします。
・ 折りたたまれたドア ミラーが展開します。

車内のボタンでドア ミラーが折りたたまれると、ロック解除時には展開しません。
・ アラームシステム装備：アラームシステムがオフになります。

コンフォートエントリーを作動させるには、電子キーのボタンを 2 回連続で押します。

設定に応じて、ドアを開けるとウィンドウがさらに下がります。

フロントドアを開けると、車両が始動可能な状態になります。

ライト機能は周囲の明るさによって異なる場合があります。

コンフォートオープン

開ける

電子キーのボタンを押し続けます。

電子キーのボタンが押されている間、パワーウィンドウが開きます。

コンフォートクローズで折りたたまれたドアミラーが展開します。

ロック

一般事項

電子キーによるロック時の車両の動作は、以下の設定により異なります：
・ 車両がロックされたときに確認のために、ハザードフラッシャーが点滅されるかの設定
・ ロックおよびロック解除時にドアミラーを自動的に折りたたむ / 開くかどうかの設定
・ ロック時にホームライトがオンになるかの設定

車両をロックする

1 運転席ドアを閉じます。

2 電子キーのボタンを押します。

以下の機能が実行されます：
・ 全てのドア、トランクリッド、フューエルリッドがロックされます。
・ アラームシステム装備：アラームシステムがオンになります。

ロック時に走行スタンバイがまだオンになっている場合は、車両のホーンが 2 回鳴ります。この場合は、走行スタンバイをスタート / ストップボタンでオフにします。

コンフォートクローズ

安全に関する注意事項

警告

コンフォートクローズの場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。コンフォートクローズ時には、動く範囲に身体の一部がないことを確認してください。

閉める

ロック後、電子キーのボタンを押し続けます。

電子キーのボタンが押されている間、パワーウィンドウが閉じます。

ドアミラーが格納されます。

ハザードライトがオンの場合、ドアミラーは折りたたまれません。

ルームライトと車外ライトをオンにする

車両がロックされているときに、電子キーのボタンを押してください。

ロック後に最初の 10 秒が経過するまで、この機能は使用できません。

- 手動でオフにされていない場合、ルームライトがオンになります。ルームライトを手動でオン / オフにします (153 ページ参照) 。
- 設定に応じて、車外ライト (149 ページ参照) がオンになります。

ライト機能は周囲の明るさによって異なる場合があります。

トランクリッド

一般事項

電子キーの閉じ込めを防ぐために、電子キーをラゲッジ ルーム内に置かないでください。

トランク リッドを電子キーで開く際にドアをロック解除するかを設定することができます。設定 (84 ページ参照) 。

安全に関する注意事項

警告

トランクリッドを操作する場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

注意

トランクリッドを開けるときは、後方および上方にスペースが必要です。損傷が発生するおそれがあります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

ロック解除

電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。

ホームライトをオンにする

電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。

時間を設定します (149 ページ参照) 。

バッテリーの交換

安全に関する注意事項

警告

電子キー内のバッテリーはボタン電池です。ボタン電池を飲み込むと、わずか 2 時間で化学熱傷などの重症や致命的な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。電子キーや電池はお子さまの手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだり体内の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

注意

適切でない電池を使用すると、電子キーを損傷させるおそれがあります。消耗した電池は同じ電圧、サイズ、仕様の電池とのみ交換してください。

バッテリーの交換

1 内蔵キーを電子キーから取り出します (78 ページ参照) 。

2 バッテリーケースカバーの下部に内蔵キーを当て（矢印 1)、内蔵キーをテコにしてカバーを持ち上げます（矢印 2)。

3 小さなマイナスドライバーなどでバッテリーを矢印方向に押して、取り出します。

4 タイプ CR2032 3V のバッテリーを、プラス側を上にして入れます。

5 カバーを押して、元通りに閉めます。

6 内蔵キーを車両キーに挿入し、内蔵キーがロックするまで押し込みます。

使用済みの電池は、各自治体の定める取決めをご確認の上、廃棄してください。

追加の電子キー

追加の電子キーはトヨタ販売店でお求めいただけます。

電子キーの紛失

紛失した電子キーはトヨタ販売店でロックし、交換することができます。

紛失した電子キーにドライバープロファイル (61 ページ参照) が割り当てられている場合、この電子キーへの接続を削除する必要があります。その後でドライバープロファイルを新しい電子キーに割り

当てることができます。

故障

一般事項

車両メッセージ (131 ページ参照) が表示されます。

車両の電子キー検知は、特に以下の状況で妨害される可能性があります：

- 電子キーのバッテリーが放電している。バッテリーの交換 (76 ページ参照)
- 電波塔や送信出力の大きい他の施設による無線接続の妨害
- 金属性の物による電子キーの遮蔽

電子キーを金属性の物と一緒に運ばないでください。

- 電子キーのすぐ近くにある携帯電話や電子機器による無線接続の妨害
  電子キーを電子機器と一緒に運ばないでください。
- 携帯電話の充電など、モバイル機器の充電動作による無線送信の障害
- 車両キーがワイヤレス充電用トレイのすぐ近くにある
  車両キーを別の場所に置いてください。

故障の場合は、内蔵キー (78 ページ参照) で車両を外側からロック解除およびロックすることができます。

電子キーのエマージェンシー機能により走行スタンバイをオンにする

電子キーが検知されなかった場合は、走行スタンバイをオンにすることができません。

この場合は以下のように行います：

1. 電子キーの裏面をステアリングコラムのマークのところで保持します。その際にはメーターパネルの表示に注意してください。
2. 電子キーが検知された場合：
   10 秒以内に走行スタンバイがオンになります。

電子キーが検知されない場合は、電子キーの位置を少し変更し、手順を繰り返してください。

よくある質問

誤って電子キーがロックされた場合でも車両を開けられるようにするために、どのような対策をとることができますか？

- Toyota Supra Connect アプリ、または Toyota Supra Connect ユーザーサイトから、リモートサービスをご利用いた

だくことで、スマートフォンからロック / ロック解除が行えます。

リモートサービスでは、アラームシステムは作動しません。

詳細はナビゲーションシステム取扱書を参照。

内蔵キー

一般事項

内蔵キーで運転席ドアを電子キーを使わずに ロック解除およびロックすることができます。

内蔵キーはさらにグローブボックスに適合しています。

内蔵キーで助手席エアバッグ用キースイッチ (164 ページ参照) を操作することができます。

安全に関する注意事項

警告

車内からロック解除ができない場合があるため、やむを得ず車内に同乗者を残される場合には、車外からロックしないでください。

同乗者が比較的長い間車両に残され、しかも極端な温度にさらされる場合は、けがをする危険または命に関わる危険が生じます。車内に乗員がいる場合は、車両を外側からロックしないでください。

注意

ドアのキーシリンダーはドアと固定接続されています。ドアハンドルは動かすことができます。内蔵キーを差し込んだ状態でドアハンドルを引くと、塗装または内蔵キーが損傷するおそれがあります。アウタードアハンドルを引く前に、内蔵キーを抜いてください。

取出し

ボタン、矢印 1、を押し、内蔵キーを引き抜きます、矢印 2。

ドアのキーシリンダーからのロック解除 / ロック

1 片方の手でドアハンドルを外側に引き、保持します。

2 もう片方の手の指を 1 本、後ろからカバーフラップの下に入れ、カバーフラップを外側に押します。

カバーフラップがドアハンドルから落ちないよう、親指で保持します。

3 カバーフラップを取り外します。

4 ドアのキーシリンダーを内蔵キーでロック解除またはロックします。

他のドアは内側からロック解除またはロックする必要があります。

アラーム システム

ドアのキーシリンダーを回してロック解除すると、ドアを開ける際にスタンバイ中のアラーム システムが作動します。

車両を内蔵キーでロックした場合、アラーム システムはオンになりません。

ドアロックスイッチ用ボタン

一般事項

重大な事故が起きた場合、車両は自動的にロック解除されます。ハザードフラッシャーとルームライトのスイッチが入ります。

安全に関する注意事項

警告

ドアを開いたまま走行すると、乗員が車両から投げ出されるおそれがあります。また、不用意にドアを開くと、他の通行車などとぶつかる危険や、事故が発生するおそれがあります。ドアは必ず完全に閉じてください。ドアを開くときは、周囲の安全に注意してください。

概要

ドアロックスイッチ用ボタン。

ロック

フロントドアが閉まった状態でボタンを押します。

フューエルリッドは、ロック解除されたままです。

ロック解除

ボタンを押します。

開ける

・ 開くドアのドアオープナーを引きます。他のドアはロックされたままです。
・ ドアを一斉にロック解除するには、ボタンを押しドアオープナーを引きます。

スマートキーシステム

原理

電子キーを操作しなくても、車両にアクセスすることができます。

電子キーをズボンのポケットなどに入れて携行するだけで十分です。

車両は自動的に、近くの、または車内の電子キーを検知します。

一般事項

スマートキーシステムでは、以下の操作ができます：
・ ドアハンドルによる車両のロック解除とロック。

留意点

● 運転者は、常に電子キーを携帯し車内に電子キーを残したまま車両から離れないでください
● 周辺の環境や電波状態などにより、正常に作動しないことがありますので、パソコンや携帯電話などと一緒に電子キーを携帯しないでください。
● 内蔵電池が消耗したときや故障したとき等を考慮して、車両から離れるときは必ず電子キーを携行してください。

安全に関する注意事項

警告

警告

スマートキーシステムでは、ドアやトランクリッドをロック / ロック解除するときやスタート / ストップボタンを操作するときなどに、車両から電波が発信されます。その際、植込み型の心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器等の動作に影響を与える可能性があります。

植込み型の心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器等をご使用の方は、安全のため車両から約 22 cm 以上離れた位置からドアを開閉してください。また、ドアの開閉時には車両に寄りかかったり、窓から車内を覗き込まないようにしてください。

その他の医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

スマートキーシステムの電波が発信される範囲

A センターコンソール前部周辺

B センターコンソール後部周辺

C ラゲッジルーム周辺、リアバンパー周辺

D ドアハンドルおよびドア周辺

機能の前提条件

- 車両をロックをするためには、電子キーが車外のドア付近にある必要があります。
- ロック解除およびロックを続けて行うときは、約 2 秒以上時間を空けてください。

ロック解除

一般事項

スマートキーシステムによるロック解除時の車両の動作は、以下の設定 (84 ページ参照) により異なります：

- 車両がロック解除されたときに確認のために、ハザードフラッシャーが点滅されるかの設定。
- ロック解除時にウェルカムライト (149 ページ参照) をオンにするかの設定。
- ロック解除およびロック時にドアミラーを自動的に開く / 折りたたむかの設定。

コンフォートクローズで折りたたまれたドアミラーはコンフォートオープンで展開する必要があります。

車両をロック解除する

車両ドアのハンドルを完全に握ります。

さらに以下の機能が実行されます：

- 電子キーにドライバープロファイルが割り当てられている場合、そのドライバープロファイルが有効になり、そこに記憶されている設定が実行されます。
- 手動でオフにされていない場合、ルームライトがオンになります。ルームライトを手動でオン / オフにします。
- 折りたたまれたドア ミラーが展開します。

車内のボタンでドア ミラーが折りたたまれると、ロック解除時には展開しません。

- アラームシステム装備：アラームシステムがオフになります。

ロック

一般事項

スマートキーシステムによるロック時の車両の動作は、以下の設定 (84 ページ参照) により異なります：

- 車両がロックされたときに確認のために、ハザードフラッシャーが点滅されるかの設定
- ロック解除およびロック時にドアミラーを自動的に開く / 折りたたむかの設定
- ロック時にホームライトがオンになるかの設定

車両をロックする

運転席ドアを閉じます。

ドアが閉まっている状態で、ドアハンドルの溝の部分に指で約 1 秒間触れます。

以下の機能が実行されます：

- 全てのドア、トランク リッド、フューエル リッドがロックされます。
- アラーム システム装備：アラーム システムがオンになります。

トランクリッド

一般事項

電子キーの閉じ込みを防ぐために、電子キーをラゲッジルーム内に置かないでください。

装備に応じて、ドアもロック解除するかどうかを設定することがで

きます。設定 (84 ページ参照) 。

安全に関する注意事項

警告

トランクリッドを操作する場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

注意

トランクリッドを開けるときは、後方および上方にスペースが必要です。損傷が発生するおそれがあります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

注意

トランクリッドを閉めるときは、ラゲッジカバーにストラップが引っ掛かっていないことを確認してください。

ストラップが引っ掛かったままトランクリッドを閉めると、トランクリッドのストラップ取り付け部が破損するおそれがあります。

開閉

車外から開ける

電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。

設定を変更することでドアもロック解除されます。電子キーによるオープン (75 ページ参照) 。

車内から開ける

運転席ドアのトレイ内のボタンを押します。

閉める

トランクリッドのアウターハンドルをつかんで下に引きます。

設定

一般事項

装備に応じて、電子キー機能に対してさまざまな設定を行うことができます。

この設定は、そのとき使用しているドライバープロファイルに記憶されます。

ロック解除とロック

ドア

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ドア / キー」
4 「運転席ドア」または「全てのドア」
5 希望する設定を選択します：

・「運転席ドアのみ」

ロック解除ボタンを押すと、運転席ドアとフューエルリッドのみがロック解除されます。もう 1 度押すと、車両全体のロックが解除されます。

・「全てのドア」

ロック解除ボタンを押すと、車両全体がロック解除されます。

車両の確認シグナル

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ドア / キー」
4 「ロック / ロック解除の確認点滅」

ロック解除の確認として 2 回の点滅が行われ、ロックの確認として 1 回の点滅が行われます。

ミラーを自動で折りたたむ / 開く

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ドア / キー」
4 「ドアロック時にミラーを閉じる」

ロック時、ドア ミラーは自動的に折りたたまれます。

自動ロック解除

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ドア / キー」
4 希望する設定を選択します：

・「P に入れるとロック解除」
・「走行終了後ロック解除」

スタート / ストップ ボタンを押すと、走行スタンバイがオフになった後に、ロックされている車両が自動的にロック解除されます。

自動ロック

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ドア / キー」
4 「オート再ロック」

ロック解除後にどのドアも開けられない場合は、一定時間経過後に自動的に再びロックされます。

前回のシートおよびミラー位置を設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライバープロファイル」
3 ドライバープロファイルを選択します。

⚙ この記号の付いたドライバープロ

ファイルに設定を行うことができます。

4「前回のシートポジションに自動調節」

車両のロック解除時に、最後に設定された運転席シートとドアミラーの位置が設定されます。

前回のポジションはシートメモリーで保存したポジションに影響されません。

トランク リッド

装備に応じて、この設定は提供されない場合があります。

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」

2「車両設定」

3「ドア / キー」

4「テールゲート」または「テールゲートおよびドア」

5 希望する設定を選択します：

・「テールゲート」

トランクリッドが開きます。

・「テールゲートおよびドア」

トランクリッドが開き、ドアがロック解除されます。

フロント ドアを開けた後に停止状態にする

Toyota Supra Command から：

1「車両情報 / 設定」

2「車両設定」

3「ドア / キー」

4「ドア開時に車両電源オフ」

フロントドアを開けるときに停止状態 (41 ページ参照) にされます。

アラームシステム

原理

アラームシステムは、ロックされた車両を開けようとする不正な試みを視覚と音響を通して通知します。

一般事項

車両がロックされている場合、アラームシステムは以下の変化に反応します：

・ドア、ボンネット、トランクリッドのいずれかが開けられたとき
・車内での動き
・車両の傾きが変化したとき（ホイールが盗まれそうなときやけん引を行うとき）
・バッテリー電圧が遮断されたとき
・オンボード診断 OBD 用ソケットの不適切な使用

アラームシステムは以下の変化を表示と音によって知らせます：

・音によるアラーム：国の規定によっては、警告音がオフにされる場合があります。
・視覚的なアラーム：ハザードフラッシャーおよび場合によってはヘッドライトの点滅によって。

アラームシステムの機能を確保するために、システムを変更しないこと。

オン / オフにする

電子キーまたはスマートキーシス

テムで車両をロック / ロック解除すると同時に、アラームシステムもオン / オフにされます。

アラームシステムがオンの状態でドアを開く

内蔵キーでドアのキーシリンダーを回してドアをロック解除した場合、ドアを開けるとアラームシステムが作動します。

警報アラームを止める (88 ページ参照) 。

アラームシステムがオンの状態でトランクリッドを開く

トランクリッドはアラームシステムがオンのときでも開けることができます。

トランクリッドを閉めると、再びロックされ、ドアがロックされている間はアラームシステムがオンの状態になります。ハザードライトが 1 回点滅します。

ルームミラーについている表示灯

- 表示灯が 2 秒ごとに点滅する：アラームシステムがオンになっています。
- 表示灯が約 10 秒間点滅し、その後 2 秒間隔で点滅する：ドア、ボンネット、またはトランクリッドが正しく閉まっていないため、車内検知機能および傾斜センサーが作動していません。正しく閉められたドア / リッドにはロックがかかります。

まだ開いている部分が閉められると、車内検知機能および傾斜センサーがオンになります。

- ロック解除後に表示灯が消える：車両には、何も不正な操作はされませんでした。
- 表示灯が、ロック解除後に走行スタンバイがオンになるまで、最長約 5 分間点滅する：何らかの要因でアラームが作動しました。

傾斜センサー

車両の傾きを監視します。

例えばホイールを盗もうとしたり、けん引しようとしたりすると、アラームシステムが反応します。

車内検知機能

車内はシート面の高さまで監視されます。このため、ウィンドウが開いている場合でも、車内検知機能を含むアラームシステムはオンになります。例えば、木の葉などが入り込むことで、意図せずにアラームが作動することがあります。

意図しないアラームを防止する

一般事項

権限のない操作が行われていなくても、傾斜センサーおよび車内検知機能によってアラームが作動することがあります。

意図しないアラームの考えられる状況：

- 自動洗車機に入れる場合
- 二段式ガレージ
- 自動車運搬専用の列車、船舶、またはトレーラーで輸送される場合
- 車内に動物がいる場合
- 給油が開始された後に車両がロックされる場合

このような状況では、傾斜センサーおよび車内検知機能をオフにすることができます。

傾斜センサーおよび車内検知機能をオフにする

車両をロックしてから 10 秒以内に電子キーのボタンを押します。

表示灯が約 2 秒間点灯してから、点滅します。

傾斜センサーと車内検知機能は、次にロックをかけるまで、スイッチがオフになっています。

警報アラームを止める

- 車両を電子キーでロック解除します。
- 車両を内蔵キーでロック解除し、電子キーのエマージェンシー機能により走行スタンバイをオンにします (77 ページ参照) 。
- 電子キーを携行し、運転席ドアまたは助手席ドアのドアハンドルを完全に握ります。

パワーウィンドウ

一般事項

ウィンドウが外側から電子キーで開閉することができるようになっている。

詳しい情報：電子キー (72 ページ参照) 。

安全に関する注意事項

警告

ウィンドウを操作する場合は、身体の一部や物が挟まれるおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。開閉時には、ウィンドウが動く範囲に身体の一部がないことを確認してください。

概要

パワーウィンドウ

機能の前提条件

以下の前提条件が満たされている場合、ウィンドウを操作することができます。

- 作動スタンバイが確立されていること
- 走行スタンバイが確立されていること
- 停車状態が確立された後の特定の時間

電子キーが車内にあること

開ける

- スイッチを軽く止まる位置まで押します。

ウィンドウは、スイッチが保持されている間、開きます。

- スイッチを軽く止まる位置を越えるまで押します。

ウィンドウは自動的に開きます。スイッチを再び押すと、動きが止まります。

閉める

- スイッチを軽く止まる位置まで引きます。

ウィンドウは、スイッチが保持されている間、閉まります。

- スイッチを軽く止まる位置を越えるまで引きます。

ドアが閉まっている場合、ウィンドウは自動的に閉まります。もう 1 度引くと、動きが止まります。

はさみ込み防止

原理

はさみ込み防止機能は、ウィンドウ クローズ時に物や体の一部がドア フレームとウィンドウの間に挟まることを防ぎます。

一般事項

ウィンドウを閉めるときに、一定の力が加わると、閉まる動作が中断されます。

安全に関する注意事項

警告

ウィンドウにアンテナなどのアクセサリーを付けていると、はさみ込み防止機能が影響を受けるおそれや、けがをする危険があります。ウィンドウが動く範囲にはアクセサリーを付けないでください。

はさみ込み防止機能を作動させずに閉める

車外からの危険がある場合やウィンドウが凍り付いていて通常の閉め方ができない場合は、次のように操作してください：

1. スイッチを軽く止まる位置を越えるまで引き、保持します。

はさみ込み防止機能が制限されてウィンドウが閉まります。閉める力が特定の値を超えると、閉まる動作が中断されます。

2 スイッチを約 4 秒以内にもう 1 度、軽く止まる位置を越えるまで引き、保持します。

ウィンドウは、はさみ込み防止機能を作動させずに閉まります。

シート、ドア ミラーおよびステアリング ホイール

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

安全な座り方

乗員に最適なシート位置は、リラックスし疲労することなく運転するための前提条件といえます。

事故の際には、正しいシート位置が重要な役割を果たします。以下の章の注意事項を守ってください：

- シート (91 ページ参照)
- シート ベルト (94 ページ参照)
- ヘッドレスト (99 ページ参照)
- エアバッグ (155 ページ参照)

シート

安全に関する注意事項

警告

走行中にシート調節を行うと、不意にシートが動くおそれや、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。運転席シートは必ず車を止めた状態で調節してください。

警告

バック レストを後ろに傾けすぎることにより、シート ベルトの保護効果が保証されなくなります。事故の際に体がシート ベルトの下に滑り込んでしまう危険があります。けがをする危険または生命の危険があります。シートは走行前に調節してください。バック レストはできるだけ垂直の位置にして、走行中には変更しないでください。

警告

シートが動く際に挟まれる危険があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。設定の前に、シートが動く範囲に物がないことを確認してください。

手動調節シート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

概要

1 バック レスト角度
2 高さ
3 前後

前後

レバーを引いて、シートを希望の方向に動かします。

レバーを放してから、シートを軽く前 / 後に動かして確実にロックします。

高さ

シートが希望の高さになるまで、レバーを何度か上に引くか、下に押します。

バック レスト角度

レバーを引き、必要に応じてバック レストに力を加えるか、力を抜くようにします。

電動シート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

一般事項

運転席のシート調節は、そのとき使用しているドライバー プロファイル (61 ページ参照) に記憶されます。ドライバー プロファイルを選択すると、記憶されている位置が自動的に呼び出されます。

現在のシート位置をメモリー機能 (102 ページ参照) で記憶させることができます。

概要

1 バック レスト幅
2 バック レスト角度
3 運転席シートメモリー
4 前後方向、高さ、シート角度
5 ランバー サポート

前後

スイッチを前または後ろに押します。

高さ

スイッチを上または下に押します。

シート角度

スイッチを上または下に押します。

バック レスト角度

スイッチを前または後ろに動かします。

前部座席の校正

■ 一般事項

電動シート設定が正確に機能しなくなると同時に、コントロール ディスプレイにチェック コントロール メッセージが表示されます。

電動シート設定の精度を回復させるには、前部座席を校正する必要があります。

■ 安全上の注意事項

⚠ 警告

シートが動く際に挟まれる危険があります。けがをするおそれまたは損傷が発生する危険があります。設定の前に、シートの動作範囲に物がないことを確認してください。

■ 前部座席を校正する

1. シートが停止するまで、スイッチを前に押し続けます。
2. もう一度、シートが停止するまでスイッチを前方に押し続けます。
3. 希望するシート位置を再び設定します。

コントロール ディスプレイのメッセージが消えると、校正が完了しています。依然としてメッセージが表示されている場合には、校正を繰り返して下さい。

校正を繰り返してもメッセージが消えない場合は、トヨタ販売店にシステムの点検を依頼して下さい。

ランバー サポート

原理

バック レストの湾曲は、腰椎、脊椎前わんをサポートするように、変化させることができます。正しい乗車姿勢になるよう、骨盤の上縁と脊椎がまっすぐになるように支えます。

調節

・フロント / リア ボタンを押します：湾曲が強く / 弱くなります。

・ボタンの上 / 下を押します：湾曲が上に / 下に移動します。

バック レスト幅

原理

バック レスト幅を適切に調節することで、カーブ走行時に体の側面がより良く支えられるようになります。

一般事項

バック レスト幅を調節するために、運転席側バック レストのサイド サポートを変更することができます。

調節

・フロント ボタンを押します：バック レスト幅が小さくなります。

・リア ボタンを押します：バック レスト幅が大きくなります。

シート ベルト

一般事項

同乗者の安全のために、車両には 2 つのシートベルトが装備されています。シート ベルトは、正しく着用された場合にのみ保護機能を発揮します。

走行を開始する前に、全ての乗員が必ずシートベルトを着用してください。エアバッグは補助的な安全装置としてシート ベルトの機能を補助します。エアバッグはシート ベルトに代わるものではありません。

ベルト固定ポイントはすべて、シート ベルトの使用とシート調節が正しい場合にシート ベルトの最大限の保護効果が発揮されるように設計されています。安全な座り方に関する注記 (P.90 ページ参照)。

安全に関する注意事項

警告

1 本のシート ベルトを 2 人以上の乗員が着用すると、シート ベルトの保護効果が保証されなくなります。けがをする危険または生命の危険があります。必ず 1 本のシート ベルトを 1 人が着用してください。乳児や子供は膝の上にのせないで、専用のチャイルド レストレイント システムを使用して固定してください。

警告

シート ベルトを正しく着用していないと、シートベルトの保護効果が制限されるか、正常に働かないおそれがあります。シート ベルトを正しく着用していないと、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどにけがをするおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。全ての乗員がシート ベルトを正しく装着していることを確認してください。

警告

以下のような状況では、シート ベルトの保護効果が制限されるか、正常に働かないおそれがあります：

- シート ベルトまたはベルト キャッチが損傷している、汚れている、あるいは他の方法で改造されている
- シート ベルト プリテンショナーまたはシート ベルト リトラクターが改造されている

事故が起こった場合、シート ベルトは気がつかない程度に損傷している場合があります。けがをするおそれまたは生命の危険があります。シート ベルト、ベルト バックル、シート ベルト プリテンショナー、シート ベルト リトラクター、ベルト アンカーは改造せずに、清潔に保ってください。事故後は、トヨタ販売店にシート ベルトの点検を依頼してください。

シート ベルトの正しい使用

- シート ベルトはねじれないように、骨盤と肩にたるまないようにかけ、体に密着するように着用します。
- シート ベルトを骨盤部分で腰の深い位置に当てます。シート ベルトが腹部を押さえつけないように注意してください。
- シート ベルトを鋭利なものでこすったり、硬いものや壊れやすい物の上にかけたり、それらの物を挟んだりしないでください。
- かさのある厚手の衣服を避けてください。
- 胸元部分のシート ベルトをときどき上に引いて張り直してください。

正しい運転姿勢

安全運転の基本は、正しい運転姿勢です。運転姿勢を正しくすると、余分な疲れを減らすだけでなく、万一衝突したときでもシート ベルトやエアバッグなどの乗員保護装置が適切に機能を発揮し、人体が受ける衝撃やけがを軽減することができます。

シート ベルトの正しい着用

乗員保護の基本はシート ベルトであり、エアバッグはシート ベルトの補助装置にすぎません。シート ベルトを正しく着用すれば、万一衝撃を受けたときでも身体がシートに確実に固定されるので、身体を他の部分にぶつけたり、車外へ放り出されることもありません。そのため、全員がシート ベルトを着用する必要があります。ただし、着用方法を間違えると、乗員保護機能が著しく損なわれます。以下の説明に従い、正しい乗車姿勢と正しいシート ベルト着用方法を守ってください。

正しい乗車姿勢とシート ベルトの着用方法

A ヘッドレストの中央部が耳の高さと同じ

B ベルトがねじれないように着用

C ひじを少し曲げ、ステアリング ホイールの最上部を握れること

D ゆるみがなく、締め上げた状態で着用

E 腰ベルトが腰骨に　あたるように着用

F 深く座り、背もたれは寝かせすぎない

G 背中全体が背もたれに接すること

H 首にかからず、肩から外れない高さにする

警告

走行中は背もたれを倒しすぎないでください。

警告

背もたれを倒しすぎていると、急ブレーキをかけたときや万一衝突したとき、シート ベルトの乗員保護機能はまったく期待できません。また、身体が固定できないだけでなく、身体が前方へ滑り出して首などにシート ベルトが巻き付くことがあり、非常に危険です。

警告

全員がシート ベルトを正しく着用してください。

シート ベルトの着用は法律で義務づけられています。シート ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキや万一の事故のときなどにシートから滑り落ちたり、車外へ放り出されてしまい、けがをしたり、死亡するおそれがあります。また、正しい姿勢で乗車していないと、エアバッグが作動しても乗員保護効果が得られないばかりか、エアバッグがふくらむときに思わぬけがをすることがあります。

警告

妊娠中のシート ベルト着用について：

妊娠中も、必ずシート ベルトを着用してください。ただし、着用にあたっては、かかりつけの医師に相談し、その注意に従ってください。着用の際は、腰ベルトを下方にずらして腰骨の低い位置にかけ、肩ベルトは肩の中央から胸にかけるようにし、ベルトが腹部を圧迫しないようにしてください。

シート ベルトを締める

1 シート ベルトを着用する際は、肩と腰の上にゆっくりと伸ばします。

2 ベルトのプレートをシート ベルト キャッチに差し込みます。ベルト キャッチからロックする音が聞こえます。

シート ベルトを外す

1 シート ベルトを保持します。

2 ベルト キャッチの赤いボタンを押します。

3 シート ベルトを巻取装置に巻き取らせます。

運転席および助手席用シート ベルト警告

一般事項

運転席側のシート ベルトが着用されていない場合、シート ベルト警告機能が作動します。

一部の仕様では、助手席シート ベルトが着用されていなくて助手席シートに重い物が置いてある場合にも、シート ベルト警告が作動します。

走行中にシートベルトが外された場合も、シートベルト警告が作動します。

メーター パネル内の表示

車両メッセージが表示されます。シート ベルトが正しく着用されているか点検してください。

フロント ヘッドレスト

安全に関する注意事項

警告

ヘッドレストに物を付けていると、頭部および頸部の保護効果が低下します。けがをする危険があります。

- シート カバーまたはヘッドレスト カバーを使用しないでください。
- ハンガーなどをヘッドレストに直接掛けないでください。
- ヘッドレストに固定するのは、安全であることが確認されているアクセサリーのみを使用してください。
- 走行中にはクッションなどのアクセサリーを使用しないでください。

高さ調整

ヘッドレストの高さは調節できません。

間隔の調節

バック レストの角度を調節して、後頭部との間隔を調節します。

ヘッドレストができるだけ後頭部に近づくように間隔を調節してください。

取り外す

ヘッドレストを取り外すことはできません。

ドア ミラー

一般事項

現在使用しているドライバー プロファイル (61 ページ参照) に対して、ミラー設定がメモリーされます。ドライバー プロファイルを選択すると、記憶されている位置が自動的に呼び出されます。

メモリー機能 (102 ページ参照) で現在のドア ミラー位置を記憶させることができます。

安全に関する注意事項

警告

ミラーに映る対象物は、見た目よりも近くにあります。例えば車線変更の際に、後方の道路利用者との車間距離を正しく判断できない場合があります。事故の危険があります。後方の道路利用者との車間距離は、肩ごしに直接目で確かめてください。

概要

1 調節
2 ドア ミラーの選択、リバース連動機能
3 折りたたみ

ドア ミラーを調整する

ボタンを押します。

選択されたミラーはボタンの動きと同じように動きます。

ミラーの選択

逆のミラーへの切換え：スイッチを操作します。

故障

電気系統の故障の場合は、ミラーガラスの縁を押してミラーを調節してください。

折りたたみ

注意

車両の幅によっては、車両が自動洗車機で損傷する場合があります。損傷が発生するおそれがあります。洗車する前にドア ミラーを手で、またはボタンで折りたたんでください。

ボタンを押します。

折りたたみは、約 20km/h 以下の速度のときに行うことができます。

ドア ミラーの折りたたみは以下の状況で便利です：

- 自動洗車機に入れる場合
- 狭い道路に入る場合

折りたたまれたミラーは、速度が約 40km/h になると、自動的に開きます。

ドア ミラー ヒーター

左右のドア ミラーは、必要時および走行スタンバイをオンにすると自動的に温められます。

自動防眩

運転席側のドア ミラーは自動的に防眩されます。制御を行うのは、ルーム ミラー (101 ページ参照) のフォト セルです。

ドア ミラー下向き調節

原理

リバース ギアにシフトされている場合、助手席側のミラーが下方へ傾きます。これにより、駐車する際に縁石や路上近くの障害物が良く見えるようになります。

作動させる

1 スイッチを運転席側ドア ミラー位置にします。
2 セレクター レバーをポジション R にシフトします。

作動解除する

スイッチを助手席側ドア ミラー位置にします。

ルーム ミラー、自動防眩

一般事項

ルーム ミラーが自動的に防眩されます。

制御用のフォト セルは以下に設置されています：
・ ミラー ガラス内
・ ミラーの裏側

概要

機能の前提条件

・ フォト セルを清潔に保ってください。
・ ルーム ミラーとフロント ウィンドウ間の領域が覆われることのないようにしてください。

ステアリング ホイール

安全に関する注意事項

警告

走行中にステアリング ホイール調整を行うと、不意にステアリング ホイールが動くおそれがあり、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。ステアリングホイールは、必ず車両を停止した状態で調整してください。

ステアリング ホイール調節

1 レバーを完全に下に倒します。
2 ステアリングホイールを両手でつかみ、シート位置に合わせてステアリングホイールの前後方向と高さを調節します。
3 レバーを元に戻します。

メモリー機能

原理

メモリー機能により、以下の設定を記憶させ、必要に応じて呼び出すことができます：
・ シート位置
・ ドア ミラー位置
・ ヘッドアップ ディスプレイの高さ

一般事項

ひとつのドライバー プロファイル (61 ページ参照) につき 2 つのメモリー場所が割り当てられ、そこに異なる設定を記憶させることができます。

以下の設定はメモリーできません：
・ バック レスト幅
・ ランバー サポート

安全に関する注意事項

警告

走行中にメモリー機能を使用すると、不意にシートが動くおそれがあり、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。メモリー機能は、必ず車両を停止した状態で呼び出してください。

警告

シートが動く際に挟まれる危険があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。設定の前に、シートが動く範囲に物がないことを確認してください。

概要

メモリー ボタンは運転席にあります。

登録

1 希望する位置に調節します。
2 SET ボタンを押します。ボタンの文字が点灯します。

3 文字が点灯している間に、希望するボタン 1 または 2 を押します。ブザーが鳴ります。

シート位置の呼び出し

希望するボタン 1 または 2 を押します。

保存された位置が呼び出されます。

シート調節のスイッチを押した場合やいずれかのメモリー ボタンを再び押した場合、この動作は中止されます。

運転席側のシート位置の調節は、走行中しばらくすると中断します。

シート ヒーター★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

概要

シート ヒーター

オンにする

ボタンを 1 回押すごとに温度が段階的に切り換わります。

最高温度では、3 個の LED が点灯します。

オフにする

LED が消えるまでボタンを押し続けます。

お子様の安全について

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

お子様を乗せるとき

警告

保護者の責任でシート ベルトを着用させてください。

お子様を抱きかかえたり、ひざに乗せたまま走行することは危険です。急ブレーキをかけたときや万一の衝突時、ダッシュボードやフロントウィンドウなどに頭や顔を打ちつけたり、最悪の場合は、お子様が車外へ放り出されることがあります。

シート ベルトは、成人の身長や体重を前提に乗員の保護効果を発揮するように、設計されています。身長 150cm 以下のお子様には適切なサイズのトヨタ純正チャイルド シートを使用してください。また、走行中に車内を移動することは、非常に危険です。

警告

お子様だけを車内に残さないでください。

エンジンを止め、お子様も一緒に外に出て、ドアを施錠します。たとえ短時間であっても、以下のような場合がありますので、お子様だけを車内に残すことはたいへん危険です。

- 直射日光下では冬季でも車内温度が 50 ℃以上になることがあり、車内にいると熱射病や脱水症状を起こすおそれがあります。
- 操作スイッチなどをいたずらして、思わぬけがをするおそれがあります。
- ドアは大人が開閉し、ドアを閉めるときは、お子様の手や足がはさまれないように注意してください。
- ウィンドウの開口部から、お子様が顔や手足を出さないように注意し、パワーウィンドウの開閉スイッチに手を触れないようにしてください。

お子様の正しい乗車位置

安全に関する注意事項

警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- スタート/ストップボタンが押される
- パーキング ブレーキの解除
- ドアやウィンドウの開閉
- セレクター レバーがポジション N に入る
- 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

警告

高温になった車両は、人、特にお子様やペットの生命の危険をまねくおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。人、特にお子様やペットを車内に残したままにしないでください。

警告

チャイルド レストレイント システムおよびその部品は、日光が当たると非常に高温になるおそれがあります。高温になった部分に触れると、やけどやけがをするおそれがあります。チャイルド レストレイント システムは直射日光にさらさないようにするか、必要に応じてカバーをかけて、お子様を乗せる前にチャイルド レストレイント システムを冷ましてください。お子様を車内に残したままにしないでください。

助手席シート上のお子様

一般事項

助手席シートにチャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、助手席側のフロントおよびサイド エアバッグが作動解除されていることを確認してください。助手席エアバッグは、助手席エアバッグ用キー スイッチ (→P.164) からのみ作動解除することができます。

安全に関する注意事項

警告

助手席エアバッグがアクティブになっていると、エアバッグが作動した場合に、チャイルド レストレイント システムを使用しているお子様がけがをするおそれや危険があります。助手席エアバッグが作動解除され、PASSENGER AIRBAG OFF の警告灯が点灯していることを確認してください。

警告

身長が 150cm 未満のお子様は、適切な補助チャイルド レストレイント システムを用いなければ、シート ベルトを正しく着用することができません。
シート ベルトを正しく着用していないと、シート ベルトの保護効果が制限されるか、正常に働かないおそれや、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどにけがをするおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。身長が 150cm 未満のお子様は適切なチャイルド レストレイント システムで固定してください。

チャイルド シートの取付け方法

一般事項

トヨタ販売店では、お子様の年齢や体重に合った適切なチャイルド レストレイント システムをご用意しています。

チャイルド レストレイント システムの選択、取付け、使用の際には、チャイルド レストレイント システムのメーカーの指示、使用上および安全上の注意事項を守ってください。

安全に関する注意事項

警告

チャイルド レストレイント システムと固定システムが損傷した場合または事故により変形した場合は、保護効果が制限されたり、働かなくなるおそれがあります。事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに、お子様を十分に拘束することができません。けがをする危険または生命の危険があります。

チャイルド レストレイント システムと固定システムが損傷した場合または事故により変形した場合は、引き続き使用しないでください。

固定システムが損傷または事故により変形した場合は、トヨタ販売店に点検および交換を依頼してください。

警告

シート設定が正しくない場合やチャイルド シートの取り付けが正しくない場合は、チャイルドレストレイント システムの安定性が制限されるか、損なわれます。けがをするおそれまたは生命の危険があります。チャイルド レストレイントシステムがバックレストにしっかり固定されていることを確認してください。該当する全てのバックレストで、バックレスト角度をできるだけ適切に合わせ、シートを正しく調整してください。シートとバックレストが正しくかみ合っていること、またはロックされていることを確認してください。必要であれば、ヘッドレストの高さを調整するか取り外してください。

助手席シート上のお子様

エアバッグを作動解除する

警告

助手席エアバッグがアクティブになっていると、エアバッグが作動した場合に、チャイルド レストレイント システムを使用しているお子様がけがをするおそれや危険があります。助手席エアバッグが作動解除され、PASSENGER AIRBAG OFF の警告灯が点灯していることを確認してください。

助手席シートにチャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、助手席側のフロントおよびサイド エアバッグが作動しないようになっていることを確認してください。エアバッグをオフにすることができない場合は、チャイルド レストレイントシステムを取り付けないでください。

助手席エアバッグをキー スイッチで作動解除します (→P.164) 。

助手席へのチャイルド シート取付けに関する警告ラベル

警告

助手席エアバッグの作動の際、後ろ向きのチャイルド レストレイント システムに着座している子供が致命的なけがを負うおそれがあります。けがの危険または生命の危険があります。助手席には後ろ向きにチャイルド シートを取り付けないでください。

助手席側のサンバイザーに警告ラベルが貼付されていますので、記載内容をご確認ください。

シート位置とシートの高さ

汎用チャイルド レストレイント システムを取り付けた後に、助手席シートをできるだけ後ろの位置に、また最も上の位置に調節します。このシート位置と高さでは、事故が起きた場合にシート ベルトが最適に伸びてお子様を効果的に保護できます。

シート ベルトの上部固定ポイントがチャイルドシートのシート ベルト ガイドより前にある場合、助手席シートを慎重に前方にずらしながら、シート ベルト ガイドを最適な位置にします。

バック レスト幅

バック レスト幅が調整可能な場合：助手席シートにチャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、バック レスト幅を完全に開いてください。この位置でバック レスト幅を変更しないでください、またメモリー ポジションを呼び出さないでください。

ISOFIX チャイルド シート マウント

一般事項

ISOFIX チャイルド レストレイント システムの選択、取付け、使用の際には、チャイルド レストレイント システムのメーカーの指示、使用上および安全上の注意事項を守ってください。

適切な ISOFIX チャイルド シート

特定の ISOFIX チャイルド シートのみ、それに適したシートで使用することができます。対応する体格クラスと体格カテゴリーは、チャイルド シートの注意書にアルファベットまたは ISO 表記で記されています。

チャイルド レストレイント システム（ISOFIX）に適しているまたは ISOFIX に準拠する場合の、各シートでのチャイルド レストレイント システムの使用についての情報：チャイルド レストレイントシステムに適したシート (→P.110) を参照。

ISOFIX チャイルド シート用の下部マウント

一般事項

ベルト一体型のチャイルド レストレイント システムを下の ISOFIX チャイルド シート アンカーに固定する場合は、以下の点に注意してください：

お子様とチャイルド レストレイント システムを合わせた総重量が 33kg を超えないようにします。

安全に関する注意事項

警告

ISOFIX チャイルド レストレイント システムが正しくロックされていないと、ISOFIX チャイルド レストレイント システムの保護効果が制限されるおそれがあり、けがをする危険または生命の危険があります。下部アンカーが正しくロックされていること、ISOFIX チャイルド レストレイント システムがバック レストにしっかり固定されていることを確認してください。

警告

車両のチャイルド レストレイント システム用の固定点は、チャイルド レストレイント システムの取付け専用です。他のものを固定すると、固定ポイントが損傷するおそれがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。この固定点にはチャイルド レストレイントシステムのみを固定してください。

位置

ISOFIX 下部アンカー用のマウントは、シートとバック レストの間の隙間にあります。

ISOFIX チャイルド レストレイント システムの取付け前

チャイルド シート マウントの領域からシート ベルトを引き出します。

ISOFIX チャイルド レストレイント システムの取付け

1 チャイルド レストレイント システムを取り付けます。メーカーの注意事項を参照してください。
2 左右の ISOFIX チャイルド シートアンカーが正しく固定されていることを確認してください。

ISOFIX トップ テザー用マウント

安全に関する注意事項

警告

チャイルド レストレイント システムでトップ テザーを不適切に使用すると、保護効果が低下するおそれがあり、けがをする危険があります。トップ テザーが鋭いエッジの上を通らないよう、またねじれないようにして、トップ テザーを上部固定ベルトまで取り回すように注意してください。

警告

車両のチャイルド レストレイント システム用の固定点は、チャイルド レストレイント システムの取付け専用です。他のものを固定すると、固定ポイントが損傷するおそれがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。この固定点にはチャイルド レストレイントシステムのみを固定してください。

固定ポイント

シンボル	意味
	シンボルはトップ テザーの固定ポイントを示しています。

ISOFIX チャイルド レストレイント システムのトップ テザー用として、1 つの固定点があります。

トップ テザーの取り回し

1 走行方向
2 ヘッドレスト
3 トップ テザーのフック
4 固定ポイント / 固定用アイ
5 車両フロア
6 シート
7 トップ テザー

トップ テザーを固定ポイントに取り付ける

1 固定ポイントのカバーを開けます。
2 トップ テザーをヘッドレスト上から固定点に取り回します。
3 固定ベルトのフックを固定ポイントにかけます。
4 固定ベルトをたるみがないように締めます。

チャイルド レストレイント システムに適した座席

概要

一般事項

法規定が定める各チャイルド シートの対象年齢や身長は、国によって異なる場合があります。各国の法規に注意してください。

詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

それぞれのシートにおけるチャイルド レストレイント システムの有効性についての情報、規格 ECE-R 16 および ECE-R 129 に準拠。

助手席におけるチャイルドシートの適合性

*1, 2	*3
1	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.113）に記載されたチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席エアバッグを作動解除してください。チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

※3助手席エアバッグが作動する場合は、チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	①	
	エアバッグ作動スイッチ	
	ON	OFF
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3/×）	×	R1, R2※

着座位置		
シート位置の番号	①	
	エアバッグ作動スイッチ	
	ON	OFF
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	B2, B3	B2, B3

※ シート高さを一番低い位置に調整してください。

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置	
		エアバッグ作動スイッチ	
		①	
		ON	OFF
0、0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

● サポートレッグ付きチャイルドシートを使用する場合は、フロアマットを取り除いてください。

走行

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

スタート / ストップボタン

原理

スタート / ストップボタンを押すことにより、走行スタンバイ (→P.41) をオンまたはオフにすることができます。

ブレーキを踏みながらスタート / ストップボタンを押すと、走行スタンバイがオンになります。

スタート / ストップボタンを再度押すと、走行スタンバイがオフになり、作動スタンバイ (→P.41) がオンになります。

詳しい情報：

- 走行スタンバイ (43ページ参照)
- 作動スタンバイ (P.42 ページ参照)

発進

1 走行スタンバイをオンにします。
2 ドライブ ポジションにシフトします。
3 パーキング ブレーキを解除します。
4 発進します。

アイドリングストップ機能

原理

アイドリングストップは燃料の節約に役立ちます。そのため、このシステムは、渋滞時や信号待ちなどでの停車時にエンジンを停止します。走行スタンバイはオンのままです。発進するときに、エンジンが自動的に始動します。

一般事項

スタート / ストップボタンによるエンジン スタートのたびに、アイドリングストップが作動可能状態になります。この機能は、約 5km/h 以上で作動します。

選択した走行モード (→P.129) に応じて、システムは自動的に作動または作動解除されます。

エンジン ストップ

機能の前提条件

以下の条件下では、停車中にエンジンが自動的に停止します：

- セレクター レバーがポジション D
- ブレーキ ペダルが車両停止状態の間、踏まれている
- 運転席シート ベルトが締められている、または運転席ドアが閉じている

手動によるエンジン ストップ

車両を停止させたときにエンジンが自動的にオフにならなかった場合は、エンジンを手動でオフにすることができます：

- ブレーキ ペダルを現在の位置から素早く踏み込みます。
- セレクター レバーをポジション P にシフトします。

全ての機能前提条件が満たされていれば、エンジンがオフになります。

エンジン停止時のエアコン

エンジンを停止した状態では、エアコンの風量が減少します。

メーター パネル内の表示

■ 一般事項

メーターパネルの表示は、アイドリングストップ機能が自動エンジン スタートの準備を完了していることを示しています。

この表示は、アイドリングストップの条件が整っていないことを示すものです。

機能制限

以下の状況では、エンジンは自動的に停止しません：

- 急な下り坂の場合
- ブレーキが十分に強く踏まれていないとき
- 外気温度が高く、オートエアコンが作動している
- 車内がまだ希望の温度に暖められていない、または冷却されていない
- オートエアコンをオンにした状態でウィンドウが曇りそうなとき
- エンジンまたはその他の部品がまだ暖機状態に達していない
- エンジン冷却が必要
- ステアリング アングルが大きい、または急ハンドルが切られたとき
- 車両バッテリーが著しく放電している
- 標高が高い場合
- ボンネットがロック解除されている
- パーキング アシスタントが作動している
- 停止と発進を繰り返す渋滞
- セレクター レバー ポジションが N または R
- 後退走行の後
- エタノール濃度が高い燃料の使用

エンジン スタート

機能の前提条件

発進するときに、次の条件が満たされていればエンジンが自動的に始動します：

● ブレーキ ペダルを解除する

発進

エンジンを始動した後、通常通り加速します。

セーフティ機能

次の条件の一つに当てはまると、エンジンは自動停止後、自動的には始動しません：

● 運転席シート ベルトが外れていて、運転席ドアが開いている

● ボンネットがロック解除された

いくつかの警告灯の点灯時間は異なります

スタート / ストップボタンでのみエンジンをスタートすることができます。

システムの限界

発進するつもりでない場合でも、停止したエンジンは以下の状況で自動的に始動します：

● 高温の車内で、エアコンをオンにしたとき

● 低温の車内で、ヒーターをオンにしたとき

● オートエアコンをオンにした状態でウィンドウが曇りそうなとき

● ステアリングを操作した場合

● セレクター レバーをポジション D から N または R にシフトしたとき

● セレクター レバーをポジション P から N、D または R にシフトしたとき

● 車両バッテリーが著しく放電している

● オイル レベル測定の開始

システムを手動で作動解除する / 作動させる

原理

エンジンは自動的に停止しません。

オート ストップ中はエンジンが始動します。

ボタンによる

OFF ボタンを押します。

セレクター レバー ポジションから

アイドリングストップは、セレクター レバー ポジションが M のときにもオフになります。

スポーツモードスイッチ

アイドリングストップは、走行モード SPORT になっているときもオフになります。

オート エンジン ストップ中に車両を駐車させる

■ **一般事項**

オート ストップの際に、例えば車両を離れるために車両を確実に停止させることができます。

■ **オートマチック トランスミッション**

1 スタート / ストップボタンを押します。

● 走行スタンバイがオフになるとき

● 作動スタンバイがオンになります

● セレクター レバーがポジション P に自動的にシフトされます。

2 パーキング ブレーキをかけます。

自動的作動解除

一般事項

ドライバー不在が検知されるなどの特定の状況では、安全を確保するためにアイドリングストップが自動的に作動解除されます。

故障

アイドリングストップは、エンジンを自動的に停止しなくなります。車両メッセージが表示されます。走行を続けることはできます。システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

パーキング ブレーキ

原理

パーキング ブレーキは、停車中の車両が動き出さないようにするために使います。

安全に関する注意事項

警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうなどの事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

● パーキング ブレーキをかける

● 上り坂または下り坂では、フロントホイールを縁石の方向に向ける

● 上り坂または下り坂では、輪止めなどを使用して車両を補助的に固定する

警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- スタート/ストップボタンが押される
- パーキング ブレーキの解除
- ドアやウィンドウの開閉
- セレクター レバーがポジション N に入る
- 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

概要

パーキング ブレーキ

ブレーキをかける

車両停止時

スイッチを引き上げます。
LED が点灯します。
メーター パネルの表示灯が赤色に点灯します。パーキング ブレーキが作動しています。

走行中

■ **一般事項**

走行中に使用する場合は緊急ブレーキ機能として働きます。

スイッチを引き上げ、保持します。車両は、スイッチが引かれている間、強くブレーキをかけます。

メーター パネルの表示灯が赤色に点灯し、ブザーが鳴り、ブレーキ ライトが点灯します。

車両メッセージが表示されます。

車両停止時にパーキング ブレーキがかかります。

解除する

手動で解除する

1 走行スタンバイをオンにします。

2 ブレーキを踏んで、またはセレクター レバーをポジション P にして、スイッチを押します。

LED と表示灯が消えます。

パーキング ブレーキが解除されている。

自動解除

発進すると、パーキング ブレーキが自動的に解除されます。

LED と表示灯が消えます。

故障

パーキング ブレーキに故障または障害がある場合：

降車後、輪止めなどで車両を動き出さないように固定します。

電源が遮断した後

電源の遮断後にパーキング ブレーキの機能を回復させるため：

1 走行スタンバイをオンにします。
2 ブレーキを踏んで、またはセレクター レバーをポジション P にして、Ⓟスイッチを引き、その後押します。

このプロセスは数秒かかる場合があります。場合により音がすることがありますが、異常ではありません。

パーキング ブレーキが再び作動可能な状態になると、表示灯が消えます。

方向指示灯

ドア ミラーの方向指示灯

ドア ミラーの方向指示灯はよく見えるようにしておく必要があるので、走行時および方向指示灯またはハザード フラッシャーの作動中にドア ミラーを折りたたまないでください。

方向指示灯を使う

レバーを上または下へ軽く止まる位置を越えるまで押します。

3 ターン シグナル

レバーを軽く上または下へ押します。

3 ターン シグナルの継続時間を設定することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エクステリアライト」
4 「ターンシグナル」
5 希望する項目を選択します。

短時間の点滅

レバーを上または下へ軽く止まる位置まで押し、点滅を続けたい間、保持します。

ヘッドライト、ハイビーム

レバーを前に押すか、後ろに引きます。

1 ヘッドライトハイビーム オン（矢印 1）

ヘッドライトハイビームは、ロー ビームがオンのときに点灯します。

2 ヘッドライト オフ/ハイビーム オン（矢印 2）

ワイパー

一般事項

ワイパー ブレードの摩耗が早まったりワイパーブレードが損傷するおそれがあるため、フロントウィンドウが乾いているときにワイパーを使用しないでください。

ワイパーは作動スタンバイがオンのときに作動します。

安全に関する注意事項

警告

ワイパーを起こした状態で動かすと、身体の一部が挟まれたり、車両の一部が損傷するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーを起こすときにはイグニッションがオフになっていること、またイグニッションをオンにするときにはワイパーが折りたたまれていることを確認してください。

注意

ウィンドウが乾いた状態でワイパーを長時間作動させると、ワイパー ブレードが摩耗したり、損傷したりするおそれがあります。ワイパーモーターが異常過熱するおそれがあります。また、周囲の物が損傷する危険があります。ウィンドウが乾燥している状態でワイパーを使用しないでください。

注意

ワイパーが凍結している場合、ワイパーをオンにしたときにワイパー ブレードが裂けたり、ワイパー モーターが過熱したりするおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーをオンにする前にウィンドウの霜取りをしてください。

オンにする

レバーを、希望する位置になるまで上方に押します。

- ワイパーの停止位置：位置 **0**
- レイン センサー：位置 **1**
- 標準作動：位置 **2**

停車中は、間欠作動に切換えられます。

- 高速作動：位置 **3**

停車中は、標準作動に切り換わります。

ワイパー システムをオンにした状態で走行を中断した場合：走行が再開されると、ワイパーはあらかじめ設定されたレベルで動作します。

スイッチをオフ、ワンタッチ ワイパー

レバーを下に押します。

- オフにする：レバーを 0 位置になるまで下に押します。
- ワンタッチ ワイパー：レバーを 0 位置から下に押します。

手をは放すと、レバーは 0 位置に戻ります。

レイン センサー

原理

レイン センサーは、雨の強さに合わせてワイパー作動を自動的に制御します。

一般事項

センサーは、フロント ウィンドウのルーム ミラーのすぐ前にあります。

安全に関する注意事項

注意

レイン センサーがオンになっていると、洗車機に入れたときにワイパーが不意に動き出すおそれや、損傷が発生するおそれがあります。洗車機ではレイン センサーを作動解除してください。

作動させる

レバーを基本位置から 1 回上方に押します、矢印 **1**。

ワイパー動作がスタートします。

ワイパー レバーの LED が点灯します。

氷点下ではワイパー動作がスタートしない場合があります。

作動解除する

レバーを押して基本位置に戻します。

レイン センサー感度を設定する

レイン センサーの感度を調節するにはダイヤルを回します。

上に回す：レイン センサーの感度が上がります。

下に回す：レイン センサーの感度が下がります。

ウィンドウ ウォッシャー

安全に関する注意事項

警告

温度が低すぎる場合、ウォッシャー液がガラス上で凍って、視界が狭くなるおそれや、事故の危険があります。
ウォッシャーは、ウォッシャー液が凍らないときにのみ使用してください。
必要に応じて凍結防止剤を使用してください。

注意

ウォッシャー タンクが空のときには、ウォッシャー ポンプが所定の作動を行えません。損傷が発生するおそれがあります。ウォッシャータンクが空のときにはワイパーを使用しないでください。

フロント ウィンドウを清掃する

レバーを引きます。

ウォッシャー液がフロント ウィンドウに吹き付けられ、ワイパーが短時間オンになります。

ウォッシャー ノズル

作動スタンバイをオンにすると、ウォッシャー ノズルが自動的に温められます。

ワイパーサービスポジションへの切換え

原理

ワイパーサービスポジションではワイパーをフロント ウィンドウから起こすことができます。

一般事項

ワイパー ブレードの交換や、または氷点下時にワイパーを起こす際に用います。

安全に関する注意事項

警告

ワイパーを起こした状態で動かすと、身体の一部が挟まれたり、車両の一部が損傷するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーを起こすときにはイグニッションがオフになっていること、またイグニッションをオンにするときにはワイパーが折りたたまれていることを確認してください。

注意

ワイパーが凍結している場合、ワイパーをオンにしたときにワイパー ブレードが裂けたり、ワイパー モーターが過熱したりするおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーをオンにする前にウィンドウの霜取りをしてください。

ワイパーを起こす

1 作動スタンバイをオンにします。

2 ワイパーがほぼ垂直の位置に自動で止まるまで、ワイパー レバーを下に押し続けます。

3 ワイパーを持ち上げて、フロント ウィンドウから完全に離します。

ワイパーを倒す

ワイパーを倒した後、ワイパー シ

ステムを再び作動させる必要があります。

1 ワイパーをフロント ウィンドウに完全に倒します。
2 作動スタンバイをオンにして、ワイパー レバーを再び下に押し続けます。
3 ワイパーが停止位置に戻り、再び作動可能な状態になります。

オートマチック トランスミッション

原理

オートマチック トランスミッションでは、必要に応じて手動でシフトできる機能が統合されています。

安全に関する注意事項

警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定します。例えばパーキング ブレーキをかけます。

セレクター レバー ポジション

D ドライブ ポジション

通常走行するときのセレクター レバー ポジションです。前進走行用の全てのギアに自動的にシフトされます。

R リバース（後退）

必ず停車している状態で、セレクター レバーをポジション R にします。

N ニュートラル

セレクター レバー ポジション N では、例えば自動洗車機で車両を移動させたり、またはエンジン パワーなしで動かす (→126) ことができます。

P パーキング

例えば車両を停止するとき用のセレクター レバー ポジションです。セレクター レバー ポジション P では、トランスミッションによって駆動輪がブロックされます。

必ず停車している状態で、セレクター レバーをポジション P にします。

■ P への自動シフト

例えば以下の状況のときに、セレクター レバーはポジション P に自動的にシフトされます：

- 走行スタンバイをオフにした後に、セレクターレバー ポジションが R、D または M になっているとき
- セレクター レバーがポジション N に入っているときに、作動スタンバイをオフにした後
- 停車時にセレクター レバーをポジション D、M または R にシフトした状態で運転席のシート ベルトを外し、ブレーキを操作せ

ずに運転席ドアを開いた場合

セレクター レバー ポジションに入れる

一般事項

ギアがドライブ ポジションに入っている場合は車両が動き出しますので、発進するまでの間はブレーキを踏んでいてください。

機能の前提条件

走行スタンバイがオンでブレーキを踏んでいる場合にのみ、セレクター レバー ポジション P から別のセレクター レバー ポジションへのシフトが行われます。

全ての技術的な前提条件が満たされている場合にのみセレクター レバー ポジション P を終了することができる場合があります。

セレクター レバーをポジション D、N、R にシフトする

セレクター レバー ロックは、以下の誤操作を防止します：

- セレクター レバー ポジションR への間違ったシフト
- セレクター レバー ポジションP から別のセレクター レバー ポジションへの間違ったシフト

1 運転席シート ベルトを着用します。

2 セレクター レバー ロックを解除するには、ボタンを押して、そのまま押し続けます。

3 セレクター レバーを希望する方向に軽く押します。必要に応じて軽く止まる位置まで押します。手を離すと、セレクター レバーは中央位置に戻ります。

セレクター レバーをポジション P にする

P ボタンを押します。

車両を動かす / 移動する

一般事項

例えば自動洗車機や車両の移動などの状況で、車両をエンジン パワーなしで短い距離だけ動かさなければならないことがよくあります。

セレクター レバー ポジション N にシフトする

1 ブレーキを踏みながら走行スタンバイをオンにします。
2 必要に応じてパーキング ブレーキを解除します。
3 ブレーキ ペダルを踏みます。
4 セレクター レバー ロックを操作し、ニュートラル ポジション N にします。
5 走行スタンバイをオフにします。

この方法で作動スタンバイはオンに維持され、車両メッセージが表示されます。

車輪がロックされないので、車両を移動させることができます。

⚠ 注意

作動スタンバイがオフになると、自動的にセレクター レバー ポジションがPになります。損傷が発生するおそれがあります。自動洗車機では作動スタンバイをオフにしないでください。

作動スタンバイに関係なく、約 35 分後にセレクター レバーはポジション P に自動的にシフトされます。

故障の場合は、セレクター レバー ポジションの切換えができないことがあります。

必要に応じてトランスミッション ロックを電子的にロック解除します (→P.128)。

キック ダウン

キック ダウンにより、最大の走行能力が得られます。

アクセル ペダルを抵抗を超えて踏み込みます。

マニュアル モード

原理

マニュアル モードでは、手動でギアをシフトすることができます。

マニュアル モードを作動させる

セレクター レバーをセレクター レバー ポジション D から出して、左に押します。

メーター パネルには、シフトされているギアが表示されます（例：1M）。

トランスミッションのスポーツ プログラムが作動しています。

切換え

- シフト ダウン：セレクター レバーを前方に押します。
- シフト アップ：セレクター レバーを後方に引きます。

マニュアル モードを終了する

セレクター レバーを右に押します。

メーター パネル内に、D が表示されます。

パドル スイッチ

原理

ステアリング ホイールのパドル スイッチを使用すると、手をステアリング ホイールから離さずにギアを素早くシフトすることができます。

一般事項

■ シフト動作

シフト動作は、回転数と速度が適切な場合にのみ行われます。

■ 短時間のマニュアル モード

セレクター レバー ポジション D では、パドル スイッチの操作後に一時的にマニュアル モードに切り換えられます。

マニュアル モード時に一定時間控えめに走行し、加速せず、パドル スイッチでシフトを行わなかった場合、トランスミッションは再びオートマチック モードに切り換わります。

以下の手順でオートマチック モードへの切換えが行えます：

- 右のパドル スイッチを長く引きます。
- 右のパドル スイッチを短く引き、さらに左のパドル スイッチを短く引きます。

■ 継続的なマニュアル モード

セレクター レバー ポジション M では、パドル スイッチの操作後に持続的にマニュアル モードに切り換えられます。

切換え

- シフト アップするときは、右のパドル スイッチを短く引きます。
- シフト ダウン：左のパドル スイッチを短く引きます。
- 左パドル スイッチを長く引くことにより、可能な限り低いギアにシフト ダウンされます。

メーター パネルには選択したギアが短時間表示され、その後、実際にシフトされているギアが表示されます。

メーター パネル内の表示

セレクター レバー ポジション（例えば P）が表示されます。

トランスミッション ロックを電子的にロック解除

一般事項

車両を危険領域から移動させるために、トランスミッション ロックを電子的にロック解除します。

始動装置がエンジンを回転させることができる場合に、ロック解除が可能です。

トランスミッション ロックを解除する前に、パーキング ブレーキをかけて、車両が動き出すのを防止してください。

セレクター レバー ポジション N にシフトする

1 ブレーキ ペダルを踏み、そのまま保持します。
2 スタート / ストップボタンを押します。始動装置の始動音が聞こえる必要があります。スタート / ストップボタンを押し続けます。
3 空いている手でセレクター レバーのボタンを押し、矢印 1、セレクター レバーをポジション N に押し、メーター パネルにセレクターレバー ポジション N が表示されるまでそのまま維持します、矢印 N。

車両メッセージが表示されます。

4 スタート / ストップボタンおよびセレクター レバーを放します。
5 始動装置が止まったらブレーキをゆるめます。
6 車両を危険領域から移動し、車両が動き出さないように固定します。

詳しい情報については、けん引 (→P.297) の章を参照してください。

ローンチ コントロール

原理

乾燥した周囲条件の場合に、ローンチ コントロールはグリップの良い路面での最適な加速を実現します。

一般事項

ローンチ コントロール機能は車両に非常に高い負荷をかけるので、この機能の使用により構成部品の摩耗が早まります。

慣らし運転 (→P.236) の期間中はローンチ コントロールを使用しないでください。

ローンチ コントロールを使用して発進する際には、ステアリングを切ってはなりません。

機能の前提条件

ローンチ コントロールは、エンジンが暖機状態になっているときに使用できます。エンジンは、10km 以上の距離を中断なく走行した後に暖機状態になります。

ローンチ コントロールによる発進

1 走行スタンバイをオンにします。

2 スポーツモードスイッチを押します。

メーターパネルに SPORT が表示され、スポーツモードが選択されます。

3 OFF ボタンを押します。

メーター パネルに TRACTION が表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

4 セレクターレバーをポジション D にシフトします。

5 左足でブレーキを強く踏みます。

6 アクセル ペダルを、フルロードポイントでの抵抗を超えて踏み込み、維持します（キックダウン）。

メーター パネル内に、フラッグ シンボルが表示されます。

7 エンジンは発進回転数に制御されます。3 秒以内にブレーキをゆるめます。

1 回の走行での再使用

ローンチ コントロールの使用後は、再使用する前にトランスミッションを約 5 分間冷ます必要があります。再使用する場合、ローンチ コントロールは周囲条件に適合するように調整されます。

ローンチ コントロールの使用後

走行安定性を高めるために、ビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール、VSC をできるだけ早く再作動させてください。

システムの限界

熟練したドライバーは VSC OFF モードで、さらに高い加速度値を得られる場合があります。

スポーツモードスイッチ

原理

スポーツモードスイッチは車両の走行ダイナミクスを調整します。

一般事項

例えば、以下のシステムが調整されます：

● エンジン特性曲線

● オートマチック トランスミッ

ション

- アダプティブバリアブルサスペンション
- ステアリング
- メーター パネル内の表示
- レーダークルーズコントロール

概要

メーター パネル内の表示

メーター パネルに走行モードが表示されます。

走行モード

車両のスイッチ

ボタン	走行モード	設定
SPORT	SPORT	INDIVIDUAL

走行スタンバイをオンにしたときには、走行モード NORMAL が自動的に選択されます。

走行モードの詳細

NORMAL

■ **原理**

スポーティな走行と燃費を重視した走行の間のつり合いの取れた調整です。

SPORT

■ **原理**

サスペンションの最適化により、俊敏性を高めた、ダイナミックな調整。

■ **オンにする**

スイッチを押して、SPORT を表示させます。

カスタマイズ設定

■ **原理**

走行モードカスタマイズ設定 では個別の設定を行うことができます。

■ **設定**

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「SPORT INDIVIDUAL 設定」
4 「カスタマイズ設定」
5 希望する項目を選択します。

カスタマイズ設定を標準設定にリセットする：「SPORT STANDARD にリセットします」.

表示

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

メーター パネル

原理

メーター パネルは可変表示されます。スポーツモードスイッチによりプログラムを変更すると、メーター パネルの表示が走行モードに合ったものとなります。

一般事項

メーター パネルの表示の変更は Toyota Supra Command でオフにすることができます。

メーター パネルの表示は、この取扱説明書に示した表示と一部異なる場合があります。

概要

1 燃料計 (→P.136)
2 スピードメーター
3 タコメーター (→P.136)
スポーツモードスイッチステータス (→P.129)
4 時刻 (→P.57)
5 可変表示 (→P.131)
6 外気温度 (→P.138)
7 エンジン冷却水温度 (→P.137)
8 車両メッセージ (→P.132)
総航続可能距離 (→P.141)
9 セレクター レバー ポジション表示 (→P.124)
10 可変表示 (→P.131)

可変表示

メーター パネルの一部の領域に、レーダークルーズコントロールなどのさまざまなアシスタンス システムを表示させることができます。装備に応じて表示が異なる場合があります。

スポーツモード表示

原理

メーター パネルでは、表示をスポーツモードに変更することができます。

表示を変更する

ボタンを押して SPORT を表示させます。

走行モードがスポーツモードに変更されます。

車両メッセージ

原理

車両メッセージは、車両の機能をモニターし、モニターされたシステムに故障がある場合、メッセージを出します。

一般事項

車両メッセージは、表示灯または警告灯とメーター パネル内のテキスト メッセージとを組み合わせて、また必要に応じてヘッドアップ ディスプレイに表示されます。

さらに、必要に応じてブザーが鳴り、コントロール ディスプレイにテキスト メッセージが表示されます。

車両メッセージの非表示

ターン インジケーター レバーのボタンを押します。

持続的な表示

いくつかの車両メッセージは持続的に表示され、故障が解消されるまで消えません。複数の故障がある場合、メッセージは順番に表示されます。

これらのメッセージは、約 8 秒間、非表示にすることができます。その後メッセージは再び自動的に表示されます。

一時的な表示

一部の車両メッセージは、約 20 秒後に自動的に非表示になります。これらの車両メッセージはメモリーされ、再び表示させることができます。

記憶された車両メッセージを表示する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両ステータス」

3 ⚠「車両メッセージ」
4 テキスト メッセージを選択する。

表示

車両メッセージ

車両メッセージが 1 件以上表示されるか、保存されています。

テキスト メッセージ

メーター パネル内のテキスト メッセージは、表示されるシンボルとの組み合わせにより、車両メッセージおよび表示灯や警告灯の意味を説明します。

補足情報の表示

故障の原因や、対応する操作の必要性などの補足情報を、車両メッセージによって呼び出すことができます。

緊急メッセージの場合、コントロール ディスプレイに自動的に補足テキストが表示されます。

車両メッセージに応じて、詳細なヘルプを選択することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 ⚠「車両メッセージ」
4 希望するテキスト メッセージを選択します。
5 希望する設定を選択します

走行後のメッセージ表示

走行中に表示された特定のメッセージは、作動スタンバイをオフにした後に再表示されます。

表示灯と警告灯

原理

メーター パネルの表示灯と警告灯は、車両のいくつかの機能のステータスを示し、モニターされたシステムに故障がある場合に、そのことを伝えます。

一般事項

表示灯と警告灯は、異なった組み合わせと色で点灯します。

いくつかの表示灯 / 警告灯は、走行スタンバイがオンにされたときに機能点検が行われ、短時間点灯します。

赤色のライト

シート ベルト警告

運転席側のシート ベルトが着用されていません。一部の仕様では、助手席シート ベルトが着用されていないか、または助手席シート上に重い物があることが検知されました。

シート ベルトが正しく着用されているか点検してください。

エアバッグ システム

エアバッグ システムとシート ベルト プリテンショナーに異常がある可能性があります。

直ちに車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

パーキング ブレーキ

パーキング ブレーキが作動しています。

パーキング ブレーキを解除します (→P.117) 。

ブレーキ システム

ブレーキ システムに異常があります。穏やかに走行を継続します。

直ちに車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

一般的な衝突の危険

衝突のおそれがある場合、表示灯が点灯または点滅し、信号音が鳴ります。

プリクラッシュセーフティ (対歩行者・自転車) (→173)

黄色のライト

アンチロック ブレーキ システム (ABS)

ブレーキ ブースターが故障している可能性があります。急ブレーキを回避します。通常より長い制動距離を考慮してください。

直ちにトヨタ販売店に点検を依頼してください。

ビークルスタビリティコントロール

表示灯が点滅する：VSC が、駆動力と制動力を調節しています。車両が安定化されます。速度を落として、運転の仕方を道路の状況に合わせてください。

表示灯が点灯する：VSC が故障しています。

直ちにシステムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

VSC (→P.189)

ビークルスタビリティコントロール（VSC）が作動解除またはトラクションモードが作動

VSC が作動解除されています、またはトラクションモードが作動しています。

VSC (→P.189) と トラクションモード (→P.191)

タイヤ空気圧警報（TPM）

表示灯が点灯：タイヤ空気圧警報がタイヤ空気圧の低下またはタイヤパンクを知らせています。車両メッセージの情報を確認してください。

表示灯が点滅し、その後常時点灯：タイヤのパンクまたはタイヤ空気圧低下を検知できません。

- 同じ無線周波数を持つシステムや機器による障害：障害エリアから離れると、システムは自動的に再び作動します。
- TPM ホイール エレクトロニクスなしのホイールが取り付けられている：必要に応じてトヨタ販売店に点検を依頼してください。
- 機能障害：システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

タイヤ空気圧警報（→P.260）

ステアリング システム

ステアリング システムが故障している場合があります。

システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

有害物質の放出

エンジン機能に異常があります。

車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

リア フォグ ライト

リア フォグ ライトがオンになっています。

リア フォグ ライト（→P.152）

緑色のライト

ターン インジケーター

ターン インジケーターがオン。

表示灯の点滅や点滅作動音が通常よりも速い場合は、ターン インジケーターの1箇所が故障しています。

ターン インジケーター（→P.119）

スモール ライト

スモール ライトがオンになっています。

スモール ライト / ロービーム（→P.148）

ロービーム

ロー ビームがオンになっている。

スモール ライト / ロービーム (→P.148)

レーン ディパーチャー ウォーニング

表示灯が点灯する：システムがオンになっています。少なくとも車両の片側に 1 本の車線が検知されたので、警告を発することができます。

レーン ディパーチャー ウォーニング (→P.177)

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームがオンになっています。

ヘッドライトは交通状況に応じて自動的にオンおよびオフにされます。

オートマチックハイビーム (→P.150)

青色のライト

ヘッドライト

ヘッドライトがオンになっています。

ヘッドライト (→P.120)

燃料計

原理

燃料タンクの現在の充填レベルが表示されます。

一般事項

車両の傾きの結果、表示が変動することがあります。

給油のためのヒント (→P.247)

表示

給油シンボル横の矢印は、フューエル リッドが車両のどちら側にあるかを示すものです。

タコメーター

いかなる場合も、回転数が赤色の警告ゾーンまで上がらないようにしてください。警告ゾーンでは、エンジンを保護するために燃料供給が制限されます。

シフト ライト

原理

装備に応じて、タコメーターのシフト ライトは、最適な加速値が得られるシフトアップ タイミングを示します。

作動条件

走行プログラムがスポーツモード

のとき、シフト ライトが表示されます。

シフト ライトをオンにする

1 スポーツモードスイッチでSPORT を選択します。
2 トランスミッションのマニュアル モードを作動させます。

表示

・ セグメントが順にオレンジ色に点灯する場合は、シフト タイミングが目前であることを知らせています。
・ セグメントが赤色点灯。遅くともここでシフトしてください。

最高回転数に達した場合、表示全体が赤で点滅し、エンジンを保護するために燃料供給が制限されます。

作動スタンバイと走行スタンバイ

メーターパネルの文字OFFは、走行スタンバイがオフで、作動スタンバイがオンの状態であることを示します。

メーターパネルの文字READY は、走行スタンバイがオンの状態であることを示します。

詳しい情報は、停止状態、作動および走行スタンバイ (→P.41) を参照。

エンジン冷却水温度

表示

●エンジンが冷えている場合：セグメントは低温度値の範囲にあります。適度な回転数と速度で発進してください。
●通常の作動温度の場合：セグメントは中央または下半分の範囲にあります。
●エンジンが高温の場合：セグメントは高温度値の範囲にあります。補助的に車両メッセージが表示されます。

冷却水レベルを点検する (→P.278)

メーター パネルの表示灯

表示灯が赤色に点灯します。

外気温度

一般事項

表示が +3 ℃以下に下がると、ブザーが鳴ります。

車両メッセージが表示されます。

路面が凍結しているおそれがあります。

安全に関する注意事項

警告

温度が +3 ℃を超えた場合でも、橋の上や日陰の走行路面などでは凍結のおそれが高いことがあります。事故の危険があります。温度が低いときには、運転の仕方を天候の変化に合わせてください。

時刻

時刻はメーター パネルに表示されます。

時刻と時刻表示方法の設定 (57 ページ参照)

サービス時期の表示

原理

この機能は、必要なサービス時期と該当する点検整備項目を表示します。

一般事項

走行スタンバイをオンにすると、メーター パネルに次のサービスまでの走行距離または時間が短時間表示されます。

表示

必要なサービスについての詳細情報

メンテナンスについての詳しい情報は、コントロール ディスプレイに表示することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「点検実施時期」

必要な点検整備項目、または法定点検が表示されます。

4 詳細情報を表示するには、項目を選択してください。

表示されるシンボル

表示されるシンボル	説明
OK	現時点での点検は不要です。
△	点検整備または法定点検の実施時期が迫っています。
!	点検すべき時期が過ぎていますので、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

期日の入力

車両の法定点検の期日を入力します。

車両の日付と時刻が正しく設定されていることを確認してください。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「点検実施時期」
4 「日付 :」
5 希望する項目を選択します。

シフト ポジション インジケーター

原理

シフト インジケーターは、現在の走行状況に対して最適なギアを推奨し、効率的なドライビングスタイルをサポートします。

一般事項

シフト ポジション インジケーターは装備に応じて、オートマチック トランスミッションのマニュアル モードで作動します。

表示

シフト アップまたはシフト ダウンに関する注意事項は、メーター パネル内に表示されます。

シフト ポジション インジケーター非装備車の場合は、シフトされているギアが表示されます。

例	説明
6 M	燃費の向上に最適なギアに入っている
6 M ▸8	燃費の良いギアにシフトします。

選択リスト

原理

必要に応じて操作することができます。

- エンターテイメントの音源
- 使用中のオーディオ音源
- 通話履歴リスト

必要に応じて、該当するメニューがコントロールディスプレイで開きます。

表示

装備に応じてリスト表示は異なります。

リストの表示および操作

リストは、ステアリング ホイールのボタンで表示させることや操作することができます。

ボタン	機能
MODE	エンターテイメントの音源を切り換えます。 再度ボタンを押すと、現在表示されているリストが閉じます。
	通話履歴リストを表示します。
	ダイヤルを回して、希望の設定を選択します。 ダイヤルを押して、設定を確定します。 ダイヤルを回すと、現在選択されているリストをヘッドアップディスプレイに再び表示させることができます。

メーター パネルのボード コンピュータ

原理

ボード コンピュータは、平均値などの車両のさまざまなデータをメーター パネルに表示します。

情報を呼び出す

ターン インジケーター レバーのボタンを押します。

情報はメーター パネルに表示されます。繰り返し押すと、その他の情報が表示されます。

インフォメーションの概要

ボード コンピュータから以下の情報を表示することができます：

- オドメーター / トリップ メーター
- 総航続可能距離
- 燃費表示
- 平均燃費と平均速度
- 工場出荷時からの平均燃費

ボード コンピュータの情報を設定する

ボード コンピュータのいくつかの情報をメーター パネルで呼び出すことができるようにするかを設定できます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム 設定」
3 「ディスプレイ」
4 「メーターパネル」
5 「ボードコンピュータ」
6 希望する項目を選択します。

インフォメーションの詳細

オドメーター / トリップ メーター

■ キロメートル表示 / リセット

・ トリップ メーターを表示させるには、ボタンを押します。

走行スタンバイがオフのときに、オドメーターとトリップ メーターが表示されます。

・ トリップ メーターをリセットするには、ボタンを押し続けます。

■ 表示

総航続可能距離

■ 原理

総航続可能距離は、現在のタンク充填量でこの先走行できる距離を示します。

■ 一般事項

残りの燃料で走行可能な予測距離がメーターパネルに連続的に表示されます。

総航続可能距離がわずかになると、車両メッセージが短時間表示されます。例えば、すばやいコーナリングなどのスポーティなドライビングスタイルの場合、エンジン機能は必ずしも保証されません。

総航続可能距離が約 50km 以下になると、車両メッセージはそのまま表示され続けます。

■ 安全に関する注意事項

⚠ 注意

総航続可能距離が 50km 以下の場合は、エンジンに十分な燃料が供給されなくなるおそれがあります。エンジン機能が保証されなくなります。損傷が発生するおそれがあります。適切な時期に給油してください。

■ 表示

燃費表示

■ 原理

瞬間燃費はその瞬間の燃費を表示します。どれだけ経済的で、環境に優しい走行をしているかを確認

することができます。

■ 一般事項

瞬間燃費をメーターパネルにバー表示で示すことができます。

■ 表示

平均速度と平均燃費

■ 一般事項

平均速度と平均燃費は、最後にリセットしてから走行した距離に基づいてボード コンピュータが計算します。

手動でエンジンを止めて停車した時間は、平均速度の計算には考慮されません。

■ 平均値のリセット

ターン インジケーター レバーのボタンを押し続けてください。

■ 表示

コントロール ディスプレイのボード コンピュータ

原理

ボード コンピュータは、平均値などの車両のさまざまなデータをコントロール ディスプレイに表示します。

一般事項

コントロール ディスプレイでは 2 種類のボードコンピュータが利用可能です：

・「ボードコンピュータ」：燃費などの平均値が表示されます。値は個別にリセットすることができます。
・「トラベルボードコンピュータ」：値は特定の距離に関して概要を知らせるもので、自由に何度もリセットすることができます。

ボード コンピュータまたはトラベルボードコンピュータを呼び出す

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライブ情報」
3 「ボードコンピュータ」または「トラベルボードコンピュータ」

ボード コンピュータをリセットする

Toyota Supra Command から：
1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライブ情報」
3 「ボードコンピュータ」
4 「燃費」または「平均速度」
5 「OK」

トラベルボードコンピュータをリセットする

Toyota Supra Command から：
1 「車両情報 / 設定」
2 「ドライブ情報」
3 「トラベルボードコンピュータ」
4 必要に応じて、コントローラーを左に傾けます。
・ 「リセット」：全ての値がリセットされます。
・ 「自動的にリセットする」：約 4 時間の車両停止状態後、全ての値がリセットされます。
5 必要に応じて「OK」

スポーツ表示

原理

装備に応じて、コントロールディスプレイに現在の出力とトルクが表示されます。

コントロール ディスプレイの表示

概要

以下の情報が表示されます：
● トルク
● 出力

表示

Toyota Supra Command から：
1 「車両情報 / 設定」
2 「スポーツ表示」

速度警告

原理

速度制限を設定して、その速度に達したときに警告が出されるようにすることができます。

一般事項

設定した速度制限を 5km/h 下回った後に再び超過すると、再び警告が出されます。

速度警告の設定

Toyota Supra Command から：
1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「速度警告」
4 「警告速度 :」
5 希望する速度が表示されるまで、コントローラーを回します。

6 コントローラーを押します。

速度警告を作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「速度警告」
4 「速度警告」

現在の速度を警告速度に設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「速度警告」
4 「現在の速度を設定」

車両ステータス

一般事項

いくつかのシステムについて状態を表示したり、処置を実施したりすることができます。

車両ステータスを呼び出す

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」

インフォメーションの概要

- 「タイヤ空気圧警告」：タイヤ空気圧警告システムのステータス (→P.260)
- 「エンジンオイルレベル」：電子式エンジンオイル レベル点検システム (→P.274)
- 「車両メッセージ」：車両メッセージはバックグラウンドに記憶され、コントロール ディスプレイに表示させることができます。メモリーされている車両メッセージの表示 (→P.132)
- 「点検実施時期」：サービス時期の表示 (→P.138)
- リモートメンテナンスコール

ヘッドアップ ディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

システムが運転者の視界内に速度などの重要な情報を投影します。

運転者は、路面から目を離さずに、このような情報を得ることができます。

一般事項

ヘッドアップ ディスプレイの清掃に関する情報に注意してください (→P.307) 。

概要

オン / オフにする

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ディスプレイ」
4 「ヘッドアップディスプレイ」
5 「ヘッドアップディスプレイ」

表示

概要

ヘッドアップ ディスプレイには以下の情報が表示されます：

- 速度
- ナビゲーション情報
- 車両メッセージ
- メーター パネルの選択リスト
- ドライバー アシスト システム

これらの情報のいくつかは、必要に応じて短時間のみ表示されます。

画面を選択する

ヘッドアップ ディスプレイではさまざまな画面を利用できます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ディスプレイ」
4 「ヘッドアップディスプレイ」
5 希望する項目を選択します。

明るさを調整する

表示の周囲の明るさに合わせて自動的に調整されます。

基本設定を手動で調整することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ディスプレイ」
4 「ヘッドアップディスプレイ」
5 「明るさ」
6 希望の明るさに達するまで、コントローラーを回します。
7 コントローラーを押します。

ロービームがオンになっている場合、ヘッドアップ ディスプレイの明るさは、メーター パネル照明によってさらに影響を受けることがあります。

高さ調節

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ディスプレイ」
4 「ヘッドアップディスプレイ」
5 「高さ」

6 コントローラーを回して、希望の高さに設定します。
7 コントローラーを押します。

ヘッドアップ ディスプレイの高さは、メモリー機能 (→P.102) でも記憶させることができます。

傾きの調整

ヘッドアップ ディスプレイの表示を回転させることができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ディスプレイ」
4 「ヘッドアップディスプレイ」
5 「ローテーション」
6 コントローラーを回して、希望の設定にします。
7 コントローラーを押します。

表示の見やすさ

ヘッドアップ ディスプレイの表示の見やすさは、以下の影響を受けます：

- シート位置
- ヘッドアップ ディスプレイの保護ガラス上の物
- ヘッドアップ ディスプレイ保護ガラスにほこりや汚れがある
- フロント ウィンドウの内側または外側が汚れている
- 特定の偏光フィルター付きサングラス
- 濡れた路面
- 不適切な照明状況

画像がゆがんで表示される場合は、トヨタ販売店に基本設定の点検を依頼してください。

専用フロント ウィンドウ

フロント ウィンドウは、ヘッドアップ ディスプレイ用に専用部品を使用しています。

専用フロント ウィンドウの形状が、正確な画像投影を可能にしています。

フロント ウィンドウのフィルムは、画像が二重に見えるのを防ぎます。

このような理由から、専用フロント ウィンドウの交換は必要な場合に、トヨタ販売店に依頼することを強く推奨します。

ライト

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

ライトと照明

車両のスイッチ

ランプスイッチはステアリング ホイールの横にあります。

シンボル	機能
	リア フォグ ライト
OFF	ライト オフ デイタイム ランニング ライト
	スモール ライト
AUTO	オート ライト コントロール アダプティブ ライト機能
	ロー ビーム
	メーター パネル照明
	パーキング ライト（右）
	パーキング ライト（左）

オート ライト コントロール

原理

トンネルや夜明け前や日没時、また降水時など、周囲の明るさに合わせて、ロー ビームが自動的にオン / オフされます。

一般事項

晴天時、太陽が傾きかけている時間帯などではライトが点灯することがあります。

ロー ビームを手動でオンにすると、オート ライトコントロールがオフになります。

作動させる

ランプスイッチのボタンを押します。

ボタンの LED が点灯します。

ロー ビーム オン時にメーター パネルの表示灯が点灯します。

システムの限界

オート ライト コントロールは、運転者に代わって明るさの状態を判断することはできません。

センサーは、霧やもやの立ち込めた天気などを検知できません。そのような状況では、ライトを手動でオンにしてください。

スモール ライト、ロービームおよびパーキング ライト

一般事項

走行スタンバイがオフの状態で運転席ドアを開くと、車外ライトが少し経ってから自動的に消灯します。

スモール ライト

一般事項

スモール ライトは低速範囲でのみオンにすることができます。

オンにする

ランプスイッチのボタンを押します。

メーター パネルの表示灯が点灯します。

車両の周囲が照らされます。

車両バッテリーが放電し、走行スタンバイをオンにできなくなるおそれがありますので、スモールライトのスイッチを長い間オンのままにしないでください。

オフにする

ランプスイッチのボタンを押すか、または走行スタンバイをオンにします。

走行スタンバイのオン後、オート ライト コントロールがオンになります。

ロービーム

オンにする

ランプスイッチのボタンを押します。

ロー ビームは走行スタンバイがオンのときに点灯します。

メーター パネルの表示灯が点灯します。

作動スタンバイをオンにしたときにロー ビームを点灯させるには、ボタンを再び押します。

オフにする

仕様に応じて、ロー ビームは低速域でオフにすることができます。

周りの状況によっては、オフできないことがあります。

OFF ランプスイッチのボタンを押します。

パーキング ライト

車両を駐車する際に、片側のパーキング ライトをオンにすることができます。

ボタン	機能
	パーキング ライト（右）、オン / オフ
	パーキング ライト（左）、オン / オフ

パーキング ライトをオフにする：

OFF ライト スイッチ エレメントのボタンを押すか、または走行スタンバイをオンにします。

ウェルカム ライト

一般事項

装備に応じて、車両のエクステリア ライトを個別に調節することができます。

作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エクステリアライト」
4 希望する設定を選択します：

●「ウェルカムライト」

車両をロック解除したときに、個別のライト機能が一定時間だけオンになります。

ホーム ライト

一般事項

走行スタンバイ オフ後にハイビーム ヘッドライトをオンにすると、ロー ビームがさらに一定時間だけ点灯します。

点灯時間を設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エクステリアライト」
4 「ホームライト」
5 希望する設定を選択します。

デイタイム ランニング ライト

一般事項

デイタイム ランニング ライトは走行スタンバイがオンのときに点灯します。

アダプティブ ライト機能

原理

アダプティブ ライト機能は路面をダイナミックに照明することができます。

一般事項

装備に応じて、アダプティブ ライト機能は 1 つまたは複数のシステムで構成されています：

- 可変の光分配 (150ページ参照)
- コーナリング ライト (150 ページ参照)

作動させる

AUTO ランプスイッチのボタンを押します。

ボタンの LED が点灯します。

アダプティブ ライト機能は、走行スタンバイがオンのときに作動しています。

可変配光

原理

可変の光分配が、路面がさらに良く照明されるように配慮します。

一般事項

光分配は、自動的に速度に合わせられます。

ナビゲーション システム装備の場合、光分配はナビゲーション データと速度に応じて自動的に調整されます。

市街地走行用ライト

ロービームの照射範囲が左右両側で拡張されます。

高速走行用ライト

ロー ビームの照射幅が拡張されます。

コーナリング ライト

ヘアピン カーブなどの急カーブや右左折の場合、特定の速度まで、コーナリング ライトがオンになり、カーブの内側を照らします。

コーナリング ライトはステアリング アングルまたはターン インジケーターに応じて自動的にオンになります。

後退走行時、場合によってはステアリング アングルとは無関係にコーナリング ライトが自動的に点灯します。

オートマチックハイビーム

原理

オートマチックハイビームは早期に他の道路利用者を検知し、交通状況に応じて自動的に増光および減光します。

一般事項

オートマチックハイビームは、交通状況が許す限りヘッドライトがオンにされるように配慮します。低速時には、ヘッドライトはシステムによってオンにされません。

システムは、対向車や前走車の照明や、また町の中などの周囲の照明に反応します。

ヘッドライトは、いつでも手動でオン / オフすることができます。

防眩オートマチックハイビームを装備している車両の場合は、対向車または前走車があってもヘッド

ライトがオフにならず、対向車または前走車を眩惑させる範囲だけを減光します。この場合、青色の表示灯は継続して点灯します。

ヘッドライトが変更 (152 ページ参照) されると、オートマチックハイビームの使用が制限される場合があります。

作動させる

1 ランプスイッチの AUTO ボタンを押します。

ボタンの LED が点灯します。

2 ターン インジケーター レバーのボタンを押します。

ロー ビーム オン時にメーター パネルの表示灯が点灯します。

ロービームとヘッドライトの切換えは自動的に行われます。

ヘッドライトがシステムによってオンにされると、メーター パネルの青色の表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームが作動した状態で走行を中断した場合：走行が再開されると、オートマチックハイビームは引き続き作動します。

手動で増光および減光 (120 ページ参照) を行う場合は、オートマチックハイビームが作動解除されます。

オートマチックハイビームを再び作動させるには、ターン インジケーター レバーのボタンを押してください。

作動解除する

ターン インジケーター レバーのボタンを押します。

システムの限界

オートマチックハイビームは、運転者自身に代わってヘッドライトの使用 / 不使用を決定することはできません。そのため、必要な状況では手動でロー ビームに切り換えてください。

以下の状況では、システムは作動しないか、制限付きでのみ作動するので、運転者自身の反応が必要となります：

- 霧や激しい降水のような極端に不適切な天候条件の場合
- 道路利用者（歩行者、自転車、騎手、荷車）を照明不良の状態で確認する場合、道路に近い鉄

道や船舶交通の場合、野生動物の道路横断の場合

- 狭いカーブ、急な上り / 下り、十字交差点、高速道路上の半分隠れた対向車
- 照明の暗い集落、道路標識の反射が強い場合
- ルーム ミラー前の範囲のフロント ウィンドウに曇りや汚れがあるとき、フロント ウィンドウがラベルで覆われているとき

フォグ ライト

リア フォグ ライト

作動条件

リア フォグ ライトをオンにする前に、ロー ビームをオンにしてください。

オン / オフにする

ボタンを押します。

リア フォグ ライトをオンにすると、メーター パネルの黄色の表示灯が点灯します。

オート ライト コントロール (147 ページ参照) がオンになっている場合、リア フォグ ライトを点灯させると、ロー ビームが自動的に点灯します。

警告

リア フォグ ライトは、霧などによる視界不良時の追突事故を防止するための灯火装置です。視界が良好なときには、このライトが後続車を眩惑する可能性があります。事故が発生するおそれがあります。視界が良好なときには、リア フォグ ライトを点灯しないでください。

右側通行 / 左側通行

右側通行帯での走行

日本とは通行帯が反対側の国等で走行する場合、走行する国の法規に従ってヘッドライトの眩惑作用を防止するための措置が必要となる場合があります。

ヘッドライトを変更する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「設定」
3 「エクステリアライト」
4 「右側 / 左側通行」
5 希望する項目を選択します。

システムの限界

オートマチックハイビームの使用が制限される場合があります。

アダプティブ ライト機能の使用が制限される場合があります。

メーター パネル照明

作動条件

明るさを調節するには、スモール ライトまたはロー ビームをオンにしてください。

調節

明るさは、ダイヤルで調節できます。

ルーム ライト

一般事項

装備に応じて、ルーム ライト、足元ライト、エントランス ライトが自動的に制御されます。

概要

車両のボタン

ルーム ライト

リーディング ライト

ルーム ライトをオン / オフにする

ボタンを押します。

常時オフにする：ボタンを約 3 秒間押し続けます。

リーディング ライトをオン / オフにする

ボタンを押します。

安全性

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

エアバッグ

1 ニーエアバッグ
2 フロント エアバッグ、運転席
3 フロント エアバッグ、助手席
4 カーテンシールドエアバッグ
5 サイドエアバッグ

フロント エアバッグ

フロント エアバッグは、シート ベルトの保護効果だけでは十分でないような正面衝突の際、運転者および助手席同乗者を衝撃から保護するための装置です。

サイド エアバッグ

側面衝突の際、サイド エアバッグが身体の胸部、腰部および頭部領域の側面をサポートします。

ニー エアバッグ

ニー エアバッグは、正面衝突の際に脚部をサポートします。

カーテンシールドエアバッグ

カーテンシールドエアバッグは、側面衝突が起きたときに頭部を保護します。

保護効果

一般事項

エアバッグは、どの衝突状況でも作動するわけではなく、軽度の事故や追突などでは作動しません。

エアバッグの最適な保護効果のための注意事項

警告

シート位置が正しくない場合やエアバッグの膨張範囲が妨げられている場合は、エアバッグが適切な保護効果を発揮できません、また作動によって負傷するおそれや、けがをする危険または生命の危険があります。エアバッグシステムの最適な保護効果のための注意事項を確認してください。

- エアバッグとの間隔を保ってください。
- 常にステアリング ホイールのグリップ部分を握ってください。手や腕にけがをする危険をできるだけ少なくするために、ステアリングホイールは常に両手を 3 時と 9 時の位置に保ってください。
- シートとステアリング ホイールは、手を斜めに交差させてステアリング ホイールをつかめるように調整します。手を交差させてつかんだときにバックレストに肩がつき、上体とステアリング ホイール間の間隔ができる限り大きく保たれるように調整します。
- 助手席の同乗者が足 / 脚をダッシュボードの上に載せずに足元スペース内に置くなど、正しい座り方をするよう注意してください。
- 同乗者がサイド エアバッグに頭を近づけたままにしないように注意してください。
- エアバッグと乗員の間には、お子様やペット、または物がないようにしてください。
- ダッシュボードやフロント ウィンドウの助手席側の部分は空けておき、シールやカバーなどで覆ったり、ナビゲーション機器や携帯電話のホルダーを取り付けたりしないでください。
- エアバッグ カバーの上にステッカー類を貼ったり、カバーをかけたり、その他どのような変更も行わないでください。
- 助手席側のフロント エアバッグのカバーに物を載せないでください。
- サイド エアバッグ内蔵シートに適合していないシート カバー、シート クッション、その他の物をフロント シートに取り付けないでください。
- 背広などの衣服をバック レストに掛けないでください。
- 各構成部品や配線などは、絶対に改造しないでください。これはステアリング ホイール カバーやダッシュボード、シートに対しても当てはまります。
- エアバッグ システムは取り外さないでください。

全ての注意事項を守っても、状況によっては、エアバッグとの接触により、けがをする危険があります。

同乗者によっては、エアバッグの点火音や膨張時の音により、一時的に聴覚が影響を受ける場合がありますが、通常、しばらく時間をおくことで回復します。

エアバッグ システムの機能スタンバイ

安全に関する注意事項

警告

エアバッグ システムの作動後は、個別の構成部品が高温になっている場合があります。けがをする危険があります。個別の構成部品に触れないでください。

警告

不適切な作業を行うと、エアバッグ システムの故障や障害、または誤作動が発生するおそれがあります。障害が発生すると、事故の際、エアバッグ システムが作動すべき事故の程度であっても、予定どおりに作動しない可能性があります。けがをするおそれや命に関わる危険があります。エアバッグ システムの点検、修理、取外しおよびスクラップは、トヨタ販売店にご依頼ください。

その他の点検、修理、取外し、およびガス ジェネレーターの処理についても、トヨタ販売店へお問い合わせください。

メーター パネル内の表示

走行スタンバイをオンにすると、メーターパネルの警告灯が短時間点灯し、全エアバッグ システムおよびシート ベルトロックの機能が作動可能状態であることを示します。

故障

- 走行スタンバイをオンにしたときに警告灯が点灯しない
- 警告灯が点灯し続ける

システムの点検を依頼してください。

フロントシートの位置設定

シート設定の精度を継続して維持するために、該当する通知がコントロールディスプレイに表示された場合には、できるだけ早くフロントシートを校正して下さい (92 ページ参照)。

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグ

エアバッグは、シート ベルトに代わるものではありません。

SRS フロント エアバッグとニーエアバッグは、シート ベルトに代わるものではなくシートベルトによる乗員保護機能を補助する装置です。

SRS とは、Supplemental Restraint System の略称で、乗員保護補助装置を意味しています。

万一の衝突が起きたとき、シート

ベルトが乗員の身体をシートに拘束することで乗員を保護しようとしますが、衝突の衝撃が大きなときは上半身が倒れ、頭や胸がステアリング ホイールやダッシュボード、さらにはフロント ガラスにぶつかるおそれがあります。このようなときに SRS フロント エアバッグとニー エアバッグは、風船のようなエア クッションを瞬間的にふくらませ、乗員の頭や胸や膝がステアリング ホイールなどにぶつかる衝撃を緩和させようとします。

SRS フロント エアバッグとニー エアバッグは、一定以上の衝撃を感知したときにだけ作動します。衝突後、ボディの変形や損傷具合の判断から、大きな衝撃を受けたと思えるときでも、衝撃が分散されたり、ボディの衝撃吸収構造により衝撃が段階的に吸収されたときは、エアバッグが作動しない場合があります。エアバッグが作動しないような衝撃を受けたときは、シート ベルトが乗員を保護します。

エアバッグが瞬間的に大きくふくらむため、エアバッグ自体の衝撃で負傷したり、エアバッグ点火時や膨張時の作動音で一時的に耳が聞こえにくくなることがあります。また、エアバッグが作動した直後に各構成部品を触ると、やけどをするおそれがあります。そのため、エアバッグの作動による危険性も皆無ではありませんが、その危険性を差し引いても乗員に与える衝撃が軽減されるときに限り、エアバッグが作動するように設定されています。

警告

正しい乗車姿勢で座り、シート ベルトを正しく着用してください。

顔がステアリング ホイールに近すぎると、エアバッグがふくらむときに余分な衝撃を受けることがあります。正しい運転姿勢でシートに座り、ステアリング ホイールと適切な間隔を保ってください。

助手席シートがダッシュボードに近すぎたり、ダッシュボードに足をのせていると、エアバッグがふくらむときに思わぬけがをするおそれがあります。正しい乗車姿勢でシートに座り、ダッシュボードと適切な間隔を保ってください。

警告

エアバッグの近くにものを置いたり、ステッカーなどを貼り付けないでください。

ステアリング ホイールのパッド部分やニー エアバッグの近くに、ステッカーなど、いかなるものも取り付けたり、貼り付けをしないでください。また、助手席エアバッグの近くに市販品アクセサリーや芳香剤などを置いたり足元に物を置かないでください。エアバッグが作動できなかったり、エアバッグがふくらむときに取り付けていたものが吹き飛ばされ、乗員の顔や体にぶつかりけがをするおそれがあります。

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動するとき

強固で衝突しても変形したり動いたりしないコンクリート壁などに前面衝突し、一定以上の衝撃を受けたとき

車の前方左右約 30 度以内 (A) の角度から、一定以上の衝撃を受けたとき

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動する可能性が高いとき

車の下側に一定以上の衝撃を受けたとき

縁石などに衝突したとき

深い穴や溝に落ちたとき

車がジャンプして硬い地面に着地したとき

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動しない可能性が高いとき

重量がほぼ同じ停車中の車に前面衝突したとき

トラックなどの下にもぐり込んだようなとき

電柱や立木などに衝突したとき

ガードレールなど変形しやすいものに衝突したとき

追突されたとき

側面から衝撃を受けたとき

横転したり、転覆したとき

スリップを伴った車両前面の大破事故

前面大破事故でも、横方向から衝撃を受けた場合

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動しないとき

- SRS フロント エアバッグ / ニー エアバッグが作動した後に衝撃を受けたとき
- 小さな衝撃で正面に衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯が点灯しているとき

SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグ

エアバッグは、シート ベルトに代わるものではありません。

SRS サイド エアバッグとカーテンシールドエアバッグは、側面か

らの大きな衝撃を受けたとき、乗員の胸部や頭部に対する衝撃を分散ならびに緩和しようとする乗員保護装置です。

万一側面衝突が起きたとき、SRS サイド エアバッグとカーテンシールドエアバッグが風船のようなエア クッションを乗員の側面へ瞬間的にふくらませ、乗員の頭や胸がドア ガラスやドアなどにぶつかる衝撃を緩和しようとするものです。ただし、エアバッグが瞬間的に大きくふくらむため、エアバッグ自体の衝撃で負傷したり、エアバッグ点火時や膨張時の作動音で一時的に耳が聞こえにくくなることがあります。また、エアバッグが作動した直後に各構成部品を触ると、やけどをするおそれがあります。そのため、エアバッグの作動による危険性も皆無ではありませんが、その危険性を差し引いても乗員に与える衝撃が軽減されるときに限り、エアバッグが作動するように設定されています。

このエアバッグが作動しないような衝撃を受けたときは、シート ベルトが乗員を保護します。

警告

承認されていないシート カバーやクッションその他アクセサリー類を取り付けたり、背もたれに上着をかけたりしないでください。シートの側面周囲にはものを置かないでください。SRS サイド エアバッグの取り付け位置については、155 ページをご覧ください。

警告

ドアやサイド ウインドウに寄りかからないでください。

また SRS サイド エアバッグの近くにカップ ホルダーやアクセサリーを取り付けないでください。

SRS サイド エアバッグが作動できなかったり、SRS サイド エアバッグがふくらむとき、顔や頭、腕などにエアバッグの衝撃を受け、けがをするおそれがあります。また、SRS サイドエアバッグがふくらむときに取り付けていたものが吹き飛ばされ、乗員の顔などにぶつかりけがをするおそれがあります。

カップ ホルダーは、車内に備え付けのものをご使用ください。カップ ホルダーを使用する際は、ホルダーに合ったサイズの容器を使ってください。やけどや、けがの原因となりますので、熱い飲みものやガラス製の容器は置かないでください。走行中は危険ですので、ご使用は控えてください。

SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動するとき

側面から大きな衝撃を受けたとき

SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動する可能性が高いとき

落下物を巻き込むなど、車の下側に大きな衝撃を受けたとき

タイヤホイールや足回りに大きな衝撃を受けたとき

SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動しない可能性が高いとき

乗車用スペース以外の部分（エンジン ルームやラゲッジ ルームなど）に側面から衝撃を受けたとき

側面に斜め方向から衝撃を受けたとき

SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動しないとき

- SRS サイド エアバッグ/カーテンシールドエアバッグが作動した後に衝撃を受けたとき
- 小さな衝撃で側面に衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯が点灯しているとき
- 初期衝撃がドアのみに大きく加

わる衝突を受けたとき

助手席エアバッグ用キー スイッチ

原理

助手席シートでチャイルド レストレイント システムを使用する場合、助手席エアバッグ用キー スイッチで、助手席側のフロントおよびサイド エアバッグを作動解除することができます。

一般事項

助手席用フロント エアバッグおよびサイド エアバッグは、電子キーの内蔵キーにより作動解除したり、再び作動可能状態にすることができます。

概要

助手席エアバッグ用のキー スイッチはダッシュボードの外側にあります。

助手席エアバッグを作動解除する

1 キーを差し込み、必要に応じてさらに押します。
2 押したまま、OFF 位置で止まるまで回します。止まった位置でキーを抜きます。
3 エアバッグが作動解除されるには、キー スイッチが OFF 位置にあることを確認してください。

助手席エアバッグが作動解除されます。運転席エアバッグは、引き続き作動可能な状態です。

助手席シートにチャイルド シートを取り付ける必要がなくなった際は、事故が起きた場合に適切に作動するよう、再び助手席エアバッグを作動可能な状態にします。

エアバッグの状態は、ルーフ パネルの表示灯 (165 ページ参照) により示されます。

助手席エアバッグを作動させる

1 キーを差し込み、必要に応じてさらに押します。
2 押したまま、ON 位置で止まるまで回します。止まった位置でキーを抜きます。
3 エアバッグが作動可能な状態になるには、キー スイッチが ON 位置にあることを確認してください。

助手席エアバッグは再び作動可能な状態になり、必要な状況になると作動します。

助手席エアバッグ警告灯

ルーフ パネルの助手席エアバッグ警告灯は、助手席エアバッグの状態を表示します。

走行スタンバイをオンにした後、警告灯は短時間点灯し、その後エアバッグが作動可能な状態にあるのか、作動解除されているのかを示します。

表示	機能
PASSENGER ON AIR BAG	助手席エアバッグが作動可能な状態にある場合は、表示灯が短時間点灯し、その後消灯します。
PASSENGER AIR BAG OFF	助手席エアバッグが作動解除されていると、警告灯は常時点灯します。

ポップアップフード

原理

ポップアップフードは、車両前部が歩行者と衝突した場合にボンネットを持ち上げます。検知には、バンパー裏にあるセンサーを使用します。

一般事項

ポップアップフードが作動すると、ボンネットの下に空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

このシステムのガスダンパーには使用期限が設定されています。車両の整備時にガスダンパーを点検し、必要に応じて交換してください。

安全に関する注意事項

警告

ヒンジやボンネット ロックの個別部品に触れると、システムが不意に作動するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ヒンジやボンネット ロックの個別部品に触れないでください。

警告

ポップアップフードを改造すると、故障や異常、または誤作動を招くおそれや、けがをする危険または生命の危険があります。ポップアップフードの各構成部品や配線は、絶対に改造しないでください。システムを取り外さないでください。

警告

専門知識を欠いた不適切な作業を行うと、システムの故障や異常、または誤作動を招くおそれがあります。異常があると、事故の際に、該当する重度の事故であるにもかかわらずシステムが正常に作動しないおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。システムの点検、修理、取外し、廃棄は、トヨタ販売店に依頼してください。

警告

作動後や損傷した場合はシステムの機能性が制限されるか、または作動しなくなります。けがをする危険または生命の危険があります。

作動後や損傷した場合は、トヨタ販売店にシステムの点検と交換を依頼してください。

注意

ポップアップフードが作動した状態でボンネットを開けると、ボンネットまたはシステムが損傷するおそれがあります。車両メッセージが表示された後にボンネットを開けないでください。トヨタ販売店に点検を依頼してください。

システムの限界

ポップアップフードは、速度が約30km/h ～ 55km/h の範囲にあるときにのみ作動します。

安全上の理由から、次のような状況では、歩行者との衝突である可能性を考慮し、システムが作動する場合があります：

- ドラム缶やガードレールなどの物体への衝突の場合
- 動物との衝突の場合
- 飛石の衝突の場合
- 雪溜まりへの侵入の場合

故障

車両メッセージが表示されます。

システムが作動したか、または故障しています。

直ちにトヨタ販売店まで慎重に走行し、システムの点検と修理を依頼してください。

Toyota Supra Safety

原理

Toyota Supra Safety でドライ

バー アシスタンス システムを集中的に操作することができます。

一般事項

装備に応じて、Toyota Supra Safety は、衝突の危険回避をサポートする 1 個または複数のシステムから構成されています。

- プリクラッシュセーフティ (168 ページ参照)
- プリクラッシュセーフティ（対歩行者・自転車）(173 ページ参照)
- レーン ディパーチャー ウォーニング (177 ページ参照)
- ブラインドスポットモニター (181 ページ参照)

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

警告

Toyota Supra Safety システムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれや、事故の発生する危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

概要

車両のボタン

Toyota Supra Safety

オン / オフにする

Toyota Supra Safety システム

の一部は、毎走行開始後に自動的にオンになります。いくつかの Toyota Supra Safety システムは、最新の設定に基づいて作動します。

ボタン	ステータス
SAFETY SYSTEM	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
SAFETY SYSTEM	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
SAFETY SYSTEM	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

SAFETY SYSTEM ボタンを押します：

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、保存されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。

SAFETY SYSTEM ボタンを繰り返し押します。以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。警告タイミング設定などのサブ機能の場合は、基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。

SAFETY SYSTEM ボタンを押し続けます：

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

プリクラッシュセーフティ

原理

このシステムは、事故を防ぐためのサポートを行います。事故を避けることができない場合、システムは衝突速度を抑えるように努めます。

このシステムは、追突の危険がある場合に警告を発し、必要に応じて自動的にブレーキをかけます。

一般事項

装備に応じてシステムは以下のセンサーにより制御されます：

● ルーム ミラー領域のカメラ

● フロント バンパーのレーダーセンサー

プリクラッシュセーフティは、クルーズ コントロールが作動解除されている場合も利用可能です。

このシステムは、約 5km/h 以上から、車両との衝突の危険がある場合に 2 段階で警告を出します。その時の走行状況によって警告を出すタイミングが決まります。

意識的にある車両に向かって近づくときは、不適切なシステム反応を避けるために、遅れて後方車両への接近警報とブレーキ介入が行われます。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

警告

Toyota Supra Safety システムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれや、事故の発生する危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

概要

車両のボタン

Toyota Supra Safety

センサー

このシステムは以下のセンサーに

より制御されます：
・ フロント ウィンドウの裏のカメラ
・ レーダー センサー装備：フロント レーダーセンサー

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

システムは毎発進後に自動的にオンになります。

手動でオン / オフにする

ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、保存されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。

ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。

ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

警告タイミングの設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「Toyota Supra Safety」
4 「正面衝突警告」

5 希望する設定を選択します：

- 「早めに」
- 「中」
- 「遅めに」：緊急警告のみが表示されます。

ブレーキ機能付き警告

表示

検知された車両に衝突する危険がせまっている場合、メーター パネルと必要に応じてヘッドアップディスプレイに警告シンボルが表示されます。

シンボル	対応
	シンボルが赤色に点灯：予備警告 ブレーキをかけ、車間距離を拡げてください。
	シンボルが赤で点滅し、ブザーが鳴る：緊急警告 ブレーキを踏み、必要に応じて障害物を回避します。

予備警告

予備警告は、衝突の危険がある場合、または前走車との車間距離が短すぎる場合などに表示されます。

予備警告の場合は、運転者が自ら介入操作を行います。

ブレーキ機能付き緊急警告

緊急警告は、車両が大きい速度差で他の物体に近づいていて、衝突が避けられない危険がある場合に表示されます。

緊急警告の場合は、運転者が自ら介入操作を行います。走行状況に応じて、緊急警告は短時間の制動によってサポートされます。

警告タイミング設定の場合、「遅めに」制動は行われません。

衝突の危険がある場合は、必要に応じてシステムがさらに自動ブレーキ介入によってサポートします。

予備警告がなくても緊急警告が作動することがあります。

ブレーキ介入

警告は自身で制御することを要求します。警告中には、状況に応じてブレーキ ペダルを操作した場合に必要となる最大制動力が働きます。前提条件は、ブレーキを十分に速く、また強く踏むことです。

さらにシステムは、衝突の危険がある場合、必要に応じて自動ブレーキ介入によってサポートすることができます。

低速の場合は、車両が停止するまで制動することができます。

ブレーキ機能：ブレーキ介入は約85km/h 以下の速度で行われます。

レーダー センサー付き：ブレーキ介入は約 250km/h 以下の速度で行われます。

速度が約 210km/h を上回ると、短時間の制動としてブレーキ介入が行われます。自動的な減速は行われません。

ブレーキ介入は、アクセル ペダルを踏むか、自分でステアリングを動かすことにより中止することができます。

物体の検知が制限されることがあります。検知範囲には境界および機能制限のあることに注意してください。

システムの限界

安全に関する注意事項

警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

検知範囲

システムによって検知される物体が考慮されます。

システムの検知性能には限界があります。

システムによって検知される物体が考慮されます。

そのため、システムの反応が行われなかったり、遅れたりする可能性があります。

例えば以下が検知されない場合があります：

- 低速走行の前走車両に高速で接近している状況
- 突然割り込んでくる車両または急激に減速する車両
- 後部外観が異様な車両
- 前走する 2 輪車

速度上限

速度が約 250km/h を超えると、システムは一時的に作動解除されます。速度がこの値を下回ると、システムは再び設定にしたがって反応します。

センサーのシステム限界

詳しい情報：

・ カメラ (→P.38)
・ レーダー センサー (→P.39)

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 急カーブ
- ドライビング スタビリティ コントロール システムが制限されている場合またはオフになっている場合、例えば VSC OFF
- スタート/ストップボタンでエンジンを始動してから 10 秒以内

警告の感度

警告タイミングなど、警告の感度を上げるほど、より多くの警告が表示されます。しかしこれにより、警告や反応が早すぎる、または理由なく行われることが多くなることもあります。

プリクラッシュセーフティ（対歩行者・自転車）

原理

このシステムは、歩行者および自転車との事故を防ぐためのサポートを行うことができます。事故を避けることができない場合、システムは衝突速度を抑えるように努めます。

このシステムは、市街走行の速度域で追突の危険がある場合に警告を発し、必要に応じて自動的にブレーキをかけます。

一般事項

このシステムは、約 5km/h 以上の速度のとき、歩行者および自転車との衝突の危険がある場合に警告を出します。

システムの検知範囲内にある歩行者および自転車が検知されます。

装備に応じてシステムは以下のセンサーにより制御されます：

- ルーム ミラー領域のカメラ
- フロント バンパーのレーダーセンサー

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：

- フロント ウィンドウの裏のカメラ (→P.38)
- レーダー センサー装備：フロント レーダーセンサー (→P.39)

詳しい情報：
車両のセンサー (P.38)

検知範囲

車両前の検知範囲は次の 2 つの部分に分けることができます：

- 中央範囲（矢印 **1**）、車両のまっすぐ前方
- 拡張範囲（矢印 **2**）、中央範囲の右側と左側

歩行者が中央範囲にいる場合、衝突の危険があります。拡張範囲にいる歩行者については、中央範囲に向かって動く場合にのみ警告が出されます。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

警告

Toyota Supra Safety システムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれや、事故の発生する危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

概要

車両のボタン

SAFETY SYSTEM Toyota Supra Safety

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

システムは毎発進後に自動的にオンになります。

手動でオン / オフにする

SAFETY SYSTEM ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、保

存されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。

ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety がオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。

ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

ブレーキ機能付き警告

表示

検知された歩行者または自転車に衝突する危険がせまっている場合、メーター パネルと必要に応じてヘッドアップ ディスプレイに警告シンボルが表示されます。

赤色のシンボルが表示されて、ブザーが鳴ります。

装備に応じて、代わりにメーター パネルで赤色の非常停止表示板が点灯します。

直ちにブレーキ操作や障害物を回避する操作を行ってください。

ブレーキ介入

警告は自身で制御することを要求します。警告中には、ブレーキ システムは最大の制動力が働きます。制動力サポートの前提条件は、ブレーキを十分に速く、また強く踏むことです。

さらにシステムは、衝突の危険がある場合、ブレーキ介入によって

サポートすることができます。

低速の場合は、車両が停止するまで制動することができます。

ブレーキ介入は、アクセル ペダルを踏むか、自分でステアリングを動かすことにより中止することができます。

物体の検知が制限されることがあります。検知範囲には境界および機能制限のあることに注意してください。

システムの限界

安全に関する注意事項

警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

速度上限

自車の速度が約 85km/h 以下の場合、システムは歩行者および自転車に反応します。

検知範囲

カメラの検知性能には限界があります。

そのため、警告がされなかったり、遅れたりする可能性があります。

例えば以下が検知されない場合があります：

- 一部が隠れた歩行者
- カメラ アングルまたは輪郭によって、正しく検知されない歩行者
- 検知範囲外の歩行者
- 身長が約 80cm 未満の歩行者

センサーのシステム限界

詳しい情報：

・ カメラ (→P.38)
・ レーダー センサー (→P.39)

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急カーブ
- ドライビング スタビリティ コントロール システムがオフになっている場合、例えば VSC OFF
- カメラの撮影範囲またはルームミラー前のフロント ウィンドウ部分が汚れているか、覆われている場合
- 高温のためにカメラが過熱し、一時的にオフになっている場合
- 装備に応じて：レーダー センサーが汚れているか、覆われていたりする場合
- 装備に応じて：車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業
- スタート/ストップボタンでエンジンを始動してから 10 秒以内

- 納車直後でカメラが補正されている間
- 低い位置にある太陽などにより、逆光が常時当たっている場合
- 暗がり

レーン ディパーチャー ウォーニング

原理

レーン ディパーチャー ウォーニングは、車両が車道からそれたり車線からはみ出ようとする場合に警告を発します。

一般事項

このカメラベースのシステムは、最低速度を超えると警告を発します。

最低速度は国によって異なり、Toyota Supra Safety システムに関するメニューに表示されます。

ステアリング ホイールの振動により警告が出されます。ステアリング ホイールの振動の強さは調節できます。

車線からはみ出す前にターン インジケーターを該当する方向に作動させると、システムは警告しません。

装備に応じて：速度範囲250km/h 以下のときに車線境界線を超えた場合は、システムがステアリング ホイールの振動に加えて、必要に応じて短時間アクティブにステアリング制御を行います。このシステムは、車両を車線内に維持するように運転者をサポートします。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、通行するコースや交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。警告が出た際に、ステアリング ホイールを不必要に激しく動かさないでください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の 責任からは免れられません。システムには限 界があるため、警告やシステムの反応が行わ れなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由 なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合 わせてください。交通状況に注意し、状況に よっては積極的に介入してください。

概要

車両のボタン

Toyota Supra Safety

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：
・ リア サイド レーダーセンサー

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

機能の前提条件

レーン ディパーチャー ウォーニングが作動するには、車線境界線がカメラによって検知されなければなりません。

オン / オフにする

手動でオン / オフにする

ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、保存されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。

ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。

ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
SAFETY SYSTEM	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
SAFETY SYSTEM	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
SAFETY SYSTEM	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

警告タイミングの設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「Toyota Supra Safety」
4 「車線逸脱警告」
5 希望する設定を選択します：

- 「早め」：危険な状況が検知された場合に毎回システムが早期に警告します。
- 「標準」：システムは標準的な安全要求に応えます。
- 「弱」：状況に応じて、いくつかの警告が抑制されます。例えばターン インジケーターを出さないで追越しを行う場合やカーブで車線を超える場合など。
- 「オフ」：警告は行われません。

ステアリング ホイール振動の強さを設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ステアリング振動」
4 希望する設定を選択します：

設定が全ての Toyota Supra Safety システムに適応されます。

ステアリング介入制御をオン / オフにする

ステアリング介入制御は、レーンチェンジウォーニングまたはレーン ディパーチャーウォーニング用に別々にオン / オフすることができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「Toyota Supra Safety」
4 「ステアリングサポート」

装備に応じて、走行を開始するたびにステアリング介入が自動的に有効になります。

メーター パネル内の表示

シンボルが緑色に点灯：少なくとも車両の片側で車線境界線を 1 本検知したため、警告を発することができます。

警告機能

車線からはみ出た場合

車線からはみ出て、車線境界線が検知されると、ステアリング ホイール振動の設定に基づいてステアリング ホイールが振動します。

車線変更の前にターン インジケーターをオンにすると、システムは警告を発しません。

ステアリング介入制御

速度範囲 210km/h 以下のときに車線境界線を超えそうな場合は、必要に応じてシステムがステアリング ホイールの振動に加えて、短時間アクティブにステアリング制御を行います。ステアリング介入制御は、車両を車線内に維持するように運転者をサポートします。ステアリング介入制御はステアリ

ング ホイールで感知でき、いつでも運転者自身の操作で割り込むことができます。ステアリング介入制御の作動中は、メーター パネルの表示が点滅します。

例えば以下の状況では、ステアリング介入が抑制されます：

- 強い加速または制動時。
- ターン インジケーターを点滅させたとき。
- ハザードライトがオンになっている場合。
- ドライビングダイナミクスが高い走行状況。
- VSC 制御中。
- 車両システムによるステアリング介入直後。
- 追い越し後、元の車線に戻ろうとしているとき。

警告音

装備に応じて：運転者がステアリング ホイールを操作せず、3 分以内にシステムによってアクティブなステアリング介入が何度か行われる場合、警告音が鳴ります。2 回目のステアリング介入時には短い警告音が鳴ります。3 回目以降のステアリング介入時には長い警告音が鳴ります。補助的に車両メッセージが表示されます。
警告音と車両メッセージは、車線にもっと厳密に注意が払われるまで継続します。

警告の中断

例えば以下の状況のときに警告は中止されます：

- 数秒後に自動的に
- 自車の車線に戻ったとき
- 強いブレーキのとき
- ターン インジケーターを点滅させたとき
- ビークルスタビリティコントロール VSC が制御を行っているとき

システムの限界

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。
システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

センサーのシステム限界

詳しい情報：
・ カメラ (→P.38)

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 車線が欠けていたり、擦り減っていたり、見えにくかったり、合流または分離していたりする

場合や、工事現場付近など車線の境界が明確に定められていない場合

- 車線の境界が雪、氷、汚れ、水で覆われている場合
- 急カーブや狭い路面
- 車線の境界が白線でない場合
- 車線の境界が物体で覆われている場合
- 前走車との車間距離を詰めすぎているとき
- スタート/ストップボタンでエンジンを始動してから 10 秒以内

機能が制限されている場合、必要に応じて車両メッセージが表示されます。

ブラインドスポットモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

ブラインドスポットモニターは、死角にある車両や、隣の車線で後ろから近づいてくる車両を検知します。これらの状況では、さまざまな段階で警告が行われます。

一般事項

最低速度以上になると、レーダーセンサーが車両の後方および横の空間をモニターします。

最低速度は国によって異なり、Toyota Supra Safety システムに関するメニューに表示されます。

このシステムは、死角となるエリアに他の車両がある場合（矢印 **1**）、または隣の車線で車両が後ろから近づいてくる場合（矢印 **2**）、これを運転者に知らせます。

ドア ミラーのライトが弱く点灯します。

ターン インジケーターを作動させて車線変更を行う場合、上記にあげられた状況の際に、システムは警告を発します。

ドア ミラーのライトが点滅し、ステアリング ホイールが振動します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

概要

車両のボタン

Toyota Supra Safety

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：

・ リア サイド レーダー センサー

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

前回の走行終了時にブラインドスポットモニター機能がオンになっていた場合、走行開始後にこれが自動的に再びオンになります。

手動でオン / オフにする

ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、保存されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。

ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。

ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

警告タイミングの設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「Toyota Supra Safety」
4 「ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄﾓﾆﾀｰ」
5 希望する設定を選択します。

「オフ」：この設定の場合、警告は出力されません。

ステアリング ホイール振動の強さを設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「ステアリング振動」
4 希望する設定を選択します：

設定が全ての Toyota Supra Safety システムに適応されます。

警告機能

ドア ミラーのランプ

予備警告

他の車両が死角にいるか、または後ろから近づいている場合、ドア

ミラーのライトが弱く点灯してそれを知らせます。

緊急警告

車両が危険な領域にある間にターン インジケーターをオンにすると、ステアリング ホイールが短く振動し、ドア ミラーのライトが明るく点滅します。

他の車両が危険な領域から離れた場合またはターン インジケーターを止めた後に警告が終了します。

ライトの点滅

車両のロック解除時のライトの点滅はシステムのセルフ テストに使用されます。

システムの限界

安全に関する注意事項

警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。

システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

速度上限

速度が約 250km/h を超えると、システムは一時的に作動解除されます。

速度が約 250km/h を下回ると、システムは再び設定通りに反応します。

センサーのシステム限界

詳しい情報：
レーダー センサー (→P.39)

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 接近する車両の速度が自車の速度より著しく速い場合
- 急カーブや狭い路面
- バンパーが汚れている、氷結している、またはステッカーなどで覆われている場合

機能が制限されている場合、車両メッセージが表示されます。

警告の表示

警告タイミングなど、選択した警告の設定に応じて、より多くの警告が表示されることがあります。しかしこれにより、危険な状況に対して早すぎる警告が増加することもあります。

後方車両への接近警報

原理

後方車両への接近警報は後方から近づいてくる車両に反応することができます。

一般事項

レーダー センサーは車両後方の空間をモニターします。

後方から車両が該当する速度で近づいてくる場合、システムは以下のように反応することができます：

- 必要に応じてハザードライトがオンになります。
- 必要に応じてプリクラッシュ機能が作動します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

概要

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：
・ リア サイド レーダー センサー

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

オン / オフにする

システムは毎発進後に自動的にオンになります。

システムは以下の状況で作動解除されます：

- 後進走行時

システムの限界

センサーのシステム限界

詳しい情報：
・ レーダーセンサー (→P.38)

機能制限

以下のような状況では、機能が制

限されている可能性があります：

- 接近する車両の速度が自車の速度より著しく速い場合
- 接近してくる車両がごくゆっくりと近づく場合

緊急ブレーキシグナル

原理

ブレーキ ライトの点滅によって、後続の道路利用者に緊急ブレーキを知らせます。

一般事項

- 通常のブレーキ：ブレーキ ライトが点灯します。
- 急ブレーキ：ブレーキ ライトが点滅します。

停止状態になる直前に、ハザード フラッシャーがオンになります。

ハザード フラッシャーをオフにする：

- 加速する
- ガレージ壁、生け垣、雪溜めなどでセンサーの検知範囲が隠れている場合
- ハザード フラッシャー ボタンを押す。

衝突被害軽減ブレーキ

原理

このシステムは特定の事故状況で、運転者の操作なしに自動的に車両を停止状態にします。これにより、その後の衝突の危険とその影響を低減することができます。

停止状態

停止状態になった後、ブレーキは自動的に解除されます。

車両により強くブレーキをかける

特定の状況では、車両をより素早く停止状態にする必要があります。

このためには、ブレーキ ペダルを短時間踏み込んで、自動ブレーキ機能によって得られるブレーキ圧よりも高いブレーキ圧を生み出す必要があります。このとき自動制動は中止されます。

自動ブレーキを中止する

特定の状況では、回避操作などのために自動ブレーキの中止が必要になることがあります。

自動ブレーキを中止する：

- ブレーキ ペダルを踏みます。
- アクセル ペダルを踏みます。

注意喚起アシスタント

一般事項

このシステムは、例えば高速道路などでの長時間の単調な走行の場合に、運転者の注意力の低下や疲労の増加を検知することができます。このような状況のときには休憩を入れるようにしてください。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、体調を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムは注意力の低下や疲労の増加を適時に検知するものではありません、または検知が行われないこともあります。事故の危険があります。運転者は十分に休憩を取って注意して走行するように気をつけてください。運転の仕方を道路状況に合わせてください。

機能

このシステムは、走行スタンバイをオンにするとオンになります。

走行開始後、システムは運転者を学習し、注意力の低下や疲労の増加を検知できるようにします。

この動作は以下の基準を考慮します：

- 運転者の運転の仕方、例えばハンドル操作など
- 走行条件、例えば時刻、走行継続時間など

このシステムは、約 70km/h 以上でオンになり、さらに休憩の勧めを表示することができます。

休憩の勧め

調節

注意喚起アシスタントは、走行スタンバイをオンにするたびに自動的にオンになり、休憩の勧めを表示することができます。

休憩の勧めは Toyota Supra Command でもオン / オフおよび設定することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「注意喚起アシスタント」
4 希望する設定を選択します：

- 「高感度」：休憩の勧めが早期に表示されます。
- 「標準」：定義された値で休憩の勧めが表示されます。
- 「オフ」：休憩の勧めは表示されません。

表示

運転者の注意力が低下したり、疲労が増してくると、休憩を取るように勧めるメッセージがコントロール ディスプレイに表示されます。

表示中に以下の設定を選択することができます：

- 「これ以上表示しない」
- 「立ち寄り地点」

●「後で通知する」

休憩の勧めは 20 分後に繰り返されます。

1 回休憩を取った後は、次の休憩を勧める表示は早くて約 45 分後となります。

システムの限界

この機能は、例えば次の状況では制限されている可能性があり、警告が出なかったり、間違った警告が出されます：

- 時刻が間違って設定されている場合
- 走行速度がおおむね約 70km/h を下回っている場合
- スポーティな運転の仕方、例えば強い加速や高速でのカーブ走行の場合
- 活発な走行状況、例えば頻繁な車線変更の場合
- 路面の状態が悪い場合
- 強い横風の場合

長時間の高速道路走行での休憩時など、システムは車両停止から約 45 分後にリセットされます。

ドライビング スタビリティ コントロール

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

アンチロック ブレーキ システム（ABS）

ABS は、ブレーキをかけるときに、車輪がロックするのを防ぎます。

フルブレーキ時であっても操縦性が維持されるので、アクティブセーフティが高まります。

エンジンをスタートすると、ABS は作動可能な状態になります。

ABS が作動しても避けられないとき：

- カーブへの進入速度が速すぎるとき

これらの補助装置が作動しても危険な状況を避けられません。路面の状況に応じた安全な速度で運転することは、運転者の義務です。

ブレーキ アシスト

ブレーキを素早く踏むと、このシステムは自動的にできるだけ大きな制動力を発生させます。これにより、フルブレーキ時の制動距離が最大限短くなります。その際、アンチロック ブレーキ システム ABS の優れた効果も発揮されます。

フルブレーキが必要な間は、ブレーキ ペダルへの圧力を弱めないでください。

アダプティブ ブレーキ アシスト

レーダークルーズコントロールと一緒に、このシステムは、危険な状況でブレーキをかける場合も、ブレーキがもっと素早く応答するように配慮します。

ヒルスタートアシスト

原理

このシステムは、坂道で発進するときに運転を サポートします。

発進

1 ブレーキを踏んで、車両を停止させます。
2 ブレーキをはなし、素早く発進させます。

ブレーキをはなした後、車両は約 2 秒間、停止した状態を維持します。

積載重量によっては、車両が少し後方へ動く場合があります。

ビークルスタビリティコントロール

原理

このシステムは、物理的な限界内で、エンジン出力の低減や個々の車輪へのブレーキ制御により、車両を安全なコースに保つサポートをします。

一般事項

VSC は例えば以下のような不安定な走行状態を検知します：

- 車両後部が振られてオーバー ステアになる可能性
- 前輪のグリップ力が失われてアンダー ステアになる可能性

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

ルーフ ラックなどを使用してルーフに荷物を載せて走行する場合、重心が高くなったことで、危険な走行状況のときに走行安全性を維持できなくなります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。ルーフ上に荷物を載せて走行する場合は、ビークルスタビリティコントロール（VSC）をオフにしないでください。

概要

車両のボタン

VSC OFF

VSC をオフ / オンにする

一般事項

VSC の作動解除により、加速時やコーナリング時の走行安定性が制限されます。

走行安定性を高めるために、VSC をできるだけ早く再作動させてください。

VSC を作動解除する

メーター パネルに VSC OFF が表示され、VSC OFF 表示灯が点灯するまでボタンを押し続けます。

VSC を作動させる

ボタンを押します。

VSC OFF と VSC OFF の表示灯が消えます。

表示

メーター パネル内

VSC がオフになると、メーター パネルに VSC OFF が表示されます。

表示灯と警告灯

表示灯が点灯する：VSC は、作動解除されています。

表示灯が点滅する：VSC が、駆動力と制動力を調節しています。

表示灯が点灯する：VSC が故障しています。

VSC が作動しても避けられないとき

● カーブへの進入速度が速すぎるとき

これらの補助装置が作動しても危険な状況を避けられません。路面の状況に応じた安全な速度で運転することは、運転者の義務です。

トラクションモード

原理

トラクションモードは、駆動力を最適化するビークルスタビリティコントロールのバリエーションです。

このシステムは、除雪されていない道路やぬかるんだ地面などの特別な道路状況で、走行安定性を制限することで最大の駆動力を保証します。

一般事項

トラクションモードが作動している場合、最大の駆動力が発揮されます。加速時やコーナリング時の走行安定性が制限されます。

以下のような状況では、必要に応じてトラクションモードを一時的にオンにしてください：

● 雪泥の走行または除雪されていない路面の走行

● 深い雪やぬかるみからの発進

● スノー チェーンを装着した走行

概要

車両のボタン

VSC OFF

トラクションモードを作動させる / 作動解除する

トラクションモードを作動させる

ボタンを押します。

メーター パネルに TRACTION が表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

トラクションモードを作動解除する

ボタンをもう一度押します。

TRACTION と VSC OFF の表示灯が消えます。

表示

メーター パネル内の表示

トラクションモードが作動している場合、メーター パネルに、TRACTION が表示されます。

表示灯と警告灯

表示灯が点灯する：トラクションモードが作動しています。

プログラムの自動切換え

特定の状況のとき、自動的に VSC に切り換わります：

- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）がオンになるとき
- Toyota Supra Safetyシステムによるブレーキ介入時
- タイヤ パンクの場合

アクティブ ディファレンシャル ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクティブ ディファレンシャルは走行状況に応じてファイナル ドライブを無段階でロックします。これにより、個々のリア ホイールの空転が回避され、あらゆる走行状況で最適な駆動力が供給されます。

運転者には状況に合った運転をする責任があります。

ドライバー アシスト システム

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

マニュアルスピードリミッター

原理

このシステムにより、例えば速度制限を超えないように速度制限を設定することができます。

一般事項

このシステムにより、30km/h 以上の速度を制限することができます。設定された速度リミットを下回る場合は、制限なく走行できます。

概要

ステアリング ホイールのボタン

ボタン	機能
LIM	システムのオン / オフ (193 ページ参照)
SET	現在の速度を記憶します。
	タンブラー スイッチ：速度制限を変更します (194 ページ参照) 。

操作方法

オンにする

LIM ステアリングのボタンを押します。

現在の走行速度が速度リミットとして設定されます。

停止状態でオンにした場合または低速のときは、速度制限が 30km/h に設定されます。

速度制限をオンにすると、必要に応じてビークルスタビリティコントロール（VSC）がオンになり、状況に応じて走行モードが NORMAL に切り換わります。

オフにする

LIM ステアリングのボタンを押します。

以下のような状況では、システムが自動的にオフになります：

● エンジンを停止した場合

- レーダークルーズコントロールをオンにした場合
- スポーツモードスイッチでスポーツプログラムをオンにした場合

表示が消えます。

中断

リバース ギアまたはニュートラルにシフトされた場合、システムは中断されます。

速度リミットを変更する

希望の速度リミットが設定されるまで、タンブラー スイッチを何度か上か下に押してください。

- タンブラー スイッチを軽く止まる位置まで押すたびに、速度制限が 1km/h ずつ上下します。
- タンブラー スイッチを軽く止まる位置を越えるまで押すたびに、スピードメーター内の速度制限が 10km/h ずつ変化します。

設定された速度リミットに達した場合や無意識のうちに超過した（下り坂走行など）場合、アクティブな制動は行われません。

走行中に、走行速度を下回る速度制限を設定すると、設定された速度制限になるまで車両が惰性で走行します。

ボタンを押すことによっても、現在の速度を記憶することができます：

SET	ステアリングのボタンを押します。

速度リミットの超過

走行速度が設定された速度リミットを超過すると、警告が出されます。

速度リミットを意識的に超過させることができます。

設定された速度制限を意識的に超過させるには、アクセル ペダルを下までいっぱいに踏み込んでください。

現在の走行速度が設定された速度制限を下回ると、制限が自動的に再び有効になります。

速度制限を超過したときの警告

視覚的な警告

LIMIT	速度リミットを超過した場合：設定された速度リミット以上で走行している間、メーターパネルの表示灯が点滅します。

音による警告

- 設定された速度制限を無意識に超過すると、ブザーが鳴ります。
- 走行中に速度リミットを走行速

度よりも下げると、少し経ってからブザーが鳴ります。

● アクセル ペダルをいっぱいまで踏み込むことによって意識的に速度リミットを超過した場合は、ブザーは鳴りません。

メーター パネル内の表示

装備に応じて、スピードメーターのマークでシステムのステータスが示されます。

表示灯

LIMIT

●表示灯が点灯する：システムがオンになっています。

●表示灯が点滅する：設定された速度リミットを超過しています。

●表示灯が灰色：システムは中断されています。

ステータス表示

装備に応じて、設定された速度制限の値が表示されます。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

原理

このシステムでは、ステアリングホイールのボタンにより希望速度および前走車との車間距離を設定することができます。

道路が混んでいないときは、希望速度がシステムにより保たれ、車両の加速やブレーキを自動的に行います。

前走車との車間距離が狭すぎる場合、システムは自車の速度を、設定した前走車との車間距離に合わせて調整します。速度の調整は、与えられた可能性の範囲内で行われます。

一般事項

車両設定に応じて、レーダークルーズコントロールの特性が特定領域で変化する場合があります。

車間距離はさまざまなレベルで設定可能で、安全上の理由から速度に左右されます。

前走車がブレーキをかけて停止し、再びすぐ発進した場合、システムは規定の範囲内でこれに対応します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

車両から離れない

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- パーキング ブレーキをかけます。
- 上り坂または下り坂では、フロント ホイールを縁石の方向に向けます。
- 上り坂または下り坂では、例えば輪止めなどで車両を補助的に固定してください。

警告

希望速度が間違って設定されたり、呼び出されることがあります。事故の危険があります。希望速度を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

警告

例えば以下の状況で、他の車両との速度差が非常に大きい場合は事故の危険があります：

- 低速で走行中の車両に高速で近づく場合
- 他の車両が自車の車線に突然割り込んでくる場合
- 静止している車両に高速で迫る場合

けがをする危険または生命の危険があります。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

概要

ステアリング ホイールのボタン

ボタン	機能
	レーダークルーズコントロール オン / オフ (197 ページ参照)
SET	現在の速度を記憶します。
RES CNCL	作動状態で、ボタンを押します：レーダークルーズコントロールを中断する (197 ページ参照) 。 システム中断時にボタンを押します：前回の設定でレーダークルーズコントロールを続行する (199 ページ参照) 。
	車間距離を設定する (199 ページ参照) 。
	タンブラー スイッチ： 速度を設定します (198 ページ参照) 。

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：

・ フロント ウィンドウの裏のカメラ
・ フロント レーダー センサー

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

使用領域

システムの使用は、よく整備され

た道路での走行に最適です。

設定可能な最低速度は 30km/h です。

設定可能な最高速度は制限されており、例えば車両や車両装備によって異なります。

車間距離コントロールなしのレーダークルーズコントロールに切り換えることにより、さらに高い希望速度を選択することもできます。

システムは停車時にも作動させることができます。

レーダークルーズコントロールのオン / オフと中断

オンにする

ステアリングホイールのボタンを押します。

メーター パネル内の表示灯が点灯します。

レーダークルーズコントロールが作動中。走行速度が維持され、希望速度として記憶されます。

必要に応じてビークルスタビリティコントロール（VSC）がオンになります。

オフにする

停車中にシステムをオフにする場合、同時にブレーキを踏みます。

ステアリング ホイールの以下のボタンを再度押します：

ステアリングホイールのボタンを押します。

表示が消えます。保存された設定速度が消去されます。

手動中断

作動状態で、ステアリング ホイールの以下のボタンを押します：

ステアリングホイールのボタンを押します。

停車中にシステムを中断する場合、同時にブレーキを踏みます。

自動中断

システムは次の状況で、自動的に中断します：

- 運転者がブレーキを操作したとき
- セレクター レバー ポジションが D から切り換わった場合
- トラクションモードがオンにされたとき、またはビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール VSC がオフにされたとき
- ビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール VSC が制御を行っているとき
- 車両停車時にシート ベルトが外され、運転席ドアが開けられた場合
- システムが比較的長い間物体を検知しなかった場合、例えば交通量が極端に少なく、縁石のない道路の走行など
- レーダーの検知範囲が汚れや激しい降水などにより遮られている場合

● システムにより停止するまでブレーキをかけ、比較的長い時間停車した後

速度の設定

速度の維持と記憶

中断した状態でタンブラー スイッチを上または下に 1 回押します。システムがオンになります。

現在の走行速度が維持され、希望速度として記憶されます。

記憶されている速度がスピードメーターに表示されます。

必要に応じてビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール VSC がオンになります。

ボタンを押しても速度を記憶することができます。

SET ボタンを押します。

速度の変更

希望速度が設定されるまで、タンブラー スイッチを何度か上か下に押してください。

作動状態では、表示された車速が記憶され、前走車がない場合はその速度が維持されます。

● タンブラー スイッチを軽く止まる位置まで押すたびに、設定速度が 1km/h ずつ上下します。

● タンブラー スイッチを軽く止まる位置を越えるまで押すたびに、スピードメーター内の設定速度が 10km/h ずつ変化します。

タンブラー スイッチを押した状態で保持すると、設定速度が連続して変わります。

車間距離の設定

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、ブレーキが遅れてしまうおそれがあります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。常に交通状況に十分注意してください。車間距離を交通や天候状態に合わせ、必要に応じてブレーキ操作により規定の安全車間距離を維持してください。

車間距離を設定する

希望の車間距離がセットされるまで、繰り返しボタンを押してください。

レーダークルーズコントロールを続行する

記憶された速度を呼び出すことで、中断されたレーダークルーズコントロールを続行することができます。

記憶された速度を呼び出す前に、現在の速度と記憶された速度の間に大きな差がないことを確認してください。この差が大きすぎると、意図しないブレーキや加速が起こるおそれがあります。

システム中断時にボタンを押します。

レーダークルーズコントロールが、記憶されている値で続行されます。

以下の場合には、記憶された速度が消去され、呼び出すことができなくなります：

- システムをオフにしたとき
- 走行スタンバイをオフにしたとき

レーダークルーズコントロールの車間距離調節付き／無しの切換え

安全に関する注意事項

警告

このシステムは前走車に対して反応するものではなく、記憶されている速度を維持するものです。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。希望速度を道路状況に合わせ、必要に応じてブレーキを操作してください。

車間距離コントロールなしのクルーズ コントロールに切り換える

クルーズ コントロールをオンにして走行しているときに、車間距離コントロールをオン / オフにすることができます。

ボタンを押し続けます。

車間距離コントロール付きクルーズ コントロールに切り換えるには、ボタンを再度押してください。

切り換わった後に車両メッセージが表示されます。

メーター パネル内の表示

装備に応じて、スピードメーター

のマークでシステムのステータスが示されます。

ステータス表示

SET 110	設定された速度の値が表示されます。

車間距離

選択されている前走車との車間距離レベルが表示されます。

シンボル	説明
	車間距離レベル 1
	車間距離レベル 2
	車間距離レベル 3 km/h 表示の値の約半分（メートル）に相当します。システムを最初にオンにしたときに設定されています。
	車間距離レベル 4
	システムは中断しています。
	アクセル ペダルが踏まれたので、車間距離コントロールは表示されません。

検知された車両

シンボル	説明
	シンボルが緑色： 前走車が検知されています。システムは設定された前走車との車間距離を維持します。

検知された車両が発進するとすぐに、距離表示の中の車両シンボルが動き去ります。

加速するには、例えばアクセル ペダルを短く踏むか、タンブラー スイッチを操作して、ACC をオンにします。

表示灯と警告灯

シンボル	説明
	表示灯が緑色：システムが作動中です。 表示灯なし：システムはオフになっています。
	車両シンボルが点滅： システムの作動のための前提条件が満たされていません。 システムが作動解除されましたが、ブレーキまたはアクセル ペダルを踏んで積極的に介入するまで制動されます。
	車両シンボルと距離バーが赤で点滅し、ブザーが鳴る： ブレーキを踏み、必要に応じて障害物を回避します。

ヘッドアップ ディスプレイの表示

希望速度

システムのいくつかの情報はヘッドアップ ディスプレイにも表示することができます。

設定された希望速度に達すると、シンボルが表示されます。

車間距離情報

前走車との車間距離が短すぎる場合、このシンボルが表示されます。

以下の状況では車間距離情報が有効です：

- レーダークルーズコントロールがオフ
- ヘッドアップ ディスプレイの表示が選択されている (144 ページ参照)
- 車間距離が短すぎる
- 速度が約 70km/h 以上

システムの限界

センサーのシステム限界

詳しい情報：
・ カメラ (→P.38)
・ レーダーセンサー (→P.39)

検知範囲

システムの検知機能および自動ブレーキ制御には限界があります。

例えば 2 輪車は検知できないことがあります。

減速

システムは以下の状況のときに減速しません：

- 歩行者または歩行者と同じくら

いの速さの道路利用者の場合

- 赤信号の場合
- 交差する道路の場合
- 対向車の場合

車両の割り込み

自車の車線に前走車が突然割り込んできた場合、状況によってはシステムは選択されている車間距離を自動的に確保できないことがあります。選択された車間距離は、状況によっては、トラックに速く近づく場合など、前走車との速度の違いが大きい場合にも確立できません。前走車を確実に検知している場合、システムは運転者に対してブレーキ操作または危険回避動作を要求します。

コーナリング

カーブに対して設定速度が高すぎる場合、カーブ走行時の速度が少し減速しますが、カーブは前もって検知されません。そのため、適切な速度でカーブに入ってください。

システムの検知範囲が制限されます。急カーブの場合には、前走車を検知できなくなったり、または検知が大幅に遅れてしまうことがあります。

カーブにさしかかったとき、カーブの大きさによっては、一時的にシステムが隣の車線の車両に反応する場合があります。このようなときは、短時間加速することで車両の減速を補整することができます。アクセル ペダルをはなすと、システムは再び作動状態となり速度を自動制御します。

発進

例えば以下の状況では、車両が自動的に発進できない場合があります：

- きつい上り坂
- 路面の隆起の前

これらの場合はアクセル ペダルを踏みます。

天候

天候や光の条件が良くない状況では、以下の制限が生じる場合があります：

- 車両が検知しにくくなる
- すでに検知された車両が一時的に見えなくなる

注意して走行し、現在の交通状況に自ら対応してください。必要に応じてブレーキ、ステアリングや回避操作などにより積極的に介入を行ってください。

エンジン出力

急勾配の道でも希望速度が維持されます。上り坂ではエンジン出力が不十分な場合に、その速度を下回ることがあります。

クリアランスソナー

原理

クリアランスソナーは駐車の際に運転者をサポートします。車両の前後にある物体に低速で接近すると、ブザーとコントロール ディスプレイの表示で知らせます。

装備バージョンに応じて：サイドの超音波センサーが車両横側で障害物を検知すると、必要に応じてサイド プロテクター (208 ページ参照) 機能により通知されます。

一般事項

距離測定用の超音波センサーは、バンパー内および必要に応じて車両の側面にあります。

検知可能距離は、障害物と環境に応じて、約 2m です。

対象物までの距離が約 70cm で衝突の危険がある場合、警告音が出されます。

車両の後方に障害物がある場合は、距離が約 1.50m になった時点ですでに警告音が出されます。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

警告

クリアランスソナーがオンのときに速度が速いと、物理的な条件のために警告が遅れて発せられることがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。高速で障害物に向かうような運転は避けてください。クリアランスソナーがまだ作動していない間は、速い速度で発進しないでください。

概要

車両のボタン

パーキング アシスタント ボタン

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：

・ フロント / リア バンパー内の超音波センサー

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

システムは以下の状況で、自動的にオンになります：

● エンジン作動時にセレクター レバーをポジション R に入れたとき。

● 装備バージョンに応じて：速度が約 4km/h より遅いときに、検知された障害物に近づく場合。オンになるときの距離はそれぞれの状況に左右されます。

障害物を検知した場合の自動スイッチ オンはオン / オフにすることができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「パーキング」
4 必要に応じて：「クリアランスソナー自動起動」
5 「クリアランスソナー自動起動」

装備に応じて、さらに該当するカメラ ビューがオンになります。

前進走行時の自動スイッチ オフ

特定の走行距離または速度を超えると、システムはオフに切り換わります。

必要な場合はシステムを再作動させてください。

手動でオン / オフにする

パーキング アシスタント ボタンを押します。

● オン：LED が点灯します。

● オフ：LED が消灯します。

パーキング アシスタント ボタンを押したときにリバース ギアにシフトされている場合、リア ビューカメラの画像が表示されます。

装備によっては、リバース ギアにシフトされている場合、システムを手動でオフにすることはできません。

警告

警告音

■ 一般事項

障害物に近づくと、位置に応じて、断続音による警告が行われます。例えば車両の左後方に物体が検知された場合、左リアのスピーカーから警告音が鳴ります。

障害物との距離が近ければ近いほど、間隔が短くなります。

検知された障害物との距離が約 20cm 未満になると、連続音が鳴ります。

車両の前と後ろに同時に障害物があり、その距離が約 20cm 未満になると , 交替で連続音が鳴ります。

断続音と連続音は、セレクター レバーをポジション P にシフトするとオフになります。

車両を停止すると、しばらくして断続音はオフになります。

■ 音量調節

クリアランスソナーブザーの音量を調節することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「サウンド」
4 「音量設定」
5 「クリアランスソナー」
6 希望する値を設定します。

視覚的な警告

障害物への接近は、コントロール ディスプレイに表示されます。さらに遠くの障害物は、ブザーが鳴るよりも前の時点でそこに表示されます。

クリアランスソナーを作動させると、すぐにイラストが表示されます。

センサーの検知範囲で障害物が検知された場合、検知範囲は緑、黄、赤で表示されます。

駐車に必要なスペースをより良く判断できるように、車幅確認線が表示されます。

リア ビュー カメラの画像が表示されると、クリアランスソナーまたは障害物マーク付きの他の画面に切り換えることができます：

1 必要に応じて、コントローラーを左に押します。
2 例えば、「クリアランスソナーのみ」

リヤクロストラフィックアラート (212 ページ参照)：装備に応じて、クリアランスソナーの表示では、車両の前側または後側に横方向から近づいてくる車両も警告されます。

システムの限界

安全に関する注意事項

警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

センサーのシステム限界

詳しい情報：
・ 超音波センサー (→P.40)

超音波による測定の限界

以下のような状況では、超音波測定の物理的限界により、物体を検知できないことがあります：

- 車線の縁部の障害物と人の場合
- すでに検知していた低い位置の物体（縁石など）は、連続音が鳴る前後にセンサーの死角にくることがあります。

警告の誤作動

このシステムは次の条件の場合、検知範囲内に障害物がなくても、警告を発することがあります。

警告の誤作動を低減するため、例えば自動洗車機などで障害物が検知される場合は、クリアランスソナーの自動オンを必要に応じてオフにします (204 ページ参照) 。

故障

車両メッセージが表示されます。

白色のシンボルが表示され、センサーの検知範囲がコントロール ディスプレイに暗く表示されます。

クリアランスソナーが故障しています。システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

発進制限

原理

衝突の危険がある場合、システムが発進時に駆動力を減少させます。

これによってシステムは、ドライバーがタイミングよくブレーキできるようにします。

一般事項

このシステムはクリアランスソナーの超音波センサーを使用します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

さらに、クリアランスソナーの安全に関する注意事項が適用されます。

詳しい情報：クリアランスソナー(203 ページ参照) 。

機能の前提条件

以下の前提条件を満たしていると、駆動力が制限されます：

- 車両停止時、セレクター レバー ポジションは R または D にシフトされたとき。
- 車両のシステムによって、進行方向の障害物が検知されます。
- アクセル ペダルが、ほぼエンド ポジションまで強く押されます。
- セレクター レバー ポジションのシフト後および障害物検知後すぐに、アクセル ペダルが押されます。

制限の解除

以下の状況で駆動力の制限が解除されます：

- アクセル ペダルから足を放したとき。
- 特定の距離を走行したとき。
- 特定の時間が経過した後。
- アクセル ペダルが 2 回深く踏まれた後。

システムの限界

クリアランスソナーのシステムの限界が適用されます。

緊急ブレーキ機能（クリアランスソナー）

原理

クリアランスソナーの緊急ブレーキ機能は、衝突の危険が迫っているときに緊急ブレーキを開始します。

一般事項

システムには限界があるので、あらゆる状況で衝突を回避できるわけではありません。

この機能は、徐行速度以下で後進走行する場合に使用できます。

アクセル ペダルを操作すると、ブレーキ介入が中止されます。

緊急ブレーキの作動により車両が停止した後は、障害物に当たらないようにさらに接近することができます。接近するにはアクセルペダルを軽く操作してから、再び放します。

アクセル ペダルの踏み方が強いと、車両は通常の発進を行います。手動ブレーキはいつでも可能です。

このシステムはクリアランスソナーの超音波センサーを使用します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

さらに、クリアランスソナーの安全に関する注意事項が適用されます。

詳しい情報：クリアランスソナー (203 ページ参照) 。

一時的なオフ

緊急ブレーキ機能を一時的にオフにすることができます：

コントロール ディスプレイで通知を確定します。

この状況での走行続行中に、さらなる緊急ブレーキは行われません。

設定

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「パーキング」
4 必要に応じて「クリアランスソナー 緊急ブレーキ」
5 「クリアランスソナー 緊急ブレーキ」

システムの限界

クリアランスソナーのシステムの限界が適用されます。

必要な場合は、システムを Toyota Supra Command でオフにしてください。

横方向パーキング エイド★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

このシステムは車両の側面に障害物がある場合に警告を発します。

一般事項

このシステムはクリアランスソナーの超音波センサーを使用します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

さらに、クリアランスソナーの安全に関する注意事項が適用されます。

詳しい情報：クリアランスソナー(203 ページ参照) 。

表示

車両のサイド部を保護するために、車両の横側に障害物マークが表示されます。

- カラーのマーク：検知された障害物があることを警告しています。
- 灰色のマーク、斜線が入った面：障害物は検知されませんでした。
- マークなし、黒い面：車両の横の領域がまだ検知されていません。

横方向パーキング エイドの限界

このシステムは、通過する際にあらかじめセンサーによって検知された静止状態の障害物のみを表示します。

障害物が後で動くかどうかを検知することはできません。マークは、停車時にしばらく経った後で黒色の表示になります。この場合は、車両付近の領域をあらためて検知する必要があります。

リア ビュー カメラ

原理

リア ビュー カメラは、バックで駐車するときや操車するときにサポートします。このために、車両後方領域がコントロール ディスプレイに表示されます。

さらに、補助線などのアシスタント機能を表示させることができます。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

概要

車両のボタン★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パーキング アシスタント ボタン

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：
・ リア ビュー カメラ

詳しい情報：
車両のセンサー (→P.38)

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

エンジン作動時にセレクター レバーをポジション R に入れると、このシステムは自動的にオンになります。

前進走行時の自動スイッチ オフ

特定の走行距離または速度を超えると、システムはオフに切り換わります。

必要な場合はシステムを再作動させてください。

装備に応じて：手動でオン / オフする

パーキング アシスタント ボタンを押します。

● オン：LED が点灯します。

● オフ：LED が消灯します。

コントロール ディスプレイにパーキング アシスタント機能が表示されます。

画面を Toyota Supra Command で切り換える

リア ビュー カメラの画面が表示されない場合は、Toyota Supra Command で画面を切り換えます：

1 必要に応じてコントローラーを横に傾けます。

2 「リヤビューカメラ」

リア ビューカメラの画像が表示さ

れます。

機能の前提条件

- リア ビューカメラがオンになっている
- カメラの検知範囲に物がないようにします。突き出ている荷物により、カメラの検知範囲が制限されることがあります。

コントロール ディスプレイの表示

一般事項

複数のアシスタント機能を同時に作動させることができます。

アシスタント機能は手動でオンにすることができます。

1 必要に応じて、コントローラーを右に傾けます。

2 該当する装備の場合：「カメラ画像」

3

- 「パーキングヘルプライン」

車幅確認線と旋回予想線が表示されます (211 ページ参照) 。

- 「障害物マーク」

装備に応じて、クリアランスソナーによって検知された障害物はマークで表示されます (212 ページ参照) 。

駐車補助線

■ 車幅確認線

平坦な路面で駐車や車両の入れ換えをするとき に、車幅確認線は必要なスペースを予測するの に役立ちます。

車幅確認線はそのときのステアリング切れ角に応じて、連続的に調整されます。

■ 旋回予想線

旋回予想線は車幅確認線と一緒にのみ、カメラの画像の中に表示させることができます。

旋回予想線は、平坦な路面上での最小旋回予測コースを示します。

ステアリング ホイールの角度が一定以上になると、旋回予想線は 1 本しか表示されません。

■ **車幅確認線と旋回予想線による駐車サポート**

1 赤色の旋回予想線が駐車スペースの境界と合致するように、車両を移動します。

2 緑色の車幅確認線が旋回予想線に重なるようにステアリング ホイールを切ります。

検知物表示

装備に応じて、車両後方の障害物は、クリアランスソナーセンサーによって検知されます。

障害物マークをリア ビュー カメラの画像の中に表示することができます。

障害物マークの色の段階は、クリアランスソナーのマーキングに対応しています。

明るさとコントラストをToyota Supra Commandで調節する

リア ビュー カメラがオンになっている場合：

1 必要に応じて、コントローラーを右に傾けます。

2 「カメラ画像」

3

● 「明るさ」

● 「コントラスト」

4 希望する値を設定します。

システムの限界

センサーのシステム限界

詳しい情報：

・ カメラ (→P.38)

カメラの作動解除

例えばトランク リッドが開けられてカメラが作動解除された場合、カメラ画像は灰色の斜線付きで示されます。

障害物の検知

非常に低い位置の障害物や高い位置で突出した物体（壁の盛り上がりなど）は、システムによって検知できません。

装備に応じて、いくつかのアシスタント機能はクリアランスソナーのデータも考慮します。

クリアランスソナーの章の注意事項を参照してください。

コントロール ディスプレイに表示される物体は、場合によっては、見た目よりも近くにあります。物体との距離をディスプレイで判断しないでください。

リヤクロストラフィックアラート★

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

原理

見通しの悪い所から出る場合や並列駐車スペースから出る場合、横方向から接近してくる道路利用者があれば、運転席から確認できるようになる前に、システムがいち早くこれを検知します。

一般事項

リア バンパー内にある 2 個のレーダー センサーが車両後方の空間をモニターします。

他の道路利用者が接近してくる場合、システムがこれを表示します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故が発生するおそれがあります。ドライビングスタイルを道路状況に合わせてください。交通状況と駐車状況に注意し、いつでもハンドルおよびブレーキ操作ができるようにし、状況によっては積極的に介入してください。

概要

車両のボタン

パーキング アシスタント ボタン

センサー

このシステムは以下のセンサーにより制御されます：

・ リアビューカメラ

詳しい情報：

車両のセンサー (→P.38)

オン / オフにする

システムを作動させる / 作動解除する

1 パーキング アシスタント ボタンを押します。
2 コントローラーを右に傾けます。
3 ⚙「設定」
4 「クロストラフィックアラート」
5 「クロストラフィックアラート」

または Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「パーキング」
4 「クロストラフィックアラート」
5 「クロストラフィックアラート」

自動的にセンサーをオンにする

システムがコントロール ディスプレイでオンにされた場合、クリアランスソナーまたはパノラマビューがオンにされ、いずれかのギアにシフトされると、システムが自動的にオンになります。

リバース ギアに入れると、リアのシステムがオンになります。

自動スイッチ オフ

システムは以下の状況で、自動的にオフになります：

- 徐行速度を上回った場合
- 特定の走行距離を超えた場合

警告

一般事項

コントロール ディスプレイに該当する表示が呼び出され、必要に応じて警告音を発し、ドア ミラーのランプが点滅します。

ドア ミラーのランプ

リア センサーによって車両が検知され、自車が後進すると、ドア ミラーのランプが点滅します。

クリアランスソナーの画面での表示

センサーによって車両が検知されると、クリアランスソナーの画面の縁の部分が赤く点滅します。

音による警告

自車が該当する方向に動くと、視覚的な表示に加えて警告音が鳴ります。

システムの限界

センサーのシステム限界

詳しい情報：
・ レーダーセンサー (→P.38)

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 急カーブ
- 横方向に動く物体が非常に遅く移動する場合
- センサーの検知領域に、横方向交通を覆い隠す他の物体がある場合

走行快適性

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

サスペンション コンポーネント

最大限のドライビング体験を提供するため、サスペンション コンポーネントが車両および用途に合わせて最適化されています。

アダプティブバリアブルサスペンション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

アダプティブバリアブルサスペンションは、インテリジェントな制御式のスポーツサスペンションです。このサスペンションは、スポーティなドライビングスタイルや平坦でない路面の場合に、ボディの動きを減少させます。

路面状態やドライビングスタイル

に応じて、サスペンションのインテリジェントな制御によって走行ダイナミクスと走行快適性が高められます。

一般事項

このシステムは、快適なトリップからスポーティなドライビング スタイルまで、さまざまなダンパー調整を提供します。

ダンパー調整はスポーツモードスイッチ (129 ページ参照) のさまざまな走行モードに割り当てられています。

快適な温度調節

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

車内の空気

車内の空気は以下の構成要素により改善されます：

- 車内への排気ガス侵入防止
- マイクロ フィルター
- エアコンシステムの温度調整、風量、内気循環機能
- 自動内気循環コントロール AUC
- パーキング ベンチレーション

安全に関する注意事項

警告

エアコンやシート ヒーター等を長時間使用したり、エアコンの送風口に身体を近づけすぎると、やけどや、しもやけなどを起こすおそれがあります。使用中に異常を感じたときは、使用を中止するか設定を変更してください。

オートエアコン

概要

車両のボタン

エアコン機能

ボタン	機能
	温度 (218 ページ参照)
	エアコン モード (217 ページ参照)
	最大冷房 (218 ページ参照)
	AUTO プログラム (219 ページ参照)
	内気循環機能 (219 ページ参照)
	オフにする (217 ページ参照)
	送風口の手動調節 (220 ページ参照)
	フロント ウィンドウの結露と曇りを取り除く (220 ページ参照)
	リア デフォッガー (221 ページ参照)
	シート ヒーター (103 ページ参照)
	風量の手動調節 (220 ページ参照) 。

オン / オフにする

オンにする

希望のボタンを押します。ただし以下を除きます：

- オフ
- リア デフォッガー
- シート ヒーター

オフにする

運転席および助手席側：

ボタンを長押しします。

温度

原理

オートエアコンは、必要に応じて最大の冷房または暖房能力を使い、設定された温度にできるだけ早く調節し、これを一定に保ちます。

調節

温度を上げるときは右へまわし、下げるときは左にまわします。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エアコン」
4 「上半身の温度調整」
5 希望の温度に設定します。

温度設定は、短時間に何度も変更しないでください。オートエアコンが、設定された温度に制御するための十分な時間を取ることができなくなります。

エア コンディショナー

原理

車内の空気が冷却および除湿されて、設定温度に応じて再度温められます。

車内の冷房は、走行スタンバイがオンになっている場合にのみ可能です。

オン / オフにする

ボタンを押します。

エアコンディショナーはエンジン作動時にオンになっています。

空気を乾燥させ、ウィンドウの曇りを防ぐために、内気循環機能ではエア コンディショナーも自動的にオンになります。

走行スタンバイをオンにした後、天候によってはフロント ウィンドウおよびサイド ウィンドウが一時的に曇る場合があります。

AUTO プログラムを使用すると、エア コンディショナーも自動的にオンになります。

エア コンディショナーの中に凝縮した水が生じ、車両の下に出てきます。

最大冷房

原理

走行スタンバイがオンになっている場合、システムは最低温度、最適な風量および内気循環機能に設定されます。

一般事項

この機能は、外気温度が約 0 ℃以

上で走行スタンバイがオンになっている場合に使用できます。

オン / オフにする

ボタンを押します。

システムがオンになっている場合、LED が点灯します。

胸元用送風口から送風されます。そのため吹出口を開いておきます。

作動しているプログラムの風量は、調整することができます。

AUTO プログラム

原理

AUTO プラグラムは車内を自動的に冷房、換気または暖房します。

その際は車内温度と設定された希望温度に応じて、風量、送風口、温度が自動制御されます。

オン / オフにする

ボタンを押します。

AUTO プログラムがオンになっている場合、LED が点灯します。

選択された温度、車外の状況などに応じて、エアがフロント ウィンドウ、サイド ウィンドウ、胸元方向、または足元に送風されます。

AUTO プログラムでは、自動的にエア コンディショナー (218 ページ参照) もオンになります。

手動の送風口調節が設定されると、AUTO プログラムは自動的にオフになります。

内気循環モード

原理

外気に臭いや有害物質が含まれている場合、外気導入を一時的に遮断することができます。この場合、車内の空気が循環されます。

操作方法

ボタンを何度か押して、作動モードを呼び出します。

内気循環機能をオンにすると、LED が点灯します。

左の LED が点灯しているとき：自動内気循環モード

センサーが外気中の汚染物質を感知し、自動で侵入を遮断します。

右の LED が点灯しているとき：内気循環モード

外気の侵入を常に遮断します。

ウィンドウの曇りを防ぐために、エアコンディショナーも自動的にオンになります。

内気循環機能を長時間使用すると、車内の空気が次第に悪くなり、ウィンドウの曇りが増加します。

ウィンドウが曇る場合、内気循環機能をオフにするか、曇りを取り除いてください (220 ページ参照

）。

風量を手動で調節する

原理

エア コンディショニング用の風量を手動で調整することができます。

一般事項

風量を手動で調節するために、先に AUTO プログラムをオフにします。

操作方法

ボタンの左側または右側を押す：風量が弱くなるか、または強くなります。

選択した風量がエアコン ディスプレイに表示されます。

バッテリーの消耗を抑えるため、風量が減少する場合があります。

エア配分を手動で調節する

原理

エア コンディショニング用の送風口調節を手動で調整することができます。

操作方法

ボタンを何度か押して、以下のいずれかのプログラムを選択します：

- ウィンドウ ガラス、胸元と足元。
- 胸元と足元。
- 足元。
- ウィンドウ ガラスと足元。
- ウィンドウ ガラス。
- ウィンドウ ガラスと胸元。
- 胸元。

選択した送風口がエアコン ディスプレイに表示されます。

ウィンドウが曇っている場合に曇りを取り除く (220 ページ参照)。

フロント ウィンドウの結露および曇りを取り除く

原理

フロント ウィンドウや前席のサイド ウィンドウから、氷と曇りが素早く除去されます。

オン / オフにする

ボタンを押します。

システムがオンになっている場合、LED が点灯します。

システムがオンになっている場合、風量を手動で調整することができます。

ウィンドウが曇る場合は、運転席側のボタンを押すか、エアコンをオンにします。エアがフロント ウィンドウに当たることを確認してください。

リア デフォッガー

ボタンを押します。LED が点灯します。

機能は、エンジン作動時に使用可能です。

リア デフォッガーは、一定時間経過後に自動的にオフになります。

マイクロ フィルター

マイクロ フィルターは、車内に取り入れる外気のちりや花粉を除去します。

このフィルターは、車両のメンテナンス (280 ページ参照) の際に交換してください。

送風口

原理

送風方向を個別に調整することができます。

送風の調節

一般事項

送風方向を直接送風または間接的な送風に調整することができます。

エアコンの効果を高めるため、送風口を開き、適切な向きします。

直接送風

直接乗員に向かって風が送られます。設定された温度に応じて、送られてくる風が暖かく、または冷たく感じられます。

間接的な送風

直接乗員に風が当たらないように送風の向きを調整してください。設定された温度に応じて、車内が間接的に暖房されるか、冷房されます。

フロント用送風口

- 送風の向きを調節するレバー (矢印 **1**)。
- 送風口を無段階に開閉するダイヤル (矢印 **2**)。

パーキング ベンチレーション

原理

パーキング ベンチレーションにより、走行開始前に車内の温度を調整することができます。設定された温度と周囲温度に応じて、車内が換気されるか、またはエンジン余熱がある場合は余熱暖房によって暖められます。

一般事項

システムは直接オン / オフにする

か、または、あらかじめ設定した出発時刻に合わせてオン / オフにすることができます。

スイッチ オン時刻は外気温度に基づいて計算されます。システムは、あらかじめ設定された出発時刻前の適切な頃合いにオンになります。

機能の前提条件

- 車両が停止状態であるか、作動スタンバイ状態であり、走行スタンバイ状態ではない。
- バッテリーが十分に充電されている。

パーキング ベンチレーションがオンのときには、車両バッテリーが放電されます。そのため、車両バッテリーを節約するために最大オン時間が制限されています。エンジン スタート後または短距離の走行後、システムは再び使用できるようになります。

- 車両の日付と時刻が正しく設定されていることを確認してください。
- 換気できるようにエアコンの送風口を開けておきます。

直接オン / オフにする

一般事項

システムは、さまざまな方法で直接オン / オフにすることができます。

システムは、一定時間経過後に自動的にオフになります。システムはオフにされた後、さらに少しの間作動し続けます。

ボタンによる

車両が作動スタンバイ状態のとき、パーキングベンチレーションをオートエアコンのボタンでオン / オフにすることができます。

■ **オンにする**

希望のボタンを押します。ただし以下を除きます：

- リア デフォッガー
- シート ヒーター
- メニュー

■ **オフにする**

車両をロックして車両から離れると、システムはオフになります。

Toyota Supra Command からの操作

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エアコン」
4 「パーキングベンチレーション」
5 「即起動」

表示

シンボル	説明
	システムがオンになると、オートエアコンのシンボルがこれを知らせます。 オートエアコンに REST が表示されます。エンジンの余熱が利用されます。

出発時刻

原理

すでに走行開始時に車内の温度を快適にしておくために、異なる出発時刻を設定することができます。

● 1 回の出発時刻：時刻を設定できます。

システムが 1 回オンになります。

● 曜日と出発時刻：時刻と曜日を設定できます。

システムは、希望の曜日のあらかじめ設定された出発時刻前の適切な頃合いにオンになります。

出発時刻の事前設定は 2 ステップで行います：

● 出発時刻を設定します。

● 出発時刻を有効にします。

出発時刻の設定 / スタンバイと予定された出発時刻の間は、エア コンディショニングのための 十分な時間を確保するため、10 分以上あける必要があります。

出発時刻を設定する

■ Toyota Supra Commandからの操作

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エアコン」
4 「パーキングベンチレーション」
5 希望の出発時刻を選択します。
6 出発時刻を設定します。
7 必要に応じて曜日を選択します。

出発時刻を有効にする

■ 作動条件

出発時刻がパーキング ベンチレーションのオンに作用するようにしたい場合は、該当する出発時刻を事前に有効にしてください。

■ Toyota Supra Commandからの操作

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両設定」
3 「エアコン」
4 「パーキングベンチレーション」
5 「一回限りの出発時刻」または「出発時刻」
6 希望の出発時刻を有効にします。

表示

エアコン ディスプレイの❄シンボルにより、出発時刻が有効になったことが通知されます。

インテリア

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

サン バイザー

日よけ

サン バイザーを下方または上方に開きます。

バニティ ミラー

バニティ ミラーはサン バイザーのカバーの裏側にあります。カバーを開くと、ミラー照明がオンになります。

ソケット

原理

ソケットは、作動スタンバイまたは走行スタンバイがオンになっているときに、電気装置用の電源として使用することができます。

一般事項

電源ソケットの全負荷が 12V で 140W を超えないようにしてください。

規格に合わないプラグを電源ソケットに差し込んで損傷させないようにしてください。

安全に関する注意事項

警告

エアバッグの膨張範囲の装置とケーブル、例えばポータブル ナビゲーション機器などが、エアバッグの膨張を妨げたり、膨張時に車内に飛び出るおそれがあります。けがをする危険があります。機器やケーブルがエアバッグの膨張範囲にないことを確認してください。

注意

車両バッテリー用のバッテリー充電装置は高い電圧と大きな電流で作動することができるので、12V バッテリー回路が過負荷になったり、損傷するおそれがあります。車両バッテリー用のバッテリー充電装置は、必ずエンジン ルーム内のジャンプ スタート ケーブル接続部に接続してください。

注意

金属製の物体をソケット内に落とすと、ショートを引き起こすおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ソケットを使用した後は、ソケット カバーを再び挿入してください。

⚠注意

電源プラグを接続した機器（携帯電話など）によりバッテリーが放電するおそれや、車両損傷の危険があります。車両を離れるときは、使用中の電子機器（携帯電話など）の電源プラグを抜いてください。

センター トレイ

カバーを引いて外します。

ラゲッジルーム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カバーを開けます。

USB ポート

一般事項

USB 接続 (68 ページ参照) のセクションの USB ポートへのモバイル機器の接続に関する注意事項を確認してください。

センター トレイ

USB ポートはセンター トレイにあります。

特徴：

- USB コネクター タイプ A
- 外部デバイスの充電用
- 充電電流：

最大 1.5A（ワイヤレス充電非装着車）

最大 2.1A（ワイヤレス充電装着車）

- データ転送用

ワイヤレス充電トレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

ワイヤレス充電トレイにより、Qi 規格よって認可されている携帯電話やその他の携帯機器をケーブルを使わずに充電することができます。

一般事項

充電したい機器をワイヤレス充電トレイに置く際には、機器とトレイの間に障害物がないことを確認してください。

充電中は、コントロール ディスプレイに充電インジケーターが表示されます。

安全に関する注意事項

警告

Qi 規格をサポートする機器をワイヤレス充電トレイで充電する場合、機器とトレイの間に金属物質があれば、それが非常に熱くなることがあります。
チップ カード、磁気ストライプ付きカードまたは通信用カードなどの電子カードや記憶メディアが機器とトレイの間にある場合、カードの機能に悪影響を及ぼすおそれがあります。けがをするおそれおよび損傷が発生する危険があります。モバイル機器を充電する場合は、機器とトレイの間に物がないことを確認してください。

機能の前提条件

- 充電する機器は Qi 規格に適合していなければなりません。
- 作動可能状態がオン。
- 携帯電話の最大寸法に注意してください。
- 充電機能に悪影響を及ぼすおそれがあるため、保護ケースやカバーは、厚さが 2mm 以下のみのものを使用してください。
- 充電する携帯電話がトレイの中央にくるようにします。

操作方法

概要

1 LED
2 収納エリア

携帯電話を挿入する

ディスプレイ面を上に向けて、携帯電話をトレイの中央に挿入します。

携帯電話のサイズが約 154.5 x 80 x 18 mm を超えてはなりません。

LED 表示

カラー	意味
	携帯電話が充電されます。
青	挿入した Qi 対応の携帯電話が完全に充電されたとき、青色の LED は引き続き点灯します。

カラー	意味
オレンジ	携帯電話が充電されません。 携帯電話の温度が高すぎるか、充電トレイ内に異物が入っている場合があります。
赤	携帯電話が充電されません。 トヨタ販売店に連絡します。

置き忘れ警告

一般事項

置き忘れ警告が装備されている場合、車両を離れるときに Qi 規格対応の携帯電話をワイヤレス充電用トレイに置き忘れた際に警告を出力することができます。

置き忘れ警告はメーターパネルに表示されます。

オンにする

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「システム設定」
3 「ワイアレス充電トレイ」
4 リマインダーをオンにします。

システムの限界

次のような場合には、充電電流が低減されたり、充電プロセスが一時的に中断される可能性があります：

- トレイや携帯電話の温度が高すぎるため。
- 携帯電話とワイヤレス充電用トレイの間に障害物がある。
- 携帯電話の充電などに関する設定。コントロール ディスプレイと場合によっては携帯電話の説明書の該当する注記を確認してください。

小物入れ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

収納場所

一般事項

次の収納場所が車内にあります：

- グローブ ボックス (228 ページ参照)
- ドア ポケット (229 ページ参照)
- 助手席足元スペースのネット

安全に関する注意事項

警告

車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている携帯電話などの機器は、走行中、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に投げ出されるおそれや、けがをする危険があります。車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている機器は確実に固定してください。

注意

滑り止めマットなどの滑り止め付きの敷物はダッシュボードを傷つけるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。滑り止め付きの敷物は使用しないでください。

グローブ ボックス

安全に関する注意事項

警告

グローブ ボックスは、開いた状態のとき車内に突き出ます。グローブ ボックス内で固定されていない物は、走行中、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に投げ出されるおそれや、けがをする危険があります。グローブ ボックスを使用した後は、すぐに閉じてください。

開ける

ハンドルを引きます。

グローブ ボックス内の照明が点灯します。

閉める

カバーを閉じます。

ロック

グローブ ボックスは内蔵キーでロックできます。そうすることで、グローブ ボックスを開けることはできなくなります。

車両の駐車をパーキング サービスに依頼する場合などに、グローブ ボックスのロック後、内蔵キーなしで電子キーを手渡すことができます。

ドア ポケット

一般事項

ドアには収納ボックスがあります。

安全に関する注意事項

警告

ガラス瓶やグラスなどの割れやすい物は、例えば事故が起きたとき、ブレーキをかけたとき、または障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに破損するおそれや、破片が車内に飛び散るおそれがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。走行中には割れやすい物を使用しないでください。割れやすい物は、必ず閉められる収納ボックスに入れてください。

ドリンク ホルダー

安全に関する注意事項

警告

ドリンク ホルダーに不適切な容器があると、ドリンク ホルダーが損傷したり、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内で容器や液体が飛ぶおそれがあります。液体が溢れると交通状況から注意がそれ、事故を起こすおそれや、熱い飲み物でドリンク ホルダーが損傷したり、火傷をするおそれがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ドリンク ホルダーに物を無理に押し込まないでください。軽くて破損しにくい、ふた付きの容器を使用してください。熱い飲み物は置かないようにしてください。

ラゲッジ ルーム

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

積載荷重

安全に関する注意事項

安全な走行を心がけ、交通法規を遵守してください。

警告

総重量が重くなるとタイヤが過熱し、内部が損傷してタイヤ空気圧の損失を招くおそれがあります。方向安定性が低下したり、制動距離が長くなったり、ステアリング特性が変化したりして、走行特性に悪影響を及ぼす可能性があります。事故の危険があります。タイヤの許容耐荷重に注意し、許容車両重量を超過しないでください。

警告

車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている携帯電話などの機器は、走行中、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に投げ出されるおそれや、けがをする危険があります。車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている機器は確実に固定してください。

警告

不適切に積まれた物は、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に滑り込んだり、飛び出てくることにより同乗者にぶつかったり、けがをするおそれがあります。けがをする危険があります。物や荷物は正しく積んで、固定してください。

注意

ラゲッジ ルームの液体漏れは損傷が発生するおそれがあります。ラゲッジ ルームに液体が漏れ出ないように注意してください。

荷物を積んで固定する

- 荷物の先の鋭い部分や角のとがった部分は、カバーで覆います。
- 重量物：できるだけ前方、ラゲッジ ルームパーティション真後ろの下部に積み込みます。
- 小さい荷物や軽い荷物：固定ベルトで、また、装備によってはラゲッジ ルーム ネットまたはストラップで固定します。
- 大きい荷物や重い荷物：固定用ツールで固定します。

ラゲッジルーム内の固定用フック★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

一般事項

荷物の固定には、固定ツール、固定バンド、ストラップまたはラゲッジ ルーム ネットなどの補助具をラゲッジ ルームのフックに固定します。

フック

ラゲッジ ルームには、荷物を固定するためのフックが 4 個あります。

バッグ用フック

一般事項

ラゲッジ ルームの左側と右側にバッグ用フックがあります。

安全に関する注意事項

警告

バッグ用フックが正しく使用されていない場合、ブレーキ操作や障害物を回避する操作などを行った際に、物が飛んできて危険な状態となることがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。バッグ用フックには買い物袋などの軽い物のみを掛けてください。重い荷物は必ずラゲッジルームに適切に固定して運んでください。

固定バンド

右側のサイド トリム パネルには小物を固定するための固定バンドがあります。

ネット

小物は左側のネットに収納できます。比較的大きな物を運ぶ場合は、ネットを下方に移動します。そのために、ネットの端をできる限り縁の側、ホルダー脇でつかみます。抵抗に逆らって動かすとスタートします。

右サイド収納ボックス

一般事項

ラゲッジ ルームの右側には収納ボックスが 1 つあります。

開ける

右サイド トリム パネルのカバーをロック解除し（矢印 **1**）、開けます（矢印 **2**）。

ラゲッジカバー

取り外す

かさばった荷物を積むために、カバーを取り外すことができます。

1 トランクリッドからストラップを外します。

2 カバーをスライドし（矢印 1）、後方へ引き出します（矢印 2）。

取り付ける

取り外すときの逆の手順で取り付けてください。ラゲッジカバーが正しい位置に取り付けられたことを確認してください。

ドライブのヒント

4

4-1. ドライブのヒント

ドライブ時に覚えておきたいこと 236
燃料の節約 241

ドライブ時に覚えておきたいこと

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

慣らし運転

一般事項

可動部品は互いになじませる必要があります。

以下の注意事項は、車両の最適な耐用年数と経済性を得るのに役立ちます。

慣らし運転中はローンチ コントロール (128 ページ参照) を使用しないでください。

安全に関する注意事項

警告

新しい部品および構成部品によりセーフティシステムおよびドライバー アシスト システムが遅れて反応する場合があります。事故の危険があります。新しい部品を取り付けた後または新車の場合は、控えめに走行し、必要に応じて早期に介入してください。部品および構成部品の慣らし運転の注意事項を確認してください。

エンジン、トランスミッションとファイナルドライブ

2000km 以下

最高エンジン回転数を超えないようにしてください：

4500rpm。

アクセル ペダルをいっぱいまで踏み込んだり、キックダウンを行ったりすることは控えてください。

2000km 以降

エンジン回転数と速度を徐々に上げてください。

タイヤ

新しいタイヤのグリップ力は、製造上の理由から、まだ最適な状態にはなっていません。

最初の 300km は控えめに走行してください。

ブレーキ システム

ブレーキ ディスクとブレーキ パッドは、約 500km 走行後に最高の性能を発揮できるようになります。この慣らし運転の間は、控えめに走行してください。

部品交換後

前述の部品を交換した場合、改めて慣らし運転を行ってください。

一般的な運転ガイド

ドアを閉める

警告

ドアを開いたまま走行すると、乗員が車両から投げ出されるおそれがあります。また、不用意にドアを開くと、他の通行車などとぶつかる危険などの事故が発生するおそれがあります。ドアは必ず完全に閉じてください。ドアを開くときは、周囲の安全に注意してください。

トランク リッドを閉める

安全に関する注意事項

警告

開いたトランク リッドは車両の上に突き出た状態となり、事故の際やブレーキを踏んだとき、急なハンドル操作を行ったときに、乗員や他の道路利用者に危険が及んだり、車両が損傷するおそれがあります。さらに、排気ガスが車内に入り込む可能性があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。トランクリッドを開けた状態で走行しないでください。

ウィンドウ ガラスの氷結

注意

ドア ハンドルを引くと、ウィンドウが少し下がります。霜が降りると、場合によってはウィンドウが完全に氷結し、下がらなくなり、損傷するおそれがあります。ドア ハンドルを引く際は、ウィンドウが下がるか注意してください。必要に応じてウィンドウについた雪や氷を取り除きます。ドアを力任せに開かないこと。

高温になる排気装置

警告

走行中、排気装置などによってボディ下が高温になることがあります。排気システムに触れると、やけどやけがをするおそれがあります。エキゾーストパイプを含む高温になった排気システムには触れないでください。

警告

落葉、芝などの燃えやすいものが排気装置の熱くなった部分に触れると、また、燃え出すおそれがあります。火災ややけどの危険があります。排気装置に取り付けられた遮熱板を取り外したり、アンダー ガードを施したりしないでください。走行中、アイドリング中、また駐車時に、燃えやすいものが熱くなった車両部分に触れないように注意してください。

車内の通信機器

警告

電気系統と携帯通信機器は互いに影響する可能性があります。携帯通信機器の送信動作によって電磁波が発生します。けがをしたり、車両が損傷するおそれがあります。携帯電話などの携帯通信機器を車内で使用するときは、できる限り外部アンテナに直接接続して使用し、互いに妨害せず、車内に電磁波が発生しないようにしてください。

天気が悪いときの走行

霧で見えにくいとき

霧で視界が悪いときは、昼間でもヘッド ライトを下向きで点灯し、周囲の車などに自分の存在を知らせてください。センター ラインやガード レール、前車のテール ライトなどを目安に走行し、速度を下げて慎重に運転してください。

風が強いとき

風を受けて車が横に流されるようなときは、速度を下げてステアリング ホイールを、いつもよりしっかり握って運転してください。

トンネルの出口や切り通し、橋や堤防の上を走行するときや、大型車を追い越したり、追い越されたりするときは、特に横風の影響を受けやすくなります。

雨が降っているとき

- 雨天時や路面が濡れているときは、路面が滑りやすく、視界も悪くなりがちです。状況に応じ、ヘッド ライトを下向きで点灯す

ると、周囲の車に自分の存在を知らせる有効な手段です。いつもより車間距離を長めに確保し、安全に支障がない限り急加速や急ブレーキ、急なステアリング操作を控え、速度を下げて運転してください。

- ウィンドウ デフロスターやエアコンを使用し、ウィンドウ ガラスの曇りを予防してください。
- わだちや深い水たまりでは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすくなります。

ハイドロプレーニング

濡れた路面やぬかるみを走行すると、タイヤと道路の間に水の膜が発生することがあります。

この現象は、ハイドロプレーニングといい、路面に対するタイヤのグリップ力が完全に失われ、車両のコントロールや正常なブレーキ制動力が得られなくなり、場合によっては全く利かなくなります。

水の中を通過する

一般事項

水たまりのある路面を走行するときは以下に注意してください：

- アイドリングストップ機能をオフにします。
- 流れのない水たまりのみを通過してください。
- 最高水位が 25cm 以下の水たまりのみを通過してください。
- 水たまりは、5km/h 以下の徐行速度で通過してください。

安全に関する注意事項

注意

かなり水位のある水たまりを高速で通過する場合、水がエンジン ルーム、電装品、トランスミッションに浸入するおそれがあり、損傷が発生するおそれがあります。水たまりのある路面を走行するときは、規定の最高水位と水たまりを通過する際の最高速度を超えないようにしてください。

安全にブレーキをかける

一般事項

車両にはアンチロック ブレーキ システム ABS が標準装備されています。

必要な状況ではフル ブレーキを行ってください。

その後も車両は、操縦可能な状態を維持します。落ち着いてステアリング操作をすることにより、障害物を回避し易くなります。

ペダルが振動し、油圧の制御音が聞こえたら、アンチロック ブレーキ システム ABS が作動しています。

特定のブレーキ状況下では、穴あきブレーキディスクがノイズの原因になることがあります。ただし、機能上の異音によりブレーキの性能や作動安全性が損なわれることはありません。

ペダルの動作範囲に物を置かない

警告

運転席足元スペースに物があると、ペダル ストロークが制限されたり、ペダルを床まで踏み込むことが阻止されたりするおそれや、事故の危険があります。車内では物を固定して、運転席足元スペースに入り込まないように収納してください。ご使用の車両に適切な、フロアに確実に固定することのできるフロア マットを使用してください。ずれやすいフロアマットを使用しないでください、フロア マットを複数重ねないでください。ペダル用のスペースが十分空いていることを確認してください。フロア マットは、清掃などで取り外した後、再び確実に取り付けるよう注意してください。

濡れた路面

濡れた路面、または融雪塩の撒かれた路面や強い雨の中を走行するときは、数キロメートル毎に、短時間軽くブレーキを踏みます。

その際、他の車の妨げにならないよう注意してください。

ブレーキをかけたときに発生する熱により、ブレーキ ディスクとブレーキ パッドが乾かされて、腐食から保護されます。

必要なときに必要なブレーキ制動力を得ることができます。

下り坂

■ 一般事項

長い、または険しい急勾配の道は、ブレーキをかける必要が最も少ないギアで運転してください。そうしないと、ブレーキ システムが異常過熱し、ブレーキの制動力が低下するおそれがあります。

必要に応じて 1 速まで手動でシフト ダウンすることによって、エンジンのブレーキ作用をさらに強めることができます。

■ 安全に関する注意事項

警告

たとえわずかな踏力であってもブレーキ ペダルに踏力を加え続けると、ブレーキ系統が過熱して、ブレーキ パッドの摩耗またはブレーキシステムの故障を引き起こす場合があります。事故の危険があります。ブレーキの過剰な負荷を回避してください。

警告

アイドリング状態やエンジン オフ時には、安全関連の機能が制限されたり、エンジン ブレーキまたはブレーキ ブースターやパワー ステアリングなどが使用できません。事故の危険があります。アイドリング状態やエンジンをオフにした状態で走行しないでください。

ブレーキ ディスクの腐食

ブレーキ ディスクの腐食とブレーキ パッドの汚れは、以下の状況で起こりやすくなります：

- 使用程度が低い場合
- 停車期間が長い場合
- 負荷が小さい場合
- 刺激性、酸性またはアルカリ性のクリーニング剤

ブレーキディスクが腐食している

と、ブレーキを踏む際に振動がおこることがあり、それは修理では改善できない場合があります。

停車した車両下の凝縮水

エアコンの中に凝縮した水が生じ、車両の下に出てきます。

レースコースの走行

レースコース走行における機械的および熱的な大きな負荷により摩耗が早まります。したがってこの場合の摩耗は保証の対象とはなりません。車両はモータースポーツのレース用として設計されていません。

レースコースでの走行の前後に、車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

燃料の節約

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

燃料消費量の低減

一般事項

車両には、燃費向上および排ガス値低減のために総合的な技術が導入されています。

燃料消費量はドライビングスタイル、路面状態、整備あるいは環境などのさまざまな要因によって変動します。

適切な運転の仕方などのいくつかの処置や定期的なメンテナンスによって、燃費を改善し、環境への負荷を軽減させることができます。

不要な積載物を降ろす

積載物の重量が増えると、燃費も悪化します。

使用後は取付けパーツを取り外す

車両に取り付けたパーツは、エアロダイナミクスに影響を及ぼし、燃費を悪化させます。

ウィンドウを閉める

ウィンドウを開けていると、空気抵抗が増加し、燃費を悪化させます。

タイヤ

一般事項

タイヤは燃費にさまざまな影響を及ぼすことがあり、例えばタイヤサイズにより燃費が変わることがあります。

タイヤ空気圧を定期的に点検する

タイヤ空気圧は少なくとも月 2 回、また長距離の運転を始める前に点検し、必要に応じて調整してください。

タイヤ空気圧が低すぎると、走行中のころがり抵抗が増加してエネルギー消費量を悪化させ、さらにタイヤの摩耗も増えます。

すぐに発進する

停車したままエンジンの暖機運転を行わず、極端にエンジン回転数を上げないようにしながら、発進してください。

これにより、冷間時のエンジンを最も効率よく作動温度にすることができます。

先を見越して運転する

先読みする運転スタイルを心がけ、安定した走行を維持することで燃費が向上します。

不必要な加速やブレーキングを行わないでください。

そのためには、前を走る車と自車との間に適切な車間距離を保ってください。

高い回転数を避ける

低いエンジン回転数で走行すると、燃費が向上し、摩耗も少なくなります。

必要に応じて車両のシフト ポジション インジケーターを確認します (139 ページ参照)。

惰性走行を利用する

赤信号に接近する際は、アクセルペダルを戻して、車両の惰性を利用してください。

急勾配の下り坂ではアクセル ペダルを戻し、惰性で走行してしてください。

惰性走行中は、燃料供給がカットされます。

長い時間停車する際はエンジンをオフにする

エンジンをストップする

信号や踏み切り、または渋滞など、長い時間停車する際は、エンジンをオフにしてください。

アイドリングストップ

車両のアイドリングストップは停車中、エンジンを自動的に停止します。

エンジンを停止し、再びスタートすると、常にエンジンをかけ続ける場合よりも燃料が節約され、排気ガスが低減されます。エンジンをわずか数秒停止させるだけでも節約効果が表れます。

現在必要でない機能のスイッチをオフにする

シート ヒーターやリア デフォッガーなどの機能は多くのエネルギーを必要とし、燃料消費量を増加させます。市街地走行や何度も停止を繰り返す渋滞運転の場合は特にそうです。

必要な場合以外では、これらの機能のスイッチを切っておくようにしてください。

点検整備を実施する

車両の経済性を適切に維持し、車両の寿命を最大限に確保するため、定期的に車両のメンテナンスを実施してください。点検整備は、トヨタ販売店にご依頼ください。

メンテナンス 5

5-1. メンテナンス

給油 246
ホイールとタイヤ 248
エンジンルーム 270
燃料・油脂類 272
メンテナンス 280
部品の交換 282
いざというときに 292
お手入れ 301

給油

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

給油について

一般事項

給油前に、燃料の種類についての注意事項 (272 ページ参照) を確認してください。

ノズルが給油を最初にストップしたとき、燃料タンクは満タンになっています。

給油の途中で給油ノズルを持ち上げないでください。そうしないと、給油が中断されてしまうことがあります。

ガソリン スタンドに掲示されている安全規定を遵守してください。

安全に関する注意事項

警告

ガソリンは危険物です。強燃性で、場合によっては爆発します。火災ややけどの危険があります。次の注意事項を守ってください。

- 給油時はエンジンをストップしてください。
- ガソリンを扱っているときや周囲でガソリンの匂いがするときは、絶対に火気を近づけないでください。
- ガソリンがこぼれたときは、ふき取ってください。
- セルフ給油式のガソリン スタンドでは、掲示されている給油時の注意に従ってください。
- フューエル キャップを開ける前に車両の金属部分に手を触れ、身体に帯電している静電気を逃がしてください。これにより、放電の火花を防ぎます。
- 給油しない人は給油口には近づかず、給油する人は、給油が終わるまで車内シートに座らないでください。給油の途中でシートに座ると、再び静電気を帯びることがあります。
- 給油中、携帯電話など、電波を発生するものは携行しないでください。気化したガソリンとの間に火花が発生し、爆発、引火する危険があります。
- 給油口からガソリンの蒸気を吸い込まないでください。ガソリンの蒸気は有毒です。

警告

●車両の周囲や車内でガソリンの臭いを感じたときは、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。放置すると思わぬ火災の原因になるおそれがあります。

注意

走行可能距離が 50km 以下の場合は、エンジンに十分な燃料が供給されなくなるおそれがあります。エンジン機能が保証されなくなります。損傷が発生するおそれがあります。適切な時期に給油してください。

注意

燃料は有毒で刺激性があります。燃料タンクから燃料があふれ出ると、燃料システムが損傷するおそれがあります。塗装済みの表面と接触した場合は、表面が損傷するおそれがあります。環境が汚染されます。損傷が発生するおそれがあります。過度な給油を避けてください。

給油口

開ける

1 フューエル リッドの後端を軽く押します。

2 フューエル キャップを反時計回りに回します。

3 フューエル キャップは、フューエル リッド裏のホルダーに差し込みます。

閉める

警告

キャップを回して閉める際にフューエル キャップのストラップが挟まれたり、押しつぶされるおそれがあります。その場合、キャップを正しく閉めることができません。燃料や燃料の蒸気が漏れる可能性があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。キャップを回して閉める際には、ストラップが挟まれたり、押しつぶされたりしないように注意してください。

1 キャップを給油口にはめて、時計回りに「カチッ」という音が

はっきり聞こえるまで回します。

2 フューエル リッドを閉じます。

フューエル リッドの手動ロック解除

電気故障時などの特定の状況では、フューエルリッドを手動でロック解除する必要があります。

トヨタ販売店にフューエル リッドのロック解除を依頼してください。

ホイールとタイヤ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

タイヤ空気圧

一般事項

タイヤの状態とタイヤ空気圧は以下に影響を及ぼします：

- タイヤの寿命
- 走行安全性
- 走行快適性
- 燃費

安全に関する注意事項

警告

タイヤ空気圧が低くなりすぎた場合や空気が抜けてしまった場合は、タイヤが非常に熱くなって損傷するおそれがあります。ステアリング動作やブレーキ動作などの走行特性が損なわれます。事故の危険があります。タイヤ空気圧を定期的に点検し、必要に応じて、例えば少なくとも月 2 回、または長距離ドライブの前などに調整してください。

タイヤ空気圧の記載

ドア ピラー上

タイヤ空気圧規定値は運転席ドアのドア ピラーに記載されています。

タイヤ空気圧は、車両メーカーによって該当車両タイプに適切であると認められたタイヤ サイズおよび推奨されたタイヤ銘柄に有効です。特殊な装備との組み合わせでのみ適切であるタイヤ サイズも記載されている場合があります。

車両への使用が認められているホイールとタイヤに関する情報は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

車両の積載荷重に応じて、それぞれの積載荷重に規定されたタイヤ空気圧が適用されます。例：部分的な積載荷重の車両の場合、規定のタイヤ空気圧は部分的な積載荷重の車両に対して最適なタイヤ空気圧です。

ホイールとタイヤに関する詳細は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

コントロール ディスプレイ上

装着されているタイヤについて、現在のタイヤ空気圧をコントロール ディスプレイに表示させることができます。

正しい表示のためには、タイヤ サイズがシステムに保存され、装着されているタイヤ用に設定されている (260 ページ参照) 必要があります。

現在のタイヤ空気圧の値はそれぞれのタイヤに示されています。

タイヤ空気圧の点検

一般事項

タイヤは走行時に温まります。タイヤ空気圧はタイヤの温度とともに上昇します。

タイヤ空気圧は自然に一定の量が減ります。

空気圧測定装置は、最大で 0.1bar 低い値を表示することがあります。

ドア ピラーのタイヤ空気圧規定値による点検

ドア ピラーのタイヤ空気圧ラベルのタイヤ空気圧規定値は、冷えているときのタイヤまたは周囲温度と同じ温度のタイヤのみに関するものです。

タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えているときに点検してください、つまり：

・ 走行距離が最大 2km を超えていないとき

・ 走行後に最低 2 時間車両を動かしていないとき

1 装着されているタイヤ用の規定タイヤ空気圧を確認します(248 ページ参照)。

2 空気圧測定装置などを使用して、4 本全てのタイヤでタイヤ空気圧を点検します。

3 現在のタイヤ空気圧と規定タイヤ空気圧の間に値のずれが生じている場合は、該当するタイヤのタイヤ空気圧を修正してください。

4 タイヤ バルブに全てのバルブキャップが取り付けられているかを点検してください。

コントロール ディスプレイのタイヤ空気圧規定値による点検

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両ステータス」

3 (!)「タイヤ空気圧警報」

4 現在のタイヤ空気圧が規定タイヤ空気圧からずれていないか点検します。

5 現在のタイヤ空気圧と規定タイヤ空気圧の間に値のずれが生じている場合は、該当するタイヤのタイヤ空気圧を修正してください。

現在のタイヤ空気圧の表示は、停車時に制限されている場合があります。短時間走行すると、タイヤ空気圧が更新されます。

タイヤ空気圧の調整後

タイヤ空気圧警報（TPM）の場合：

修正されたタイヤ空気圧が自動的に適用されます。タイヤ設定が正しく行われているか確認してください。

コントロール ディスプレイでタイヤ空気圧規定値を確認することができないタイヤの場合、タイヤ空気圧警報（TPM）のリセットを行います。

速度記号

記号	最高速度
Q	160km/h 以下
R	170km/h 以下
S	180km/h 以下
T	190km/h 以下
H	210km/h 以下
V	240km/h 以下
W	270km/h 以下
Y	300km/h 以下

タイヤのトレッド

サマー タイヤ

タイヤ トレッド深さが 3mm 以下にならないようにしてください。この値以下の場合、ハイドロプレーニングが発生するおそれがあります。

ウィンター タイヤ

タイヤ トレッド深さが 4mm 以下にならないようにしてください。この値以下になると 冬期適合性が制限されます。

タイヤの使用限界

タイヤ トレッドの摩耗レベルを示すために、タイヤのトレッド面全体にタイヤ メーカーにより少なくとも約 1.6mm の摩耗インジケーターが施されています。

摩耗インジケーターは、タイヤ サイド ウォールの TWI、トレッド ウェア インジケーターの略語、と刻印された位置にあります。

摩耗インジケーターとは関係なく、最低トレッド深さに関する法規定を遵守してください。

タイヤの損傷

一般事項

定期的にタイヤに傷、異物、摩耗がないか点検してください。

タイヤ損傷またはその他の車両故障の兆候：

- 異常な振動
- 異常な回転音または走行音
- 左や右に強く引っ張られるような異常な走行特性
- タイヤのショルダー部分が特に摩耗しているなど、摩耗状態が均一でない場合。

例えば以下の状況によって損傷が生じることがあります：

- 縁石の角を乗り越える
- 道路の損傷
- タイヤ空気圧が低すぎる
- 車両の積載超過
- 不適切なタイヤ保管

安全に関する注意事項警告

警告

損傷したタイヤではタイヤ空気圧が低下し、車両を制御できなくなるおそれや、事故の危険があります。走行中にタイヤ損傷に関する注意が表示された場合は、速やかに減速して停車してください。ホイールとタイヤの点検を依頼してください。そのためにトヨタ販売店まで慎重に走行してください。必要に応じて車両をけん引または搬送してもらってください。損傷したタイヤは修理しないで交換してください。

警告

例えば、縁石の角や道路の損傷など、障害物を高速で乗り越えることによって、タイヤが損傷することがあります。タイヤが大きいほど、タイヤ断面は小さくなります。タイヤ断面が小さいほど、タイヤ損傷の危険は増します。事故の危険や物的損害の危険が生じます。障害物はできるだけ回避するか、または低速で慎重に乗り越えてください。

タイヤの寿命

推奨

タイヤは、タイヤ トレッド深さに関わらず、少なくとも 6 年毎に交換してください。

製造時期

タイヤの製造時期はタイヤ サイドウォールにあります。

記号	製造時期
DOT…38 20	2020 年第 38 週

ホイールとタイヤの交換

取付けとバランス調整

タイヤの取付けとバランス調整は、トヨタ販売店に依頼してください。

認められているホイールとタイヤ

一般事項

車両タイプごとに承認されているホイールとタイヤおよび特殊な装備については、車両メーカーによって以下の特性が推奨され、適切であると認められています：

- ホイールとタイヤの組み合わせ
- リム仕様
- タイヤ サイズ
- タイヤ銘柄

車両への使用が認められているホイールとタイヤおよび特殊な装備については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

安全に関する注意事項

警告

車両に適切でないホイールとタイヤは、例えば規格サイズが同じでも許容誤差があるため、ボディと接触することによって車両の部品を損傷するおそれや、事故の危険があります。車両メーカーは、該当車両タイプに適切であることが確認されているホイールとタイヤを使用することを推奨しています。

警告

スチール タイヤを取り付けると、ホイール ボルトが自然にゆるんだり、ブレーキ ディスクが損傷するなど、技術的な問題が発生するおそれや、事故の危険があります。スチールタイヤを取り付けないでください。

警告

ホイールとタイヤの組み合わせが正しくないと、車両の走行特性とアンチロック ブレーキ システムやビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロールなどの各種システムの機能が影響を受けます。事故の危険があります。走行特性を良好に保つため、必ず、同一メーカーの同じトレッドパターンのものを使用してください。車両メーカーは、該当車両タイプに適切であることが確認されているホイールとタイヤを使用することを推奨しています。タイヤが損傷した場合は、元のホイールとタイヤの組み合わせとなるようなタイヤを取り付けてください。

推奨タイヤ

車両のメーカーは、タイヤ サイズに応じて特定のタイヤ銘柄を推奨しています。タイヤ銘柄は、タイヤのサイド ウォールに星印が付いていることで見分けられます。

新しいタイヤ

新しいタイヤのグリップ力は、製造上の理由から、まだ最適な状態にはなっていません。

最初の 300km は控えめに走行してください。

再生タイヤ

警告

再生タイヤは、タイヤの内部構造が異なることがあります。劣化の進行とともに耐久性が損なわれるおそれや、事故の危険があります。再生タイヤを使用しないでください。

お客様の車両のメーカーは、再生タイヤの使用をお勧めしていません。

ウィンター タイヤ

一般事項

冬期の路面の走行には、ウィンター タイヤの使用をお勧めします。

ウィンター タイヤは、タイヤのサイドウォールに表記された山と雪のマークと M+S マークで識別することができます。

いわゆる M+S マークが付いていても山と雪のマークが無いオールシーズン タイヤは、サマータイヤよりも冬期用特性が優れていますが、ウィンター タイヤほどの性能はありません。

ウィンター タイヤの速度制限

ウィンター タイヤを取り付けた場合は、タイヤの許容最高速度を必ず守って、制限を超えないでください。

ランフラット タイヤの交換

ランフラット タイヤから標準タイヤへの交換の際、テンパー タイヤまたはタイヤ交換セットが車内にあるか確認します。詳しい情報は

トヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

損傷したタイヤではタイヤ空気圧が低下し、車両を制御できなくなるおそれや、事故の危険があります。損傷したタイヤは修理しないで交換してください。

アクスル間のホイール交換

フロント アクスルとリア アクスルで寸法の異なるタイヤまたはホイールを装着している車両の場合、フロント ホイールからリア ホイールへの交換やその逆の交換は許可されません。

タイヤを保管する

タイヤ空気圧

タイヤのサイド ウォールに表示されている最大タイヤ空気圧を超過しないようにしてください。

保管

- 取り外したホイールやタイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。
- オイル、グリース、溶剤がタイヤに付着しないように注意してください。
- タイヤをプラスチック袋に入れたままにしないでください。
- ホイールまたはタイヤから汚れを取り除いてください。

ランフラット タイヤ★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

ランフラット タイヤでは、タイヤ空気圧が完全に低下した場合でも、制限付きで走行を続けることができます。

一般事項

ランフラット タイヤは、セルフ サポーティング タイヤと、場合によっては追加の特殊リムで構成されています。

サイド ウォールの強化により、タイヤ空気圧が低下した状態でも制限付きでさらに走行を続けることができます。

タイヤ パンク時の走行に関する注意事項を守ってください。

安全に関する注意事項

警告

ランフラット タイヤで空気が抜けている場合またはタイヤ空気圧が非常に低い場合は走行特性が変化し、例えばブレーキ時の方向安定性が低下したり、制動距離が長くなったり、セルフステア特性が変化したりします。事故の危険があります。慎重に走行し、速度が80km/h を超えないようにしてください。

識別表示

タイヤ側面部分に RSC–Runflat SystemComponent と刻印されています。

警告

タイヤが損傷しているとタイヤ空気圧が失われ、車両をコントロールできなくなるおそれや、事故の危険があります。損傷したタイヤは修理せず、新しいタイヤに交換してください。

タイヤのパンクを修理する

安全対策

- 車両をできる限り交通の往来のある場所から遠ざけ、堅い地面に停車します。
- ハザード フラッシャーをオンにします。
- パーキング ブレーキをかけて、車両が動き出さないように車輪を固定します。
- ホイールを直進位置にして、ステアリングロックをロックさせます。
- 全ての搭乗者を降車させて、ガードレールの内側などの危険領域の外に移動させます。
- 必要があれば適切な距離をあけて非常停止表示板を置きます。

タイヤパンク応急修理キット★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

タイヤパンク応急修理キットにより、比較的小さなタイヤ損傷を短時間シールして、走行を続けることができます。これには液体状のシール剤をタイヤに注入します。シール剤が硬化することにより、損傷が内側からシールされます。

一般事項

- コンプレッサーおよびシール剤容器に記載のタイヤパンク応急修理キットの使用に関する注意事項を守ってください。
- タイヤパンク応急修理キットの使用は、タイヤの損傷が約 4mm を超える場合には効果がない可能性があります。
- タイヤを走行可能な状態にできない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
- 入り込んだ異物は、タイヤに入ったままにしてください。タイヤから異物が突出していることが確認できる場合のみ、異物を取り除いてください。
- シール剤容器から速度制限に関するラベルを剥がし、ステアリング ホイールに貼り付けてください。
- シール剤を使用すると、TPM ホイール エレクトロニクスが損

傷することがあります。その場合はエレクトロニクスをできるだけ早く交換してください。
・ コンプレッサーはタイヤ空気圧の点検に使用できます。

概要

収納

タイヤパンク応急修理キットはラゲッジルームの右収納ボックス内にあります。

シール剤容器

・ シール剤容器 (矢印 1)
・ 充填ホース (矢印 2)

シール剤容器に記載された使用期限に注意してください。

コンプレッサー

1 シール剤容器のロック解除
2 シール剤容器ホルダー
3 タイヤ空気圧インジケーター
4 タイヤ空気圧低下ボタン
5 オン / オフ スイッチ
6 コンプレッサー
7 電源ソケット用コネクター / ケーブル
8 接続ホース

安全対策

・ 車両をできる限り交通の往来のある場所から遠ざけ、堅い地面に停車します。
・ ハザード フラッシャーをオンにします。
・ パーキング ブレーキをかけて、車両が動き出さないように車輪を固定します。
・ ホイールを直進位置にして、ステアリングロックをロックさせます。
・ 全ての搭乗者を降車させて、ガードレールの内側などの危険領域の外に移動させます。
・ 必要があれば適切な距離をあけて非常停止表示板を置きます。

シール剤を充填する

安全に関する注意事項

警告

エキゾーストパイプが塞がれている場合や換気が十分でない場合は、有害な排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。排気ガスは無色で無臭の有害物質を含んでいます。閉じられた空間では、車両の外側にも排気ガスが溜まるおそれや、事故の危険があります。エキゾースト パイプが塞がれないよう、また十分に換気するように注意してください。

注意

作動が長すぎると、コンプレッサーが過熱するおそれがあり、損傷が発生するおそれがあります。コンプレッサーを 10 分以上作動させないでください。

充填

1 シール剤容器を振ります。

2 注入ホースをシール剤容器のカバーから完全に引きます。ホースを曲げないでください。

3 シール剤容器を、かみ合う音が聞こえるまでコンプレッサーのハウジングのマウントにはめ込みます。

4 シール剤容器の充填ホースを異常のあるホイールのタイヤ バルブにねじ込みます。

5 コンプレッサーをオフにした状態で、コネクターを車内の電源ソケットに差し込みます。

6 作動スタンバイがオンの時、またはエンジン回転中にコンプレッサーをオンにします。

コンプレッサーを最長 10 分間作動させて、シール剤が充填され、タイヤ空気圧が約 2.0 バールに達するようにします。

シール剤の充填時に、タイヤ空気圧が一時的に約 5 バールまで上昇する場合があります。この段階ではコンプレッサーをオフにしないでください。

タイヤ空気圧を点検および調整する

タイヤ空気圧を点検および調整する

1 コンプレッサーをオフにします。
2 タイヤ空気圧インジケーターのタイヤ空気圧を読み取ります。

走行を続けるには、タイヤ空気圧が 2bar 以上でなければなりません。

シール剤容器を取り外して収納する

1 シール剤容器の充填ホースをタイヤ バルブから外します。
2 赤色のロック解除を押します。
3 シール剤容器をコンプレッサーから取り外します。
4 ラゲッジ ルームが汚れないように、シール剤容器を梱包して収納します。

最低タイヤ空気圧に達していない

1 車内のソケットからプラグを引き抜きます。
2 タイヤ内にシール剤を分散させるため、前後に 10m 走行させます。

3 コンプレッサーの接続ホースを直接タイヤ バルブにねじ込みます。

4 コネクターを車内の電源ソケットに差し込みます。

5 作動スタンバイがオンの時、またはエンジン回転中にコンプレッサーをオンにします。

タイヤ空気圧が最低 2 バールに達しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

タイヤ空気圧が最低 2 バールに達している場合は、最低タイヤ空気圧に達しているを参照してください。

6 コンプレッサーの接続ホースをタイヤ バルブから外します。

7 車内のソケットからプラグを引き抜きます。

8 タイヤパンク応急修理キットを車両に積みます。

最低タイヤ空気圧に達している

1 コンプレッサーの接続ホースをタイヤ バルブから外します。

2 車内のソケットからプラグを引き抜きます。

3 タイヤパンク応急修理キットを車両に積みます。

4 すぐに約 10km 走行し、タイヤ内でシール剤を均等に分散させます。

速度が 80km/h を超えないようにしてください。

できれば、20km/h を下回らないようにしてください。

調整

1 適切な場所で停車します。

2 コンプレッサーの接続ホースを直接タイヤ バルブにねじ込みます。

3 コネクターを車内の電源ソケットに差し込みます。

4 タイヤ空気圧を 2.0bar 以上に修正します。
・ タイヤ空気圧を上げる：作動スタンバイがオンの時、またはエンジン回転中にコンプレッサーをオンにします。
・ タイヤ空気圧を下げる：コンプレッサーのボタンを押します。
5 コンプレッサーの接続ホースをタイヤ バルブから外します。
6 車内のソケットからプラグを引き抜きます。
7 タイヤパンク応急修理キットを車両に積みます。

走行を続ける

許容最高速度の 80km/h を超えないでください。

タイヤ空気圧警報 (260 ページ参照) のリセットを行います。

すぐに異常のあるタイヤとタイヤパンク応急修理キットのシール剤容器の交換を依頼してください。

スノー チェーン

スノー チェーンについて

スノー チェーンを装着できません。スノー チェーンについてはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■スノーチェーンの使用について

スノー チェーンを装着しないでください。スノー チェーンが車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧警報（TPM）

原理

このシステムは、取り付けられている 4 つのタイヤ空気圧をモニターします。このシステムは、1 個または複数のタイヤでタイヤ空気圧が低下した場合に警告を出します。

一般事項

エア バルブ内のセンサーがタイヤ空気圧とタイヤ温度を測定します。

このシステムは取り付けられたタイヤを自動的に検知します。このシステムはコントロール ディスプレイで規定圧を表示し、実際のタイヤ空気圧と比較します。

車両のタイヤ空気圧規定値 (248 ページ参照) に記載がないタイヤ、例えば特殊用途のタイヤなどの場

合は、リセットによりシステムを強制リセットする必要があります。これにより現在のタイヤ空気圧が規定圧として適用されます。

システムの操作については、タイヤ空気圧 (248 ページ参照) の章のその他の情報や注意事項も参照してください。

安全に関する注意事項

警告

規定圧の表示は、車両のタイヤ空気圧規定値に代わるものではありません。タイヤ設定における間違ったデータは、正しくない規定タイヤ空気圧の原因となります。タイヤ空気圧の低下を正確に検知して通知することができなくなります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。取り付けられているタイヤのタイヤ サイズが正しく表示され、タイヤに記載されているデータとタイヤ空気圧規定値が一致していることを確認してください。

機能の前提条件

タイヤ空気圧の低下を正確に検知して通知することができなくなるおそれがあるので、システムは以下の前提条件を満たしていなければなりません：

- タイヤ交換またはホイール交換の後、タイヤの取り付けがシステムによって検知、更新され、少し走行するとコントロールディスプレイに表示されます。

タイヤがシステムによって自動的に検知されない場合は、タイヤ設定で取り付けたタイヤのデータを入力します。

- 数分走行すると、タイヤ空気圧警報がオンになります：
- タイヤ交換またはホイール交換後
- リセット後、特殊用途のタイヤの場合
- タイヤ設定の変更後
- 特殊用途のタイヤの場合：
- タイヤ交換またはホイール交換の後、正しいタイヤ空気圧の状態でリセットを行うこと
- タイヤ空気圧を新しい値に調整した後、リセットを行うこと
- TPM ホイール エレクトロニクス付きタイヤ

タイヤ設定

一般事項

タイヤがシステムによって自動的に検知されない場合は、タイヤ設定で取り付けたタイヤのデータを入力することができます。

取り付けられているタイヤについてのタイヤ サイズは、車両のタイヤ空気圧規定値から、または直接タイヤから読み取ることができます (248 ページ参照) 。

タイヤ空気圧を修正する場合は、タイヤ空気圧規定値を再度入力する必要はありません。

サマーおよびウィンター タイヤに対しては、それぞれ前回入力したタイヤ データが保存されています。これにより、タイヤ交換またはホイール交換後、前回使用したタイヤ セットの設定を選択することができます。

メニューを呼び出す

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「タイヤ空気圧警報」

設定を行う

Toyota Supra Command から：

1 「タイヤ設定」
2 タイヤを選択する：
・「サマータイヤ」
・「スノータイヤ / オールシーズンタイヤ」
3 「現在のサイズ :」
4 リア アクスルに取り付けられているタイヤ タイプを選択する：
・ タイヤ サイズ、例えば 245/45 R18 96 Y
・ 特殊用途のタイヤの場合：「その他のタイヤ」
5 タイヤ サイズを選択した場合、車両の積載状態を選択します。
6 「設定を確定」

現在のタイヤ空気圧の測定が開始されます。測定の進捗状況が表示されます。

ステータス表示

現在のステータス

システムが作動しているかどうかなど、システムのステータスをコントロール ディスプレイに表示させることができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「タイヤ空気圧警報」

現在のステータスが表示されます。

現在のタイヤ空気圧

各タイヤについて、現在のタイヤ空気圧が表示されます。

現在のタイヤ空気圧は、走行モードまたは外気温度によって変わることがあります。

現在のタイヤ温度

モデルに応じて、現在のタイヤ温度が表示されます。

現在のタイヤ温度は、走行モードまたは外気温度によって変わることがあります。

タイヤの状態

一般事項

コントロール ディスプレイには、タイヤおよびシステムの状態がホイールの色とテキストによって表示されます。

タイヤ空気圧の修正の際に、表示された規定タイヤ空気圧に達しない場合は、既存のメッセージが削除されないことがあります。

全てのホイールが緑色

・ システムが作動しており、表示された規定タイヤ空気圧に基づいて警告を行います。
・ 特殊用途のタイヤの場合：システムが作動しており、最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧に基づいて警告を行います。

1 個～ 4 個のホイールが黄色

表示されているタイヤがパンクしているか、タイヤ空気圧が大きく低下しています。

ホイールが灰色

タイヤ空気圧の低下を検知できない可能性があります。

考えられる原因：
- 故障
- タイヤ空気圧測定中、タイヤ設定の確定後
- 特殊用途のタイヤの場合：システムのリセットが実施されている

タイヤ空気圧をリセットする

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「タイヤ空気圧警報」
4 「タイヤ設定」
5 タイヤを選択する：
- 「サマータイヤ」
- 「スノータイヤ / オールシーズンタイヤ」

6 「現在のサイズ :」

▶「その他のタイヤ」以外を選択している場合：

7 「車両積載状態」
8 「設定を確定」
9 発進します。

▶「その他のタイヤ」を選択している場合：

7 「タイヤ設定」
8 走行スタンバイをオンにします。ただし発進させないでください。
9 タイヤ空気圧をリセットする：「リセット実行」。
10 発進します。

30km/h 以上での短時間の走行後に、設定したタイヤ空気圧が基準タイヤ空気圧として適用されます。リセットは走行中に自動的に終了します。

リセットが無事に終了すると、コントロール ディスプレイではホイールが緑に表示されます。

走行はいつでも中断することができます。走行を再開すると、リセットが自動的に再開されます。

メッセージ：特殊用途以外のタイヤの場合

一般事項

タイヤ空気圧低下のメッセージが表示された場合、必要に応じてビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール（VSC）がオンになります。

安全に関する注意事項

警告

標準タイヤが損傷してタイヤ空気圧が低くなりすぎたり、空気が抜けてしまうと、ステアリングおよびブレーキ動作などの走行特性が損なわれます。ランフラット タイヤは制限付きで安定性を維持することができます。事故の危険があります。車両に標準タイヤが装備されている場合は、これ以上走行を続けないでください。ランフラット タイヤとランフラット タイヤでの継続走行に関する注意事項を守ってください。

タイヤ空気圧点検が必要な場合

■ 通知

コントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	空気注入が規定に従って行われなかった。例えば充填した空気が不十分な場合や自然にタイヤ空気圧が一定の量が減った場合。

■ 対応

タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します。

タイヤ空気圧が低すぎる場合

■ 通知

コントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	タイヤ空気圧が低下しています。

■ 対応

1 速度を下げます。速度が130km/h を超えないようにしてください。

2 できるだけ早く、ガソリン スタンドなどで 4 本全てのタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整または修理してください。

タイヤ空気圧が大きく低下した場合

■ 通知

メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと該当するタイヤの車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	タイヤがパンクしているか、タイヤ空気圧が大きく低下しています。

■ 対応

1 速度を落として、慎重に停車してください。急なブレーキ操作

やステアリング操作は行わないでください。

2 車両にノーマル タイヤまたはランフラット タイヤのどちらが装備されているか確認します。

ランフラット タイヤ (267 ページ参照) のサイド ウォールには円形シンボルと RSC の文字が付いています。

3 タイヤ パンク時の処置の説明を確認してください。

タイヤ パンク時の処置 (266 ページ参照)

通知：特殊用途のタイヤの場合

一般事項

タイヤ空気圧低下のメッセージが表示された場合、必要に応じてビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール（VSC）がオンになります。

安全に関する注意事項

警告

標準タイヤが損傷してタイヤ空気圧が低くなりすぎたり、空気が抜けてしまうと、ステアリングおよびブレーキ動作などの走行特性が損なわれます。ランフラット タイヤは制限付きで安定性を維持することができます。事故の危険があります。車両に標準タイヤが装備されている場合は、これ以上走行を続けないでください。ランフラット タイヤとランフラット タイヤでの継続走行に関する注意事項を守ってください。

タイヤ空気圧点検が必要な場合

■ 通知

コントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	空気注入が規定に従って行われなかった、例えば充填した空気が不十分な場合。 システムがホイール交換を検知したが、リセットが行われなかった。 タイヤ空気圧が前回のリセット値を下回った。 システムのリセットが実行されなかった。システムは最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧を基準にして警告を出します。

■ 対応

1 タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します。

2 システムのリセットを実施します。

タイヤ空気圧が低すぎる場合

■ 通知

メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	タイヤ空気圧が低下しています。 システムのリセットが実行されませんでした。システムは最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧を基準にして警告を出します。

■ 対応

1 速度を下げます。速度が130km/h を超えないようにしてください。

2 できるだけ早く、ガソリン スタンドなどで 4 本全てのタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて修正してください。

3 システムのリセットを実施します。

タイヤ空気圧が大きく低下した場合

■ 通知

メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと該当するタイヤの車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	タイヤがパンクしているか、タイヤ空気圧が大きく低下しています。 システムのリセットが実行されませんでした。システムは最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧を基準にして警告を出します。

■ 対応

1 速度を落として、慎重に停車してください。急なブレーキ操作やステアリング操作は行わないでください。

2 車両にノーマル タイヤまたはランフラット タイヤのどちらが装備されているか確認します。

ランフラット タイヤ (267 ページ参照) のサイド ウォールには円形シンボルと RSC の文字が付いています。

3 タイヤ パンク時の処置の説明を確認してください。

タイヤ パンク時の処置 (266 ページ参照)

タイヤ パンク時の処置

ノーマル タイヤ

1 損傷したタイヤを特定します。

タイヤ リペア セットのタイヤ空気圧インジケーターなどを使用して、4 つ全てのタイヤの空気圧を点検します。

特殊用途のタイヤの場合：4 つ全てのタイヤの空気圧が正常な場合は、TPM がリセットされなかった可能性が考えられます。その場合はリセットを実行してください。

タイヤ損傷を特定できない場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

2 タイヤ リペア セットを使用するか、ホイールを交換してタイヤ パンクを修理します。

タイヤ リペア セットなどのシール剤を使用すると、TPM ホイール エレクトロニクスが損傷することがあります。その場合はエレクトロニクスをできるだけ早く交換し

てください。

ランフラット タイヤについて

■ 安全に関する注意事項

⚠ 警告

ランフラット タイヤで空気が抜けている場合またはタイヤ空気圧が非常に低い場合は走行特性が変化し、例えばブレーキ時の方向安定性が低下したり、制動距離が長くなったり、セルフステア特性が変化したりします。事故の危険があります。慎重に走行し、速度が80km/h を超えないようにしてください。

■ 最高速度

損傷したタイヤでは、最高速度80km/h 以下で走行することができます。

■ タイヤ パンク時の走行について

損傷したタイヤでの走行時は、以下の点に注意してください：

1. 急なブレーキ操作やステアリング操作は行わないでください。
2. 速度が 80km/h を超えないようにしてください。
3. 次の機会に 4 本全てのタイヤ空気圧を点検してください。

特殊用途のタイヤの場合：4 つ全てのタイヤの空気圧が正常な場合は、タイヤ空気圧警報がリセットされなかった可能性が考えられます。その場合はリセットを実行してください。

■ 空気の抜けたタイヤで可能な走行距離

積載重量および速度、路面の舗装状態、外気温度などの車両の負荷に応じて、総航続可能距離が変化します。可能な走行距離はより短くなったり、控え目に運転することで、さらに長くなったりすることがあります。

中程度の積載状態で負荷が小さい場合の可能な走行距離は 80km 以下です。

■ 損傷したタイヤでの走行特性

傷したタイヤで走行すると、走行特性が変化し、例えば以下のような状況を招くおそれがあります：

- 車両が急に振られる
- 制動距離が長くなる
- セルフ ステア特性が変化する

運転の仕方を状況に合わせてください。急ハンドル、縁石や路面の穴などを踏み越えるような走行は避けてください。

■ 空気の抜けたタイヤで可能な走行距離

走行中に振動や異音が発生する場合、タイヤが今後完全に使用できなくなるおそれがあります。

速度を落として停車してください。タイヤ部品が外れて事故が起こるおそれがあります。

これ以上走行を続けるのを止め、トヨタ販売店に連絡してください。

システムの限界

温度

タイヤ空気圧は、タイヤの温度に左右されます。

例えば走行中に、または直射日光によってタイヤの温度が上昇することによりタイヤ空気圧は上昇し

ます。

タイヤ空気圧は、タイヤ温度が低下すると減少します。

この特性によって、急激な温度低下の場合は、警告限界があるために警告が発せられることがあります。

温度条件による警告の後は、短時間の走行後に規定タイヤ空気圧がコントロール ディスプレイに再び表示されます。

突然のタイヤ空気圧の低下

外的な要因により突然タイヤが深刻な損傷を受けた場合、システムは警告を発することができません。

リセットが実施されなかった

特殊用途のタイヤ：リセットが実施されないと、システムは正しく機能しません。例えば、タイヤ空気圧は正常であるにもかかわらず、タイヤのパンクが通知されます。

故障

通知

黄色の警告灯が点滅し、その後点灯し続けます。車両メッセージが表示されます。タイヤ空気圧の低下を検知できない可能性があります。

対応

- エマージェンシー ホイールなどの TPM ホイール エレクトロニクスなしのホイールが取り付けられている：必要に応じてホイールの点検を依頼してください。
- 機能障害：システムの点検を依頼してください。
- 同じ無線周波数を持つシステムや機器による障害：障害エリアから離れると、システムは自動的に再び作動します。
- 特殊用途のタイヤの場合：システムがリセットを終了できませんでした。システムのリセットを再度実施します。
- タイヤ空気圧警報が機能停止している：システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

ホイールの交換

一般事項

ランフラット タイヤまたはタイヤ リペア セットを使用する場合、故障時のタイヤ空気圧低下時に必ずしも直ちにホイールの交換を行う必要はありません。

必要な場合、タイヤ交換用の適切な工具はアクセサリーとして、トヨタ販売店でお求めいただけます。

盗難防止用ホイール ボルト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原理

ホイール固定ボルトは特殊コー

ディングされています。ボルトは、コーディングに適したアダプターでのみ開くことができます。

概要

盗難防止用ホイール ボルトのアダプターはツール キットの中またはツール キット付近の小物入れの中にあります。

・ ホイール ボルト（矢印 **1**）
・ アダプター（矢印 **2**）

ボルトを外す

1 アダプターをホイール ボルトに差し込んでください。

2 ホイール ボルトを取り外してください。

3 ボルトを外した後はアダプターを取り外してください。

ボルトを締め付ける

1 アダプターをホイール ボルトに差し込んでください。必要に応じて、アダプターがホイールボルトに合うまでアダプターを回してください。

2 ホイール ボルトを締め付けます。締付けトルクは 140Nm です。

3 ボルトを締め付けた後はアダプターを取り外し、収納してください。

エンジンルーム

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

概要

1 ウォッシャー液のフィラーキャップ
2 ジャンプスタート、バッテリーマイナス端子
3 ジャンプスタート、バッテリープラス端子
4 エンジンオイルフィラーキャップ
5 補助冷却用冷却水タンク
6 エンジン冷却水タンク
7 車台番号

ボンネット

安全に関する注意事項

警告

エンジンルーム内で不適切な作業を行うと、構成部品が損傷し、安全性に問題が生じるおそれや、事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。エンジンルーム内の作業はトヨタ販売店に依頼してください。

警告

エンジンルーム内には可動構成部品があります。ラジエターファンなど、エンジンルーム内の特定の構成部品は、車両停止時にも動くことがあります。けがをする危険があります。可動部品の領域に手を差し入れないでください。衣服や髪の毛を可動部品に近づけないでください。

警告

ボンネットには、ロックフックなど、内側に突き出している部品があります。けがをする危険があります。ボンネットが開いている場合、突き出している部品に注意し、この部分を空けておいてください。

警告

ボンネットが正しくロックされていないと、走行中に開いて、視界を遮るおそれがあり、事故の危険があります。ただちに停車して、ボンネットを正しくロックしてください。

警告

ボンネットを開閉する場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。開閉時には、ボンネットが動く範囲に身体の一部がないことを確認してください。

注意

ボンネットを開く場合、起こされているワイパーが挟まれるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ボンネットを開ける前に、ワイパーブレードが取り付けられた状態でワイパーがフロントウィンドウガラス上に載っていることを確認してください。

注意

ボンネットを閉めるときには、両側でかみ合わなければなりません。強く押さえつけると、ボンネットが損傷するおそれがあります。ボンネットを再び開けて、一気に閉めてください。強く押さえつけないでください。

開ける

1 レバーを引きます（矢印 1）。

ボンネットがロック解除されます。

2 レバーを一旦戻し、レバーをもう 1 度引きます (矢印 2)。

ボンネットが開きます。

3 ボンネットの突き出している部品に注意してください。

閉める

ボンネットは、約 50cm の高さから一気に閉めます。

ボンネットは、両側を確実にロックする必要があります。

燃料・油脂類

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

燃料の種類

一般事項

地域によりますが、多くの給油所では冬期または夏期の条件に適合した燃料が販売されています。冬期に提供される燃料はコールド スタートなどの負担を軽減します。

ガソリン

一般事項

最適な燃料消費量を得るために、ガソリンは無硫黄または硫黄分の少ないものを使用してください。

給油機に金属添加物の表示のある燃料を使用しないでください。

エタノール濃度が 25% 以下の燃料（E10 または E25 など）を給油することができます。

エンジンは、ノッキング制御を装備しています。そのため、さまざまな品質のガソリンを給油することができます。

最低品質の燃料を使用しても、エンジンの耐用年数は変わりません。

安全に関する注意事項

注意

少量でも不適切な燃料や不適切な燃料添加剤を使用すると、フューエル システムおよびエンジンが損傷するおそれがあります。さらにキャタライザーに継続的な損傷が生じます。損傷が発生するおそれがあります。ガソリン エンジンの場合、以下を給油または混合しないでください：

・有鉛ガソリン

・マンガンや鉄などの金属添加物

不適切な燃料を給油した後は、スタート / ストップボタンを押さないでください。トヨタ販売店に連絡します。

注意

不適切な燃料を給油すると、フューエル システムおよびエンジンに損傷が発生するおそれがあります。推奨値より高いエタノール成分を含む燃料を給油しないでください。M5 ～ M100 などのメタノールを含んだ燃料を給油しないでください。

注意

以下の最低品質に満たない燃料はエンジン機能を低下させたり、エンジン損傷を引き起こすおそれがあります。以下の最低品質に満たないガソリンを給油しないでください。

ガソリンの種類

▶ SZ および SZ-R

95 オクタン（リサーチ法）以上の無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。

走行能力と燃費の定格値を達成するために、このガソリンを給油してください。

▶ RZ

98 オクタン（リサーチ法）以上の無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。

走行能力と燃費の定格値を達成するために、このガソリンを給油してください。

最低品質

無鉛レギュラー ガソリン (RON 91)

エンジンオイル

一般事項

エンジンオイル消費量は運転スタイルと使用条件により異なります。

そのため定期的に、給油のたびに詳細計測によりエンジンオイル レベルを点検してください。

エンジンオイルの消費量は以下の状況で増えることがあります：
- スポーティな運転の仕方の場合
- エンジンの慣らし運転の場合
- エンジンのアイドリングの場合
- 不適切なクラス・等級のエンジンオイルを使用した場合

エンジンオイル レベルに応じて、コントロールディスプレイに異なる車両メッセージが表示されます。

安全に関する注意事項

⚠ 注意

エンジンオイル量が不足するとエンジン損傷を引き起こします。損傷が発生するおそれがあります。直ちにエンジンオイルを補給してください。

⚠ 注意

エンジンオイルを入れすぎると、エンジンまたはキャタライザーに悪影響を及ぼし、損傷が発生するおそれがあります。過剰な量のエンジンオイルを充填しないでください。エンジンオイル量が多すぎる場合は、エンジンオイルレベルの修正をトヨタ販売店に依頼してください。

電子的なオイル計測

一般事項

電子機器によるオイル計測は 2 つの計測原理を用いています：
- モニター
- 詳細計測

頻繁に短距離走行を行う場合やすばやいコーナリング走行などのスポーティなドライビング スタイルの場合は、定期的に詳細計測を行ってください。

モニター

■ 原理

走行中は " エンジンオイル " レベルを電子モニターで監視し、コントロール ディスプレイに表示することができます。

エンジンオイル レベルが許容作動範囲以下になると、車両メッセージが表示されます。

■ 機能の前提条件

最新の計測値は、約 30 分の通常走行後に提供されます。

■ エンジンオイル レベルの表示

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両ステータス」

3 「エンジンオイルレベル」

エンジンオイル レベルが表示されます。

■ システムの限界

頻繁な短距離走行またはスポーティなドライビング スタイルの場合は、計測値が算出されないこと

があります。この場合は、最後に十分な時間を走行したときの計測値が表示されます。

詳細計測

■ **原理**

エンジンオイル レベルは停止時に点検され、目盛りで表示されます。

エンジンオイル レベルが許容作動範囲以下になると、車両メッセージが表示されます。

■ **一般事項**

計測中はアイドリング回転数が若干上昇します。

■ **機能の前提条件**

- 車両が平らな面に止まっていること
- セレクター レバーを N または P に入れ、アクセルペダルから足を離している
- スタート / ストップ ボタンを押し、走行スタンバイがオンになっている。
- エンジンが作動し、暖機状態であること

■ **詳細計測を実行する**

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」
2 「車両ステータス」
3 「エンジンオイルレベル」
4 「オイルレベル測定」
5 「測定開始」

エンジンオイル レベルを点検し、目盛りで表示します。

エンジンオイルの補給

一般事項

エンジンオイルは、メーター パネルにメッセージが表示されてから補給してください。補充量はコントロール ディスプレイにメッセージで示されています。

必ず補給に適したエンジンオイルの種類 (276 ページ参照) を使用してください。

エンジンオイルを補給する前に、車両を確実に停止し、走行スタンバイをオフにします。

過剰な量のエンジンオイルを充填しないように注意します。

安全に関する注意事項

警告

オイル、グリース、クーラント、燃料などの燃料・油脂類は健康に有害な成分を含んでいる場合があります。けがをする危険または生命の危険があります。容器に記載された注意事項を遵守してください。衣服、皮膚、目が燃料・油脂類に触れないように注意してください。燃料・油脂類を別の容器に入れ替えないでください。燃料・油脂類は子供の手が届かない場所に保管してください。

注意

エンジンオイル量が不足するとエンジン損傷を引き起こします。損傷が発生するおそれがあります。直ちにエンジンオイルを補給してください。

⚠注意

エンジンオイルを入れすぎると、エンジンまたはキャタライザーに悪影響を及ぼし、損傷が発生するおそれがあります。過剰な量のエンジンオイルを充填しないでください。エンジンオイル量が多すぎる場合は、エンジンオイルレベルの修正をトヨタ販売店に依頼してください。

概要

エンジンオイル フィラー キャップはエンジンルーム (270 ページ参照) 内にあります。

エンジンオイルの補給

1 ボンネットを開けます (271 ページ参照) 。
2 キャップを反時計回りに回してゆるめます。

3 エンジンオイルを補給します。
4 キャップを閉めます。

補給するエンジンオイルの種類

一般事項

エンジンオイルの品質は、エンジンの耐用年数に大きく影響します。

記載された種類のエンジンオイルは、補給専用に使用してください。

国によっては、入手できないエンジンオイルがあります。

安全に関する注意事項

⚠注意

オイル添加剤はエンジンを損傷するおそれがあります。オイル添加剤を使用しないでください。

⚠注意

不適切なエンジンオイルはエンジンの機能障害を招いたり、エンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルを選択する際には、エンジンオイルのオイル仕様が適切であることを確認してください。

適切なエンジンオイル種類

1 リットル未満であれば、次の仕様のエンジンオイルを補給できます：

ガソリン エンジン
Toyota Genuine Motor Oil SN 0W-20 C5 for GR Toyota Supra
BMW Longlife-17 FE+ 規格適合品

代替エンジンオイル

適切なエンジンオイルが入手できない場合は、1 リットル以内であれば、次の仕様のエンジンオイルを補給できます：

■ ACEA 規格

ACEA A3/B4
ACEA C2
ACEA C3

■ 粘度規格 (SAE)

SAE 0W-20
SAE 5W-20
SAE 0W-30
SAE 5W-30
SAE 0W-40
SAE 5W-40

粘度が高い粘度クラスの場合、燃費が増えることがあります。

エンジンオイルの適切なオイル仕様および粘度クラスに関する詳細は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

オイル交換

注意

適切な時期に交換されなかったエンジンオイルは、激しいエンジン摩耗、さらにはその結果としてエンジン損傷を招くおそれがあります。車両で表示されるサービス時期までに交換してください。

車両メーカーは、エンジンオイルの交換をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

冷却水

一般事項

冷却水は、水と添加剤から構成されています。

市販されている全ての添加剤がお客様の車両に適しているとは限りません。車両メーカーは、仕様 BMW LC-18 のクーラントを使用することを推奨しています。異なるカラーの添加剤を混ぜないでください。水と添加剤の混合比が 50:50 であることに注意します。適切な添加剤についての情報は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

安全に関する注意事項

警告

エンジンが熱い状態で冷却システムを開くと、クーラントが漏れ出て、火傷の原因となるおそれがあり、けがをする危険があります。冷却システムは、必ずエンジンが冷えた状態で開いてください。

警告

添加剤は健康に有害で、不適切な添加剤はエンジンを損傷するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。衣服、皮膚、目が添加剤に触れないよう、また添加剤を誤飲しないように注意してください。適切な添加剤のみを使用してください。

冷却水量の確認

一般事項

エンジン仕様に応じて、エンジンルーム内には最大 2 つの冷却水タンクがあります。冷却水レベルを定期的に点検し、補給します。

車両が工場から直接納車された場合、クーラントがクーラント エクスパンション タンクに過剰充填されている可能性があります。長期間走行すると、クーラント量は通常のレベルになります。

クーラント レベルはクーラント タンクのフィラーネックに MAX マークで示されます。

詳しい情報：

概要 (270 ページ参照)

冷却水量の点検

1 エンジンを冷ましてください。
2 ボンネットを開けます (271 ページ参照) 。
3 冷却水タンクのキャップをわずかに反時計回りに回して、余分な圧力を抜いてください。
4 冷却水タンクのキャップを開けます。
5 冷却水レベルは、フィラー ネックの中の Max マークのすぐ下にある場合、正常です。

6 キャップを閉めます。

補給

1 エンジンを冷ましてください。
2 ボンネットを開けます (271 ページ参照) 。
3 冷却水タンクのキャップをわずかに反時計回りに回して、余分な圧力を抜いてください。
4 冷却水タンクのキャップを開けます。
5 冷却水を補給する場合には、適正レベルまでゆっくりと注入します。入れすぎないように注意してください。
6 キャップを閉めます。
7 冷却水不足の原因を、できるだけ早く解決してください。

ウォッシャー液

一般事項

このウォッシャー タンクから、全てのウォッシャー ノズルにウォッシャー液を供給します。

水道水とウィンドウ クリーナー濃縮液の混合液を使用し、また、必要に応じてウィンドウウォッシャー用の凍結防止剤を添加して使用します。

推奨する最小充填量：1 リットル

安全に関する注意事項

警告

いくつかの凍結防止剤は健康に有害な成分を含んでいることがあり、引火性です。火災の危険およびけがをする危険があります。容器に記載された注意事項を遵守してください。凍結防止剤は火元から離してください。燃料・油脂類を別の容器に入れ替えないでください。燃料・油脂類は子供の手が届かない場所に保管してください。

警告

ウォッシャー液が熱くなったエンジン部品に触れた場合、発火して火災が発生するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。
ウォッシャー液は必ずエンジンが冷えた状態で充填してください。充填後はウォッシャー タンクのふたを完全に閉めてください。

注意

ウィンドウ上での撥水効果を得るためにシリコンを含んだ添加剤を使用すると、ウィンドウウォッシャーが損傷するおそれがあります。シリコンを含んだ添加剤をウォッシャー液に混ぜないでください。

注意

異なる種類のウィンドウ クリーナー濃縮液または凍結防止剤を混合すると、ウィンドウ ウォッシャーが損傷するおそれがあります。異なる種類のウィンドウ クリーナー濃縮液または凍結防止剤は混合しないでください。容器に記載された注意事項と混合比を遵守してください。

概要

ウォッシャー液タンクはエンジンルーム内にあります。

故障

アルコール系のウィンドウ クリーナー濃縮液または凍結防止剤を薄めずに使用した場合、温度が -15 ℃以下になると誤った警告が表示されるおそれがあります。

メンテナンス

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

点検整備システム

点検整備システムは、お客様に必要な点検整備についてお知らせし、車両の走行安全性および作動安全性を適切に維持できるようにサポートします。

仕様に応じて、点検整備システムの項目および間隔が異なる場合があります。交換作業、交換部品、燃料油脂、摩耗素材は別料金となります。詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

コンディション ベースド サービス（CBS）

原理

コンディション ベースド サービス CBS は、センサーと特殊なアルゴリズムにより車両の使用条件を考慮し、メンテナンスの必要性を算出します。

これにより、システムは、点検整備の内容をお客様の車両使用状況にあわせることができます。

一般事項

サービス時期 (138 ページ参照) についての情報をコントロール ディスプレイに表示できます。

サービス インターバル

車両バッテリーを取り外している間は、サービスインターバルの演算は行われません。

ブレーキ液や、必要に応じてエンジンオイルとマイクロ フィルター / チャコール フィルターなどの時間に基づくサービス範囲の更新は、トヨタ販売店に依頼してください。

サービス履歴

点検整備および修理

点検整備と修理はトヨタ販売店に依頼してください。

登録

実施された点検整備は、点検整備証明書と車両データに記録されます。この登録内容は、メンテナンスノートと同様に、定期点検整備の証明になります。

表示

登録された点検整備内容をコント

ロール ディスプレイに表示します(138 ページ参照) 。

法定点検整備

日本では道路運送車両法に基づき、1 年毎に行う定期点検が義務づけられています。

トヨタ販売店では、お客様の車両の状態に合わせた法定定期点検整備を実施しています。是非、トヨタ販売店に作業をご依頼ください。

法定定期点検と車両点検整備システムの実施に関する詳細については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

エンジン警告灯

・ 警告灯が点滅した場合：

エンジンが故障している可能性があり、触媒装置の損傷を引き起こすことがあります。緩やかに走行を続けることが出来ます。直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ 警告灯が点灯した場合：

排気ガスの値が高くなっています。走行を続けることができます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

Recycling

お客様の車両は、その生産方法から使用する原材料の選択にいたるまで、将来のリサイクル性を考慮して開発されています。

使用済自動車のリサイクルは、日本国内の法律により定められています。法に定められた適正なリサイクル処理を行うため、お乗りになられた車両を廃棄される場合には、各自治体に登録されている引取業者へご連絡ください。

部品の交換

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

ツール キット

ツール キットはラゲッジルーム内の右カバーの下にあります。

右サイド トリム パネルのカバーをロック解除し（矢印 **1**）、開けます（矢印 **2**）。

ワイパー ブレード

安全に関する注意事項

⚠ 注意

ワイパー ブレードが付いていないワイパーアームがフロント ウィンドウに倒れると、ウィンドウが損傷する可能性があります。車両が損傷するおそれがあります。ワイパー ブレードの交換時は、ワイパー アームを固定して、ワイパー ブレードが付いていない状態でワイパーを倒さないようにしてください。

⚠ 注意

ボンネットを開く場合、起こされているワイパーが挟まれるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ボンネットを開ける前に、ワイパー ブレードが取り付けられた状態でワイパーがフロント ウィンドウ ガラス上に載っていることを確認してください。

⚠ 注意

ワイパー ブレードを交換するときは、速やかに作業を行ってください。

フロント ワイパー ブレードの交換

1 交換を行うためにワイパーを起こした状態 (123 ページ参照) にします。

2 車両を停止状態にします。

3 ワイパーを持ち上げて、フロント ウィンドウから完全に離します。

4 ボタンを押し（矢印 1）、ワイパー ブレードを引き抜きます（矢印 2）。

5 新しいワイパー ブレードをはめ込み、かみ合う音がするまでホルダーに押し付けます。

6 ワイパーを倒します。

ランプとライト

一般事項

ライト類は、自動車の保安部品の一部です。

全てのヘッドライトとライト類には、LED 技術が採用されています。

いくつかの装備品のカバー内には、光源として発光ダイオードを使用しています。これらの LED は「クラス 1 発光ダイオード」の規格に分類されていて、一般的なレーザー光に似た性質を持っています。

そのため車両メーカーは、故障の場合は該当する作業をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

安全に関する注意事項

警告

レーザー ビーム光は目の網膜を刺激したり、連続的に傷つけるおそれがあります。けがをする危険があります。車両メーカーは、ランプの交換を含む照明装置の作業をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

警告

明るすぎると、目の網膜が刺激されたり、傷つくおそれや、けがをする危険があります。ヘッドライトやその他の光源を直接見ないでください。LED のカバーを外さないでください。

ヘッドライト ガラス

気温が低い場合や湿気がある場合は、ヘッドライト ガラスの内側がくもることがあります。ライトをオンにして走行すると、曇りは短時間で消えます。ヘッドライト ガラスを交換する必要はありません。

ヘッドライトをオンにしていても湿気が増す場合は（ライト内部の水滴など）、ヘッドライトの点検を依頼してください。

車両バッテリー

一般事項

ラゲッジ ルームに搭載されているバッテリーは、メンテナンスが不要です。

バッテリーに関する詳細はトヨタ販売店にお問い合わせください。

バッテリーの点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」もご覧ください。

バッテリーの耐用年数は、十分に充電されている場合に限り保証されます。短い距離を走行することが多い場合には、充電状態を頻繁に点検してください。

お客様の車両のメーカーは、トヨタ販売店に、交換後の車両バッテリーの登録を依頼することをお勧めしています。新たに登録することにより、全てのコンフォート機能を制限なしで使用できるようになり、コンフォート機能の車両メッセージが表示されている場合はそれが解除されます。

バッテリーを交換するときは

装着されているバッテリーは、本車両の専用品です。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のためにアイドリングストップの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

安全に関する注意事項

警告

適切であることが確認されていない車両バッテリーを使用すると、システムが損傷したり、機能が実行されなくなるおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。車両メーカーによって適切であることが確認されている車両バッテリーのみを使用してください。

バッテリーを充電する

一般事項

バッテリーの寿命をできるだけ延ばすためには、バッテリーを常に十分な充電状態に保つように注意してください。

バッテリーが消耗している場合は、表示灯が赤色に点灯します。

スタート出力が不十分な場合は、バッテリーを充電します。

以下の状況では、バッテリーの出力に悪影響を与える可能性があります：

- 頻繁な短距離走行
- 1 ヶ月以上の駐車

安全に関する注意事項

警告

バッテリー上面の点検窓の色が黄色のときに充電すると、バッテリーが破裂（爆発）するおそれや、けがをしたり、車両が損傷するおそれがあります。点検窓付きのバッテリー搭載車の場合、充電する前に必ずバッテリー上面の点検窓の色を確認してください。点検窓の色が黄色の場合は、バッテリーの交換が必要です。

点検窓がないシールド タイプ（密閉型）バッテリー搭載車の場合、充電する際に 14.8 ボルト（V）以上の電圧がかからないようにしてください。

警告

電気系統の作業を行う際に、電圧が印加されていると、ショートが発生したり、火災につながるおそれやけがをするおそれがあります。電気系統の作業を行う場合は、バッテリーのマイナス側の配線を外してから行ってください。

注意

エンジン回転中にバッテリー配線を外すと、過電圧が発生するおそれや、車両損傷の危険があります。エンジン回転中はバッテリー配線を外さないでください。

注意

車両バッテリー用のバッテリー充電装置は高い電圧と大きな電流で作動することができるので、12V バッテリー回路が過負荷になったり、損傷するおそれがあります。車両バッテリー用のバッテリー充電装置は、必ずエンジンルーム内のジャンプ スタート ケーブル接続部に接続してください。

ジャンプ スタート ケーブル接続部

必ずエンジンを止めて、エンジンルームのジャンプ スタート ケーブル接続部 (296 ページ参照) から充電してください。

電源の遮断

電源の遮断が回復した後、一部の装備は新しく初期化または個別設定を更新する必要があります、例えば：

- メモリー機能：位置を新たにメモリーします。
- 時刻：更新します。
- 日付：更新します。

バッテリーの廃棄

交換後の古いバッテリーの処理方法については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

内部はバッテリー液で満たされているため、バッテリーを運搬、保管する際には、必ず端子面を上にして直立させておいてください。運搬時にバッテリーが倒れないよ

うに注意してください。

フューズ

一般事項

フューズは車内の異なる箇所にあります。

安全に関する注意事項

警告

不適切なフューズや修理されたフューズを使用すると、電気ケーブルと構成部品に過大な負荷がかかるおそれあり、火災の危険があります。切れたフューズは絶対に修理しないでください。また、色や容量（アンペア）が異なるフューズで代用しないでください。

車内

車内では、フューズが運転席足元スペース内のカバーの裏にあります。

固定具を外し（矢印）、カバーを開けます。

フューズ ボックスは右前にあります。

ラゲッジ ルーム内

ラゲッジ ルーム内の右側カバーを外すと、フューズがあります。

右サイド トリム パネルのカバーをロック解除し（矢印 **1**）、開けます（矢印 **2**）。

フューズの交換

車両メーカーは、フューズの交換をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

フューズの配置

● BDC

● フロント

● リヤ

● ヒューズの値

BDC ➔						
F:	1	2	3	4	5	6
[A]	5	7.5	7.5	5	20	20

SV vorne rechts / FB front right ➔		
F:	20	21
[A]	30	30

F:	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
[A]	30	30	30	20	40	-	40	20	5	15	5	5	5	5	5	5	5	60	40	50	20	-	20	10	30	30	20	30	20	30

F:	56	57	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76
[A]	30	10	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	7.5	5	10	10	5

SV vorne links / FB front left ➔		
F:	101	102
[A]	-	7.5

F:	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131
[A]	-	-	-	-	10	15	-	-	-	-	5	-	-	-	30	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

SV hinten / FB rear ➔																													
F:	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223
[A]	-	-	-	7.5	5	-	5	*	5	5	5	-	15	-	5	5	5	40	20	-	30	-	-	-

F:	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254
[A]	-	30	40	30	-	*	30	30	40	-	-	-	-	-	*	-	20	-	-	5	-	-	10	-	-	5	-	5	-	5

F:	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285
[A]	5	7.5	5	5	15	5	-	5	-	10	30	40	*	40	30	-	30	-	20	-	-	-	5	*	*	20	-	-	20	-

F:	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296
[A]	-	-	-	20	-	30	-	-	-	-	20

F: ヒューズ

[A]: アンペア数（ヒューズに対する値）

*: スペアスロット

ABS	F28
P	F28, F32
A/C	F3, F40, F204
	F40
	F231
	F48, F50, F52, F265, F269
	F55, F56, F64, F65, F67, F68
	F75
	F1, F57, F210
	F215, F217
	F59
	F36, F244
	F34, F73
	F36, F63
	F206, F244, F271
	F20, F21

	F3
OBD	F2
	F254
	F2
	F2, F29
	F2
DRIVING ASSISTANCE	F1, F59, F60, F76, F204, F208, F209, F255
	F212
MEDIA	F1, F32, F59, F212, F214, F215, F216, F217, F218, F220
	F214
BDC	F39
	F252
	F32, F70, F209
	F46, F273
	F3, F254

	F4, F5, F6, F244
4x4	F51
	F4
	F69, F70
	F203, F206, F209, F271
	F1, F3, F39
	F36, F61, F62, F67, F68, F71
	F4
	F67, F68

シンボル	意味
ABS	ビークルスタビリティコントロール（VSC）
P	パーキングブレーキ
A/C	オートエアコン
	Blower motor, Interior ventilation
	リアデフォッガー
	シートヒーター

シンボル	意味
	Seat setting
	Crash-security module
	Switching center column, Light switch element, steering Operating panel Audio
	HiFi amplifier, Video module TV
	ルームミラー
	Overhead function center, Exterior door handle electronics
	メーターパネル
	Additional battery: Dual Accumulator System (DSS)
	Fuel pump control electronics, Natural Vacuum Leak Detection, Gas generator for battery safety terminal, Remote control receiver
	パワーウインドウ
	Heating and air-conditioning system
OBD	Vehicle's diagnostic port (interface)
	トランク内ライト

シンボル	意味
	Vertical Dynamic platform
	Vertical Dynamic platform
	Vertical Dynamic platform
DRIVING ASSISTANCE	Mono Camera (Kafas)
	Head Unit
MEDIA	Active Sound Design
	USB Hub
BDC	Body Domain Controller
	Controller (Toyota Supra Command)
	Electric fan (air cooler), Controlled differential lock
	12 V socket, Cigarette lighter
	トランク内ライト
	Door lock, Exterior door handle electronics, Telematic Communication Box
4x4	Electronic gear box control

シンボル	意味
	Telematic Communication Box, Exterior door handle electronics
	Electric fan, Rear Power distributor
	Engine control
	Switching center column, Light switch element, Body Domain Controller
	Control panels centre console, Interior light in the glove box, Interior light, Interior light in the sunvisor, Exterior mirror, Selector lever
	Telematic Communication Box, Exterior door handle electronics passenger side
	Switcher block driver's door, Exterior mirror

いざというときに

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

走行中に異常を感じたとき

警告

走行中に異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車してください。

表示灯や警告灯が点灯や点滅したり、ディスプレイにメッセージが表示される場合等は、ただちに安全な場所に停車してください。蒸気でやけどを負うなど、思わぬ事故に繋がるおそれがありますので、ボンネットを開け点検することは避けてください。ディスプレイに表示されているメッセージを読む、または、取扱説明書の該当する説明をお読みになり、適切に対処してください。

これらの表示は、車の機能やシステムに異常が発生したことを警告しています。そのまま走行を続けると、突然エンジンが止まったり、思わぬ故障や事故の原因になるおそれがあります。また、警告灯などが点灯しなくても、いつもと異なる音やにおい、振動などを感じ緊急停車したときも同様に、ボンネットを開け点検することは避け、トヨタ販売店へご相談ください。

警告

走行中に床下で大きな音や衝撃を感じたときは、ただちに安全な場所に停車してください。

安全な場所に停車後、車の下側をのぞき込み、ブレーキ液等の油脂類や燃料が漏れていないか点検してください。液体が漏れているときは、運転を中止して最寄りのトヨタ販売店へご相談ください。

床下にはブレーキ液や燃料などの配管があります。これらを損傷するとブレーキが効かなくなったり、燃料が漏れて火災が起きるおそれがあります。

警告

走行中にエンストすると、複数の警告灯が同時に点灯します。一部の車種を除き、ブレーキの倍力装置やパワー ステアリングのアシストが作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ステアリング操作が重くなったりします。ブレーキが効かなくなったり、ステアリング操作ができなくなったわけではありませんので、あわてずに通常より強い力で確実に操作して、安全な場所に駐車してください。

警告

走行中にタイヤがパンクしたり破裂したときは、あわてずにステアリング ホイールをしっかり支え、ゆっくり減速して安全な場所に停車してください。急なステアリング操作や急ブレーキ操作は、車のコントロールを失うおそれがあり、危険です。ゆっくり減速すれば、安全に停車できます。

ランフラット タイヤ装備車の場合：

ランフラット タイヤは、タイヤの側面が補強されているため、タイヤ空気圧が急激に減少したり、タイヤがパンクしても、体感しにくい場合があります。また、目視しても異常がわかりにくいことがあります。

タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、急なステアリング操作や急ブレーキを避け、80km/h 以下で安全な場所まで慎重に走行してください。安全な場所に停車してから、各タイヤの状態をできるだけ速やかにチェックしてください。詳細については、248 ページをご覧ください。タイヤが損傷している場合は、最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

また、タイヤがバーストするなど、急激に空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警告灯が点灯しません。

事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてずに以下の処置に従ってください。

1 ただちに乗員を安全な場所へ避難させて二次災害を防ぎ、エンジンを止めて車両火災を予防します。エアバッグが作動したときは、エアバッグ関連部品が熱くなっていますので、手など身体を触れないようにしてください。

2 けが人がいるときは、救急車を要請すると共に、けが人を救護してください。ただし、外傷がなくても頭部にけがを負っていると思われるときは、安易にけが人を動かさずに気道を確保してください。二次災害のおそれがある状況では、けが人を水平に保ちながら安全な場所へ避難させます。

3 警察に連絡します。事故の発生場所や事故状況、けが人の有無やけがの程度などをできるだけ詳しく伝えてください。

4 事故の相手があるときは、相手の氏名や住所、電話番号、加入保険会社などを互いに確かめます。

5 お買い求めになられた販売店と加入保険会社に、事故の状況を連絡します。

路上で故障したとき

1 安全な場所へ車を移動し、ハザード フラッシャー（非常点滅灯）を点滅させてください。

2 高速道路や自動車専用道路では、非常停車時には後続車によくわかるように停止表示板を車の後方に置くことが義務づけられています。また、後続車に追突されるおそれがありますので、車内の乗員を安全な場所に避難させてください。

踏切内で動けなくなったとき

同乗者や付近の人に応援を求めて安全な場所まで車を押してもらいます。車を移動できないときは、ただちに乗員を安全な場所へ避難させます。踏切警報機に設置してある非常ボタンを押すか、発炎筒を点火して、近づいてくる列車に踏切内で車が止まっていることを知らせます。発炎筒を使用するときは、製品に記載されている取扱方法に従い、点火した発炎筒を高く持ちながら、踏切から列車が来る方向に数百メートル移動して列車に知らせてください。

車両が水没したとき

川や海に転落したり、洪水などで車両が水没しても、窓が完全に閉まっている場合は、しばらくは完

全に水没しません。落ち着いてシートベルトを外し、上着や靴を脱いで身軽になります。水没すると、水圧によりドアが開かなくなります。パワー ウィンドウが作動している間は、窓を開けて車内に水を侵入させると、水圧が均等になり、ドアを開けやすくなります。

パワー ウィンドウが作動しない場合は、ドアウィンドウを割って水を侵入させます。ドアウィンドウは、脱出用の特殊ハンマーを使うと簡単に割れます。

ハザード フラッシャー

ボタンはセンター コンソールにあります。

ハザード フラッシャーがオンになっている場合、ボタンの赤色のライトが点滅します。

非常停止表示板★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 カバーのロックを解除し（矢印 1）、開けます（矢印 2）。

2 非常停止表示板を取り出します。

非常信号灯

助手席側ダッシュボード下に収納されています。取扱いについては、本体に記載されている説明を参照

してください。

ロードサイドアシスト

原理

車両トラブルが発生した時に、レッカー車などの救援車両を手配するサービスです。

※ 上記サービス利用にかかる 料金はお客様のご負担となります。

詳細はナビゲーションシステム取扱書を参照。

ジャンプ スタート

一般事項

バッテリーがあがった場合は、他の車両のバッテリーに 2 本のジャンプ スタート ケーブルを接続して、エンジンをスタートさせることができます。必ず完全に絶縁されたクリップ付きのジャンプ スタート ケーブルを使用してください。

安全に関する注意事項

警告

電圧のかかっている構成部品に触れると、感電のおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。電圧のかかる可能性のある構成部品には触れないでください。

警告

ジャンプ スタート ケーブルを端子に接続する場合、手順を間違うとスパークが発生するおそれや、けがをする危険があります。端子に接続する際には正しい手順を守ってください。

注意

ジャンプ スタートを行っている最中に両方の車両の車体が触れると、ショートが発生するおそれや、損傷が発生するおそれがあります。車体が触れないように注意してください。

準備作業

1. 接続する他の車両のバッテリー電圧が 12 ボルト (V) であるか確認します。電圧値はバッテリーに記載されています。
2. 電源供給する車両のエンジンをストップさせておきます。
3. 両方の車両の電装品のスイッチを、全てオフにします。

ジャンプ スタート ケーブル接続部

エンジン ルーム内に、ジャンプ スタート ケーブルを接続するためのバッテリー プラス端子があります。

バッテリー マイナス端子としてエンジン ルーム内のボディの専用接続部を使用します。

詳しい情報：

エンジン ルームの概要 (270 ページ参照) 。

バッテリー プラス端子のカバーを

開けます。

ジャンプ スタート ケーブルを端子に接続する

ジャンプ スタートを開始する前に、電源を供給する側の車両と電源を供給される側の車両でラジオなどの不必要な電装品を全てスイッチ オフにしてください。

1 ジャンプ スタート ケーブル接続部のカバーを開けます。
2 ブースター ケーブルのプラス側クリップ（赤色）を、供給側の車両のバッテリー プラス端子、またはブースター ケーブル接続用のプラス端子に接続します。
3 ジャンプ スタート ケーブルのもう一方のプラス側クリップを、バッテリーがあがった車両のバッテリー プラス端子、またはジャンプ スタート ケーブル接続用のプラス端子に接続します。
4 ジャンプ スタート ケーブルのマイナス側クリップを、供給側の車両のバッテリー マイナス端子、または適切なエンジン グラウンドかボディ グラウンドに接続します。
5 ジャンプ スタート ケーブルのもう一方のマイナス側クリップを、バッテリーがあがった車両のバッテリー マイナス端子、または適切なエンジン グラウンドかボディ グラウンドに接続します。

エンジン スタート

エンジンをスタートさせる際に、エンジン始動補助用スプレー剤などを使用しないでください。

1 供給側の車両のエンジンをスタートさせ、アイドリング回転数を少し高めにして、数分間作動させておきます。
2 スタートさせる車両のエンジンを、通常の要領でスタートさせます。

エンジンがかからなかった場合は、ジャンプスタート ケーブルを接続したまま数分間待って、放電したバッテリーにある程度充電させてからもう 1 度エンジンをスタートさせます。

3 両方の車両のエンジンを数分間作動させておきます。
4 接続したときと逆の手順（マイナス側から）でジャンプ スタート ケーブルを外します。

これは応急処置ですので、トヨタ販売店でバッテリーの点検を受けていただき、必要に応じて再充電を行ってください。

けん引

一般事項

けん引中は 2 台の車両の車間距離を一定（5m 以内）に保ち、ロープ中央に白い布（30×30cm 以上）を付けて、速度 30km/h 以下で走行してください。

けん引に関する法規を遵守してください。

安全に関する注意事項

警告

Toyota Supra Safety システムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれがあります。事故の危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

車両を搬送する

一般事項

車両をけん引してもらうことはできません。

安全に関する注意事項

注意

片方のアクスルを持ち上げて車両をけん引すると、車両が損傷するおそれがあります。車両は必ず荷台に載せて移動してください。

注意

車両を持ち上げて固定する際に、車両を損傷するおそれがあります。

- 車両は適切な装置で持ち上げてください。
- けん引フック、ボディ部分またはシャシー部分を使って車両を持ち上げたり、固定したりしないでください。

車両を動かす

路上で動かなくなった車両を危険領域から遠ざけるために、短い距離だけ移動させることができます。

車両を動かすか、移動させます(126 ページ参照)。

レッカー車

車両は必ず荷台に載せて移動してください。

他の車両のけん引

一般事項

必要に応じてハザード フラッシャーを点滅させます。

安全に関する注意事項

警告

けん引する車両の許容総重量がけん引される車両の許容総重量より軽い場合は、けん引フックが破損したり、走行動作を制御できなくなるおそれがあり、事故の危険があります。けん引する車両の許容総重量がけん引される車両の許容総重量より重いことを確認してください。

⚠ 注意

けん引バーやけん引ロープを間違って固定した場合、他の車両部分が損傷するおそれがあります。けん引バー / けん引ロープはけん引フックに正しく固定してください。

けん引バー

けん引される車両とけん引する車両のけん引フックは、同じ側に取り付けてください。

やむを得ずバーに角度が付いた状態で使用するときは、次の点に注意してください：

- カーブを曲がるときに、動きが制限されます。
- けん引バーに角度がつくことにより、車両に横方向の力が加わります。

けん引ロープ

けん引車両が発進するときには、けん引ロープがピンと張った状態になるようにしてください。

- スムーズなけん引を可能にするナイロン製ロープまたはナイロン製ベルトを使用してください。
- けん引ロープは、ねじれないように固定します。
- けん引フックとけん引ロープが固定されているか定期的に点検します。
- けん引速度が 50km/h を超えないようにしてください。
- けん引距離が5km を超えないようにしてください。
- けん引車両が発進するときには、けん引ロープがピンと張った状態になるようにしてください。

けん引フック

一般事項

ねじ込み式のけん引フックは、常に車両に載せておいてください。

けん引フックは車両の前後どちらにも取り付けることができます。

けん引フックは、ツール キット (282 ページ参照) の中にあります。

けん引フックを使用する場合は、以下の注意事項を守ってください：

- 必ず車両に付属のけん引フックを使用するようにしてください。
- けん引フックは、時計回りに少なくとも 5 回転分、しっかりとねじ込みます。必要に応じて、適切な物を使用して締め付けます。
- 使用後、けん引フックを反時計回りに回して外します。
- けん引フックは固い路面でのけん引にのみ使用してください。

- 車両をけん引フックで持ち上げるなど、けん引フック側面に高い負荷がかからないようにしてください。
- けん引フックが固定されているか定期的に点検します。

安全に関する注意事項

⚠注意

けん引フックを指示に従って使用しなければ、車両またはけん引フックが損傷するおそれがあります。けん引フックの使用上の注意に従ってください。

けん引フックのネジ

取付け口を出すために、カバーの縁のマーク部分を押してください。

マークの代わりに開口部があるカバーの場合、開口部からカバーを引き出します。

けん引によるエンジン スタート

車両のけん引によるエンジン スタートをしないでください。

必要に応じてエンジンをジャンプスタートで始動してください(296 ページ参照) 。

始動不良の原因と修理については、トヨタ販売店にご依頼ください。

お手入れ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

洗車

一般事項

ボンネットを開けてフロント ウィンドウの下部領域から異物（木の葉など）を定期的に取り除いてください。

特に冬期はこまめに洗車してください。しつこい汚れや路面にまかれた塩などが付着するため、車体の損傷を引き起こす可能性があります。

安全に関する注意事項

警告

洗車する際にフューエル リッドを開けたままにしておくと、損傷する可能性があります。損傷が発生する危険があります。洗車する前には、フューエル リッドを閉めます。フューエル リッド後ろの汚れは、布で拭き取ります。

スチーム ジェット クリーナーと高圧洗浄水

安全に関する注意事項

注意

高圧洗浄水を使用して清掃する場合は、圧力が高くなりすぎたり、温度が高くなりすぎたりすると、さまざまな構成部品が損傷するおそれがあります。十分な間隔を取り、洗浄水を一箇所に長く当てないように注意してください。
高圧洗浄水に対する操作注意事項を守ってください。

間隔と温度

- 最高温度：60 ℃
- センサー、カメラ、シールおよびランプとの最小間隔：30cm

自動洗車機

安全に関する注意事項

⚠注意

高圧洗車機により、ガラス領域に水が浸入することがあります。損傷が発生するおそれがあります。高圧洗車機を使用しないでください。

⚠注意

自動洗車機の不適切な利用の場合、車両に損傷が発生するおそれがあります。以下の注意事項に注意してください：

- 塗装の損傷を防止するため、布製ブラシの洗車機、または柔らかい素材のブラシ付きの洗車機を使用してください。
- ボディの損傷を防止するため、ガイド レールの高さが 10cm より高い自動洗車機は使用しないでください。
- タイヤおよびリムの損傷を防止するため、ガイド レールの最大タイヤ幅を確認してください。
- ドア ミラーの損傷を防止するため、ドア ミラーを折りたたんでください。
- ワイパー システムの損傷を防止するため、ワイパーおよび必要に応じてレインセンサーを作動解除してください。

自動洗車機に入れる

■ 安全に関する注意事項

⚠注意

作動スタンバイがオフになると、自動的にセレクター レバー ポジションがPになります。損傷が発生するおそれがあります。自動洗車機では作動スタンバイをオフにしないでください。

■ 一般事項

自動洗車機では車両が自由に動けることが必要です。

車両を動かすか、移動させます(126 ページ参照)。

一部の自動洗車機では、車両から離れる必要があります。セレクター レバー ポジションが N のとき、車両を車外からロックすることはできません。車両をロックしようとすると、ブザーが鳴ります。

自動洗車機から出す

電子キーが車内にあることを確認します。

走行スタンバイ(43 ページ参照)をオンにします。

ライト

濡れたライトを乾いた布でこすったり、研磨剤や溶剤、またはアルコールを含むクリーニング洗剤を使用しないでください。

昆虫などの汚れは、洗剤で洗って水で流します。

凍結している場合は、解凍スプレーなどで溶かしてください。ア

イス スクレーパーなどの鋭利な器具は使用しないでください。

洗車後

洗車後は、ブレーキの制動力が一時的に低下している可能性があるため、軽くブレーキをかけて乾かしてください。ブレーキをかけたときに発生する熱により、ブレーキ ディスクとブレーキ パッドが乾かされて、腐食から保護されます。

条痕による視認性の低下を防ぎ、ワイパー異音やワイパー ブレードの摩耗を低減するために、ウィンドウ上の残留物は完全に取り除いてください。

車両のお手入れ

カー ケア製品

安全に関する注意事項

警告

クリーナーには、人体に悪影響を与えるおそれのある成分が含まれている場合があります。けがをする危険があります。車内の清掃の際は、ドアまたはウィンドウを開けてください。車両洗浄用以外のクリーナーは使用しないでください。容器に記載された注意事項を遵守してください。

塗装

一般事項

定期的なお手入れは、安全性およびお客様のお車の価値を維持することにつながります。空気汚染または樹木のヤニや花粉などの自然による汚れが目立つ周辺環境では、車両の塗装に悪影響が及ぶおそれがあります。お手入れの頻度と程度を環境条件に合わせて調整してください。

あふれ出た燃料、オイル、グリースまたは鳥の糞などの腐食性物質が付着した場合は、塗装の侵食や変色を防止するために、すぐに取り除いてください。

つや消し塗装

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときは中性洗剤を使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- ワックスや研磨剤などは絶対に使用しない

安全に関する注意事項

警告

車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業を行うと、レーダー センサーの故障や異常を招き、安全性に問題が生じるおそれや、事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。レーダーセンサー装備車の場合、バンパーの塗装または塗装の補修は、必ずトヨタ販売店に依頼してください。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

次のことをお守りください。

●次のような場合は、ただちに洗車する

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修する

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管する

特に、つや消し塗装は次のことにもご注意ください。

●塗装への付着物はできるだけ早く拭き取る。ウォッシャー液やアルカリ性の液体などが付着したまま放置すると、付着部分の塗装が変質し、跡が残るおそれがあります。

●ワックスがけやボデーコートをしない。ボデーの質感が変化したり、塗装にムラができるおそれがあります。

レザーのお手入れ

定期的に布や掃除機でレザーのほこりを取り除いてください。

そうしないと、ほこりやちりがレザーの細かい孔やしわをこすり、表面を激しく摩耗させたり、通常より早めに傷つけたりします。

衣服などによる色移りを防ぐために、レザーは約 2 ヶ月ごとにクリーニングおよびお手入れしてください。

明るい色のレザーは汚れが目立つため、頻繁に汚れを落としてください。

汚れや油分が付着すると、徐々にレザー表面の保護膜を傷める場合があるので、レザー保護剤を使用してください。

合成皮革のケア

合成皮革は湿らせたマイクロファイバー製クロスで定期的に拭き、掃除機でほこりやゴミを吸い取ってください。

ケアを怠ると、ほこりやゴミが合成皮革の細かい孔やしわをこすり、表面を激しく摩耗させ、通常より痛みが早くなります。

しつこい汚れには、湿らせた柔らかいスポンジまたはマイクロファイバー製クロスと適切な車内クリーナーを使用してください。

日焼け止めクリームなどの腐食性物質が付着した場合は、合成皮革の変質や変色を防ぐために、すぐに取り除いてください。

布製部品のお手入れ

一般事項

定期的に掃除機でクッション部分

のほこりを取り除いてください。

飲み物のしみなどのしつこい汚れは、柔らかいスポンジまたはマイクロファイバー製の布と適切なインテリア クリーナーをご使用ください。

クッション部分は、縫い目を含め全体の表面を掃除するようにしてください。強くこすらないようにしてください。

安全に関する注意事項

⚠ 注意

衣服などのマジック テープが外れていると、シート カバーを傷つけるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。マジック テープが閉じられているか確認してください。

専用部品のお手入れ

アルミホイール

車両の清掃には、必ず pH 値 5 ～ 9 の中性のホイール クリーナーを使用してください。粗いクリーニング剤や 60 ℃以上のスチーム ジェット クリーナーを使用しないでください。メーカーの注意事項を遵守してください。

腐食性、酸性、アルカリ性のクリーニング剤は、ブレーキ ディスクなどの隣接する構成部品の保護コーティングを損なうおそれがあります。

清掃後、軽くブレーキをかけて乾かしてください。ブレーキをかけたときに発生する熱により、ブレーキ ディスクとブレーキ パッドが乾かされて、腐食から保護されます。

クロム メッキの表面

特に融雪塩がかかった場合には、クロム メッキの表面をたっぷりの水で、必要があれば洗剤を混ぜて丁寧に洗浄します。

ラバー製部品

周辺環境の影響により、ラバー製部品の表面が汚れたり、光沢が失われたりすることがあります。清掃する場合は、必ず水と適切なカー ケア製品を使用してください。

特に負荷にさらされているラバー製部品は、定期的にラバー ケア剤でお手入れしてください。ラバーシールのお手入れには、シリコンを含んだカー ケア製品は使用しないでください。異音が発生したり、損傷するおそれがあります。

ワイパー ブレード

ワイパーブレードは、ワイパー ウォッシャーシステムを使用すると清掃することができます。

ワイパー効果の低下を防ぐために、追加的に手作業でブレードを洗浄しないでください。

プラスチック部品

注意

シンナー、コールド クリーナー、燃料などのようなアルコールまたは溶剤を含むクリーナーを使用すると、表面が損傷するおそれがあります。手入れには、マイクロファイバー製の布をご使用ください。必要に応じて布を軽く水で湿らせてください。

手入れには、マイクロファイバー製の布をご使用ください。

必要に応じて布を軽く水で湿らせてください。

ルーフ内張りを濡らさないでください。

シート ベルト

警告

合成洗剤はシート ベルトの素材を傷つけるおそれがあります。シート ベルトの保護効果が低下します。けがをする危険または生命の危険があります。
シート ベルトの清掃には、薄い石けん水のみを使用してください。

シート ベルトが汚れていると巻き取りに支障をきたし、事故の際に十分な効果が発揮できず、非常に危険です。

必ず薄い石けん水で、シート ベルトを取り付けたままの状態で清掃します。

シート ベルトは必ず乾いた状態で巻き取ってください。

カーペット / フロア マット

警告

運転席足元スペースに物があると、ペダル ストロークが制限されたり、ペダルを床まで踏み込むことが阻止されたりするおそれがあります。事故の危険があります。車内では物を固定して、運転席足元スペースに入り込まないように収納してください。ご使用の車両に適切であり、フロアに確実に固定することのできるフロア マットを使用してください。ずれやすいフロアマットを使用しないでください、フロア マットを複数重ねないでください。ペダル用のスペースが十分空いていることを確認してください。フロア マットは、清掃などで取り外した後、再び確実に取り付けるよう注意してください。

車内を清掃する際は、フロア マットを取り外してください。

フロア マットの汚れがひどい場合には、マイクロファイバー製の布と水か、繊維用クリーナーで汚れを落とします。フロア カーペットが毛玉になってしまうおそれがありますので、走行方向に向かって前後にこすってください。

センサー / カメラ レンズ

センサーまたはカメラ レンズを掃除をする際は、ガラス クリーナーで少し湿らせた布を使ってください。

ディスプレイ、画面およびヘッドアップ ディスプレイの保護スクリーン

注意

合成洗剤、液体や水気のあるものは、種類を問わずディスプレイおよび画面を損傷するおそれがあります。損傷が発生するおそれがあります。手入れには、清潔な、帯電防止のマイクロファイバー製の布をご使用ください。

注意

ディスプレイの表面は、不適切な清掃により傷つくおそれがあります。損傷が発生するおそれがあります。あまり強く力を入れないでください。また傷が付きやすい素材のものは使用しないでください。

お手入れには、乾いていて清潔な帯電防止マイクロファイバー製クロスをご使用ください。

ヘッドアップ ディスプレイの保護スクリーン (144 ページ参照) はマイクロファイバー製の布と市販の家庭用洗剤で清掃してください。

長期保管

車両を 3 ヶ月以上使用せずに長期保管する場合は、特別な処置が必要となります。詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

参考情報 6

6-1. 参考情報

メンテナンスデータ..... 310
認証情報..... 311

メンテナンスデータ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、法律と規定に従ってください。

一般事項

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	52

エンジンオイル

指定銘柄
Toyota Genuine Motor Oil SN 0W-20 C5 for GR Toyota Supra

指定エンジンオイル規格
BMW Longlife-17 FE+ 規格適合品

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
1.0

認証情報

情報

次の注記は、車両に搭載されている無線通信機、車両情報統合システムおよび通信デバイスに関するものです。

この車両の無線通信機は RE 指令 2014/53/EU の基本要件と関連条項に適合しています。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ヘッドユニット

Japan

204-460018

This product has been approved for Radio Law homologation in each country. Please do not peel off the seal pasted to product which is the proof of homologation. This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid).

Japan

中央レーダーセンサー

Japan

R 202 -LSF030

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

Translation: This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

Translation: This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

電子キー

Japan

202–LSG003

Model: ID21A

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。

本製品本体のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。

技術基準適合証明などが無効となった状態での使用は電波法で禁止されております。

This device is granted pursuant to the Japanese Radio Law (電波法)

This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

側方レーダーセンサー

Japan

203-JN0746

Hereby, APTIV, 42367 Wuppertal declares that this B3TR is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 2014/53/EU (RED). The original delegation of conformity can be accessed at the following link www.aptiv.com/automotive-homologation

frequency band: 76-77 GHz

Maximum Output Power: 30 dBm (1,0 W)

スマートキーシステム

Japan

The BMW G3x NFC radio product fulfils the electric field intensity requirements for extremely low power and therefore is placed on the market without licence.

テレマティクスコミュニケーションボックス

Japan

This device is granted pursuant to the Japanese Radio Law (電波法) and the Japanese Telecommunications Business Law (電気通信事業法)

This device should not be modified; otherwise the granted designation number will become invalid.

The antenna max gain performance shall be under the limit of 3dBi according to the article 49-6-5.

タイヤ空気圧警報（TPM）

Japan

TSSRE3A:

203-JN0732

さくいん

五十音順さくいん 316

五十音順さくいん

あ

RSC ランフラット タイヤ システム コンポーネント、ランフラット タイヤを参照.....254
ISOFIX チャイルド シート マウント.....108
アイドリングストップ.....114
明るさ、コントロール ディスプレイ.59
明るさ調節、メーターパネル.....153
アクセサリーおよび部品.....5
アクティブ ボンネット、ポップアップ フードを参照.....165
アクティブディファレンシャル.....192
ASSIST ボタン、レーダークルーズコントロールを参照.....195
足元マットのお手入れ.....306
アダプティブ ブレーキ アシスト.....189
アダプティブ ヘッドライト.....149
アダプティブバリアブルサスペンション.....215
新しいホイールとタイヤ.....252
Apple CarPlay、車両との接続.....69
圧力、タイヤ.....248
アラーム システム.....86
アラーム、意図しない.....88
アルミホイール、お手入れ.....305
安全な座り方.....90
安全なブレーキ操作.....239
アンチロック ブレーキ システム ABS.....188

い

イグニッション キー、電子キーを参照.....72
いざというときに.....292
位置測定、車両位置.....58
一般設定.....56
一般的な運転ガイド.....237
意図しないアラームを防止する.....88
インダクティブ充電、スマートフォン、ワイヤレス充電トレイを参照.....225
インテリア.....224
インテリアライト.....153
インテリジェントキー.....80

う

ウィンター タイヤ.....253
ウィンター タイヤの速度制限.....253
ウィンター タイヤのトレッド.....251
ウィンドウ.....88
ウィンドウ ウォッシャー、ワイパー システムを参照.....120
ウィンドウ ウォッシャー液、ウォッシャー液を参照.....278
ウィンドウの曇り.....220
ウィンドウの結露.....220
ウィンドウの結露および曇りを取り除く.....220
ウェルカム ライト.....149
ウォッシャー
タンク容量.....310
ウォッシャー タンク.....278
ウォッシャー ノズル.....123
ウォッシャー液.....278
ウォッシャー液、ウォッシャー液を参照.....278
運転席および助手席用シート ベルト警告.....99

え

エア コンディショナー.....218
エアバッグ.....155
エアバッグ作動.....164
エアバッグ作動解除.....164

ACC、レーダー クルーズ コントロールを参照 195
ABS アンチロック ブレーキ システム 188
越冬、車両の長期保管を参照 307
LED の交換、ランプとライトを参照 283
LED ヘッドライトの交換、ランプとライトを参照 283
エンジン オイル フィラー キャップ 275
エンジン オイル温度 137
エンジンオイル交換 277
エンジン オイルの補給 275
エンジン スタート、ジャンプ スタート 296
エンジン スタート、走行スタンバイを参照 43
エンジン ルーム 270
エンジン、アイドリングストップ 114
エンジンオイル
メンテナンスデータ 310
エンジンのスタート、走行スタンバイを参照 43
エンジンのストップ、走行スタンバイを参照 43
エンジン冷却水 277
エンジン冷却水温度 137
エンジンを切る、走行スタンバイを参照 43

お

オイル レベルの電子的な点検 274
オイル（エンジンオイル） 310
オイル交換 277
オイル交換周期、サービス時期の表示を参照 138
オイルの補給 275
AUTO プログラム、オートエアコン 219
オート ライト コントロール 147
オートエアコン 217
オートマチック クルーズ コントロール、レーダークルーズコントロールを参照 195
オートマチックトランスミッション 124
オートマチックハイビーム 150
オートロック 85
オールシーズン タイヤ、ウィンター タイヤを参照 253
お客様の安全のために 5
オクタン価、ガソリンのグレードを参照 273
お子様の安全について 104
お子様の正しい乗車位置 105
お手入れ、洗車を参照 301
お手入れ、ヘッドアップ ディスプレイ 307
オプション装備、車両装備を参照 4
重い荷物を積む 231
音声入力システム 53
音声認識システム 53
温度、エンジン オイル 137
温度、オートエアコン 218
温度インジケーター、外気温度を参照 138

か

カー ケア 303
カー ケア製品 303
CarPlay、車両との接続 69
カーペットのお手入れ 306
外気温度 138
快適な温度調節 216
開閉 72

鏡 99
角度、バックレスト 93
カスタマイズ設定、スポーツモードスイッチを参照 129
加速アシスタント、ローンチ コントロールを参照 128
ガソリン 272
ガソリンのグレード 273
カップホルダー、ドリンク ホルダーを参照 229
カメラ レンズのお手入れ 306
カメラ、車両のセンサーを参照 38
カメラ、リア ビュー カメラ 209
カメラベースのアシスト システム、Toyota Supra Safety を参照 166
カメラベースのクルーズ コントロール、レーダークルーズコントロールを参照 195
換気、パーキング ベンチレーションを参照 221
缶ホルダー、ドリンク ホルダーを参照 229

き

ギア チェンジ、オートマチックトランスミッション 124
キー、機械式 78
キーレス 80
機器リストを表示する 70
機器を管理する 70
機器を接続する 66
キック ダウン、オートマチックトランスミッション 124
機能障害、電子キー 77
希望速度、レーダークルーズコントロールを参照 195
キャタライザー、高温になる排気装置を参照 237
休憩の勧め、注意喚起アシスタントを参照 187
給油 246
メンテナンスデータ 310
給油口 247
緊急ブレーキ機能（クリアランスソナー）、緊急ブレーキ機能を参照 207
緊急ブレーキシグナル 186

く

空気圧、タイヤ 248
空気圧コントロール、タイヤ空気圧警報を参照 260
クーラント 277
クーラント温度 137
下り坂 240
クリアランスソナー 203
グローブ ボックス 228
クロム メッキの表面、お手入れ 305

け

警告ウィンドウ、コントロール ディスプレイ 59
警告メッセージ、車両メッセージを参照 132
傾斜センサー 87
携帯電話を接続する 66
けん引 297
けん引、けん引を参照 297
けん引バー 299
けん引用アイ 299
けん引用ナイロン製ロープ 299
けん引用ロープ 299
けん引ロープ 299
検知物表示、リア ビュー カメラ 211

こ

高温になる排気装置 237
交差点の通行警告 212
後方車両への接近警報..... 184
コーナリング ライト 150
故障表示、車両メッセージを参照 ... 132
故障メッセージ、車両メッセージを参照 132
個人設定、ドライバー プロファイルを参照..... 61
個人データの削除 60
個人データを削除する..... 60
個人プロファイル、ドライバー プロファイルを参照 61
固定バンド、ラゲッジ ルーム..... 232
固定ベルト、ラゲッジルーム内の固定用フックを参照 231
固定用ツール、ラゲッジルーム内の固定用フックを参照..... 231
誤報、意図しないアラームを防止するを参照..... 88
ゴム製部品のお手入れ..... 305
小物入れ..... 228
コンディション ベースド サービス CBS 280
コントローラー 48
コントロール ディスプレイ..... 47
コントロール ディスプレイ、設定..... 56
コントロール ディスプレイの設定..... 56
コントロール ディスプレイの表示言語を設定する 58
コンビ スイッチ、ワイパー システムを参照..... 120
コンビスイッチ、ターン インジケーターを参照..... 119
コンプレッサー 256

さ

サービス、ロードサイドアシストを参照 296
サービス時期、コンディション ベースド サービスを参照 280
サービス時期の表示 138, 280
再生タイヤ..... 253
最大冷房..... 218
サイド エアバッグ..... 155
サイド ブレーキ..... 117
サイドミラー..... 99
再利用、リサイクル 281
坂道発進アシスト、ヒルスタートアシストを参照..... 189
下げる、助手席側ドア ミラー、リバース連動機能を参照 101
サスペンション設定、スポーツモードスイッチを参照 129
作動 / 作動解除..... 164
作動スタンバイ、停止状態、走行スタンバイ..... 41
サマー タイヤのトレッド 250
サラウンド ビューなしの横方向パーキングエイド..... 208
サン バイザー..... 224

し

シート バック レスト..... 91
シート ヒーター..... 103
シート ベルト..... 94
シート ベルトのお手入れ 306
シート、メモリー機能を参照..... 102
シートおよびヘッドレスト..... 90
GPS 位置測定、車両位置..... 58
CBS コンディション ベースド サービス 280

シール剤、タイヤパンク応急修理キットを参照.....255
時刻.....57
自動洗車機.....301
自動防眩ドア ミラー.....100
自動防眩ルーム ミラー.....101
自動ロック.....85
自動ロック解除.....85
シフト ポジション インジケーター.139
車間距離コントロール付きクルーズ コントロール、レーダークルーズコントロールを参照.....195
車間警告、クリアランスソナーを参照.....203
シャシー番号、車台番号参照.....13
車線逸脱警告.....177
車線制限、警告.....177
車線はみだし警告.....177
車台番号.....13
車内検知機能.....87
車内の通信機器.....238
車両位置、車両位置測定.....58
車両キー、電子キーを参照.....72
車両故障、いざというときにを参照292
車両ステータス.....144
車両装備.....4
車両塗装.....303
車両のお手入れ.....303
車両の確認シグナル.....85
車両のセンサー.....38
車両の長期保管.....307
車両の電子キー、バッテリーの交換..76
車両バッテリー.....284
車両メッセージ.....132
車両ロック時の車外ライト.....75
車両ロック時のルーム ライト.....75
ジャンプ スタート.....296
ジャンプ スタート ケーブル接続部.296
ジャンプ スタート、ジャンプ スタートを参照.....296
充填圧力、タイヤ.....248
収納.....228
収納スペース.....228
収納場所.....228
出発時刻、パーキング ベンチレーション.....223
出力表示、スポーツ表示を参照.....143
手動操作、フューエル リッド.....248
手動調節、送風口.....220
手動の送風口調節.....220
Joystick、オートマチックトランスミッション.....124
省エネルギー、シフト ポジション インジケーターを参照.....139
使用済みのバッテリーの廃棄.....285
衝突被害軽減ブレーキ.....186
照明.....147
照明、車内.....153
照明、メーター パネル.....153
初期化する、タイヤ空気圧警報 (TPM).....263
除湿、エア コンディショナーを参照.....218
助手席エアバッグ、表示灯.....165
助手席エアバッグ用キー スイッチ..164
助手席側ドア ミラーを下げる、リバース連動機能を参照.....101
シンボルと表示.....4

す

推奨する燃料.....272
推奨タイヤの識別.....253
推奨タイヤ銘柄.....253
スイッチ、運転席まわりを参照.....34
スクリーン.....47

スクリーン ミラーリング、接続.....69
スタート、走行スタンバイを参照.....43
スタート / ストップ ボタン.....114
ステアリング ホイール、ボタン.....34
ステアリング ホイール、メモリー機能を参照.....102
ステアリング ホィールのシフト パドル.....124
ステアリング ホイールの調節.....101
ステアリングのボタン.....34
スノー チェーン.....260
スパナ、ツール キットを参照.....282
スピーチ コントロールシステム.....53
全てのメッセージのリスト.....56
スポーツ サスペンション、アダプティブ バリアブルサスペンションを参照.215
スポーツ プログラム、オートマチックトランスミッション.....124
SPORT、スポーツモードスイッチを参照.....129
スポーツ表示.....143
スポーツモードスイッチ.....129
スマートエントリー 80
スマートキーシステム.....80
スマートフォン用充電トレイ、ワイヤレス充電を参照 225
スマートフォン用ワイヤレス充電トレイ.....225
スマートフォンを充電する、ワイヤレス充電トレイを参照.....225
スマートフォンをスピーチ コントロールで操作する 55
スマートフォンを接続する.....66
スモール ライト.....148
3 ターン シグナル.....119
座り方.....90

せ

清掃、ヘッドアップ ディスプレイ..307
セーフティ システム、エアバッグを参照.....155
セーフティ システム、Toyota Supra Safety を参照.....166
積載重量.....230
接続、スクリーン ミラーリング.....69
接続する、モバイル機器.....66
設定、ロック / ロック解除.....84
設定可能な速度制限、マニュアルスピードリミッターを参照.....193
SET ボタン、レーダークルーズコントロールを参照 195
セレクター レバー、オートマチックトランスミッション 124
旋回予想線、リア ビュー カメラ 211
センサーのお手入れ 306
洗車 301
洗車機 302
センター コンソール.....36
セントラル ロック システム.....79

そ

走行 114
走行快適性.....215
走行スタンバイ、エンジン スタート.43
走行スタンバイ、停止状態、作動スタンバイ.....41
走行ダイナミクス用スイッチ、スポーツモードスイッチを参照.....129
走行モード、スポーツモードスイッチを参照.....129
送風口 221
速度制限、手動.....193
速度制限装置、マニュアルスピードリミッターを参照 193

ソケット.....224

た

ターン インジケーター、ターン インジケーターを参照.....119
ターン インジケーター、表示灯.....135
ターン インジケーター、ヘッドライト、パッシング ライト 119
ターン インジケーター、ランプの交換、ランプとライトを参照.....283
タイヤ シール剤、タイヤパンク応急修理キットを参照 255
タイヤ トレッド.....250
タイヤ パンク、走行 266
タイヤ パンク警告灯、TPM 264
タイヤ パンク時の走行について.....266
タイヤ パンクのメッセージ、TPM 264
タイヤ空気圧 248
タイヤ空気圧警報 (TPM).....260
タイヤ交換.....268
タイヤ修理キット、タイヤパンク応急修理キットを参照.....255
タイヤ状態表示 262
タイヤ設定.....261
タイヤの交換 252
タイヤの寿命 252
タイヤの使用限界、タイヤ.....251
タイヤの損傷 251
タイヤのパンクを修理する.....255
タイヤの保管 254
タイヤパンク応急修理キット.....255
タコメーター 136
単位 58

ち

チェーン.....260
チャイルド シート、お子様の安全についてを参照.....104
チャイルド シートのクラス、ISOFIX、適切な ISOFIX チャイルド レストレイント システムを参照 108
チャイルド レストレイント システム、お子様の安全についてを参照 104
チャイルド レストレイント システムの取付け 106
注意喚起アシスタント 187
注意事項.....4
駐車時の緊急ブレーキ機能、緊急ブレーキ機能（クリアランスソナー）.....207
中性クリーナー、アルミホイール...305
超音波センサー、車両のセンサーを参照 38
長期保管、車両.....307
調節、シートおよびヘッドレスト.....90
調節、メーターパネルの明るさ.....153
直接選択ボタン、プログラマブル ボタンを参照.....46

つ

2 ステージ ブレーキ ライト、緊急ブレーキシグナルを参照.....186
通信機器、車内.....238
ツーリスト機能、右側通行 / 左側通行を参照.....152
ツール 282
ツール キット.....282
つや消し塗装.....303

て

デイ ランニング ライト.....149
停止状態、作動スタンバイ、走行スタンバイ.....41
停車した車両下の凝縮水.....241

ディスプレイ.....47
ディスプレイ、画面.....307
ディスプレイ、画面のお手入れ.....307
ディスプレイ、画面の清掃.....307
ディファレンシャル ロック.....192
手入れ.....303
データ、個人データを削除するを参照.....60
データ保護、設定.....60
テール ゲート、トランク リッドを参照.....83
テール ライトの交換、ランプとライトを参照.....283
適切な使用.....5
適切な仕様のために.....5
デフロスト、ウィンドウの結露を参照.....220
添加剤、エンジン オイルの種類.....276
電球の交換、ランプとライトを参照283
点検周期表示、サービス時期の表示を参照.....138
点検整備.....280
点検整備時期、コンディション ベースドサービスを参照.....280
点検整備システム.....280
電源ソケット、ソケットを参照.....224
電源の遮断.....285
電子キー.....72
電子キー、機能障害.....77
電子キー、追加.....76
電子キー、内蔵キー.....78
電子キー、紛失.....76
電子キーによるコンフォート オープン.....74
電子キーによるコンフォート クローズ.....75
電子キーによるトランク リッド操作.75
電子キーによるロック.....74
電子キーによるロック解除.....73
電子キーの故障.....77
電子的なオイル計測.....274
電話を接続する.....66

と

ドア キー、電子キーを参照.....72
ドア ポケット.....229
ドア ミラー.....99
ドア ミラー、機能障害.....100
ドア ミラー、リバース連動機能.....101
ドア ミラーの警告灯、ブラインドスポットモニターを参照.....181
ドア ミラーの警告灯、リヤクロストラフィックアラートを参照.....212
ドア ミラーのライト、ブラインドスポットモニターを参照.....181
ドア ミラーのライト、リヤクロストラフィックアラートを参照.....212
凍結した路面、外気温度警告を参照138
凍結防止剤、ウォッシャー液を参照278
盗難防止装置、盗難防止用ホイール ボルトを参照.....268
盗難防止装置、ロック.....74
盗難防止用ホイール ボルト.....268
登録、モバイル機器、接続を参照.....66
塗装.....303
Toyota Supra Command.....45
Toyota Supra Command の操作原理.....45
Toyota Supra Safety.....166
ドライバー アシスト、Toyota Supra Safety を参照.....166
ドライバー プロファイル.....61
ドライバー、ツール キットを参照..282
ドライブのヒント、慣らし運転.....236
トラクションモード.....191

TRACTION、ダイナミック ドライビング.....191
トランク リッド.....83
トランスミッション ロックを電子的にロック解除.....128
トランスミッション、オートマチックトランスミッションを参照.....124
ドリンク ホルダー.....229
トルク表示、スポーツ表示を参照...143
トレッド、タイヤ.....250

な

内気循環モード.....219
内装.....224
内蔵キー.....78
慣らし運転.....236

に

荷物の固定.....231
荷物の積込みと固定.....231
荷物を積んで固定する.....231

ぬ

布製部品のお手入れ.....304

ね

ネット、ラゲッジ ルーム.....232
燃料.....272, 310
種類.....310
容量.....310
燃料計.....136
燃料の種類.....272
燃料の節約.....241

の

NORMAL、スポーツモードスイッチを参照.....129
飲み物用ホルダー.....229

は

パーキング ブレーキ.....117
パーキング ベンチレーション.....221
パーキング ライト.....149
パーキングヘルプライン、リア ビューカメラ.....211
パーツ交換.....282
廃棄、車両バッテリー.....285
排気装置.....237
ハイドロプレーニング.....239
ハイビーム.....120
ハザード フラッシャー.....295
はさみ込み防止、ウィンドウ.....89
バック レスト角度.....93
バック レスト幅.....94
バックミラー.....99
バッグ用フック.....232
パッシング ライト.....120
発進補助、ヒルスタートアシストを参照.....189
バッテリー、車両.....284
バッテリーの交換、車両の電子キー..76
バッテリーの廃棄.....285
バニティ ミラー.....224
パワー ウィンドウ.....88
パンク、タイヤ空気圧警報を参照...260
ハンド ブレーキ.....117

ひ

ビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール.....188, 189

非常信号灯.....295
非常停止表示板.....295
非常ロック解除、トランスミッション ロック.....128
非常ロック解除、フューエル リッド 248
左側通行、ヘッドライト調節.....152
日付.....58
フューエル キャップ.....247
フューエル リッド.....247
フューエル リッドの手動ロック解除 248
表示.....131
表示警告灯.....157
表示単位.....58
表示灯と警告灯.....133
標準装備、車両装備を参照.....4
標準表示、ヘッドアップ ディスプレイ 145
日よけ、サン バイザーを参照.....224
ヒルスタートアシスト.....189
VIN、車台番号参照.....13

ふ

VSC.....189
フィルター、マイクロ フィルターを参照 221
風量の手動調節.....220
風量、オートエアコン.....220
フック、ラゲッジルーム内の固定用フック を参照.....231
フット ブレーキ.....239
部品およびアクセサリー.....5
部品の交換.....282
フューズ.....286
ブラインドスポットモニター.....181
プラスチック部品、お手入れ.....306
プリクラッシュセーフティ.....168
プリクラッシュセーフティ（対歩行者・ 自転車）.....173
プリクラッシュセーフティ（対歩行者・ 自転車）.....168
ブリッジ、ジャンプ スタートを参照 296
Bluetooth 接続.....66
ブレーキ アシスト.....189
ブレーキ システム.....237
ブレーキ ディスクの腐食.....240
ブレーキ ディスクを慣らし運転する、ブ レーキ システムを参照.....237
ブレーキ パッドを慣らし運転する、ブ レーキ システムを参照.....237
ブレーキ操作の注意事項.....239
フロア カーペットのお手入れ.....306
フロアマット.....306
フロアマットのお手入れ.....306
プログラマブル ボタン、Toyota Supra Command.....46
プロファイル、ドライバー プロファイル を参照.....61
ブロワ、風量を参照.....220
フロント ウィンドウでの表示、ヘッド アップ ディスプレイを参照.....144
フロント エアバッグ.....155
フロント シート.....91
フロント フォグ ライトの交換、ランプ とライトを参照.....283
フロント ヘッドレスト.....99

へ

ヘッドアップ ディスプレイ.....144
ヘッドアップ ディスプレイ、お手入れ 307

ヘッドアップ ディスプレイ、標準表示 145
ヘッドアップ ディスプレイ、メモリー機能を参照 102
ヘッドライト 120
ヘッドライト ウォッシャー システム、ワイパー システムを参照 120
ヘッドライト ガラス 283
ヘッドライト内の湿気、ヘッドライト ガラスを参照 283
ヘッドライトの交換、ランプとライトを参照 283
ヘッドレスト、フロント 99
ヘッドレストおよびシート 90
ベルト、シート ベルトを参照 94
ベルト着用、シート ベルトを参照 94

ほ

ホイールクリーナー、アルミホイール 305
ホイールとタイヤ 248
ホイールとタイヤの交換 252
ホイールの交換 252, 268
方向指示、表示灯 135
方向指示灯 27, 119
方向指示レバー 27, 119
ホーム ライト 149
ホーム ライトをオンにする 75
ホーン 34
保管、車両の長期保管を参照 307
補給するエンジン オイルの種類 276
補給するオイルの種類、エンジン ... 276
歩行者保護、アクティブ 165
保護機能、ウィンドウ、はさみ込み防止を参照 89
保証 5
補足テキスト メッセージ 133
ポップアップフード 165
ボトル ホルダー、ドリンク ホルダーを参照 229
ホルダー、ドリンク ホルダーを参照 229
ボンネット 271

ま

マイクロ フィルター 221
マスター キー、電子キーを参照 72
マニュアル モード、オートマチックトランスミッション 124
マフラー、排気装置を参照 237
マルチファンクション ステアリング ホイール、ボタン 34

み

右側通行、ヘッドライト調節 152
水、停止した車両下の凝縮水を参照 241
水の中を通過する 239
ミラー 99
ミラー、メモリー機能を参照 102

め

メーター パネル 131
メーター パネル照明 153
メーター パネルの選択リスト 139
メッセージ 56
メッセージ、車両メッセージを参照 132
メニュー、メーター パネル、選択リストを参照 139
メニューの操作、Toyota Supra Command を参照 45
メモリー機能 102
メンテナンス、サービス時期の表示を参照 138

メンテナンス時期の表示.....280

も

MODE ボタン、レーダークルーズコントロールを参照.....195
文字と記号を入力する.....50
モバイル機器を管理する.....70
モビリティシステム、タイヤパンク応急修理キットを参照.....255

ゆ

USB ポート 68
USB ポート、車両での位置 225

よ

横方向交通、警告 212

ら

ライト.....147
ライトのお手入れ 302
ライトの交換、ランプとライトを参照 283
ラゲッジ ルーム.....230
ラゲッジ ルーム、収納スペース.....232
ラゲッジ ルームの収納スペース.....232
ラゲッジ ルームに積み込む、荷物を積むを参照.....231
ラゲッジルーム内の固定用フック ...231
ラバー製品のお手入れ.....305
ランバー サポート.....94
ランプスイッチ 147
ランプとライト 283
ランフラット タイヤ 254
ランフラット タイヤ、タイヤ.....254
ランフラット タイヤ、ランフラット タイヤを参照 254
ランフラット タイヤの識別表示.....254

り

リア デフォッガー.....221
リア ビュー カメラ.....209
リア フォグ ライト.....152
リア フォグ ライトの交換、ランプとライトを参照 283
リサイクル.....281
RES CNCL ボタン、レーダークルーズコントロールを参照.....195
リセット、タイヤ空気圧警報 (TPM) 263
リセットする、タイヤ空気圧警報 (TPM) 263
リバース連動機能、ドア ミラー.....101
LIM ボタン、マニュアルスピードリミッターを参照 193
リモート コントロール 72
リモコン キー、電子キーを参照.....72
リヤクロストラフィックアラート ...212

る

ルーフ内張り 37
ルーム ライト.....153

れ

冷却水 277
冷却水温度.....137
冷却水の充填量.....278
冷却水レベル.....278
レイン センサー.....121
レースコースの走行 241
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....195

レーダー センサー、車両のセンサーを参照.....38
レーン ディパーチャー ウォーニング（車線逸脱警告システム）.....177
レザーのお手入れ.....304

ろ

ロードサイドアシスト.....296
ロードサイドアシスト、ロードサイドアシストを参照.....296
ロービーム.....148
ローンチ コントロール.....128
ロック、設定.....84
ロック、ホイール ボルト.....268
ロック解除、自動.....85
ロック解除、設定.....84
ロック解除時のウェルカム ライト.....73
ロック解除時のシグナル、確認シグナルを参照.....85
ロック解除時の車外ライト.....73
ロック解除する、開閉を参照.....72
ロック解除ボタン、オートマチックトランスミッション.....124
ロックする、開閉を参照.....72
路面凍結警告、外気温度警告を参照138
RON、ガソリンのグレード.....273

わ

ワイパー、ワイパー システムを参照.....120
ワイパー システム.....120
ワイパーブレードの交換.....282
ワイパーを起こす位置.....123
ワイヤレス充電、スマートフォン、ワイヤレス充電トレイを参照.....225

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地　〒450－8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

M 9A086
Printed in Germany-2022年 3 月 1 日
2022年 3 月 7 日 初版
スープラ